

大正六年九月十四日 第三種郵便物認可・昭和十六年八月廿五日印刷納本・昭和十六年九月一日發行（毎月一回一日發行）

建築と社會

9

日本建築協會

第24輯 第9號

昭和16年9月1日

國土防空強化も實施

急げ施設の完璧

セメント工物への偽装

コリケン

防空用セメント着色顔料

コリケン

防空用偽装液セメント外装及スレート煉瓦用

全小西勝太郎商店 小西理化學研究所
大阪市東區平野町一丁目・工場 兵庫縣伊丹市



ルーフィング・フェルト公定價格

昭和15年10月15日

種 別	要 項	重 量	面 積	製 造 業 者 格 販 賣 價 格	卸 賣 業 者 格 販 賣 價 格	小 販 業 者 格 販 賣 價 格
アスファルト ルーフィング		20疋	21平方米	圖 4.70	圖 5.20	圖 5.70
		25疋	ク	5.85	6.45	7.10
		30疋	ク	7.05	7.75	8.50
アスファルト フェルト		10疋	ク	3.15	3.47	3.80
ター フェルト		10疋	42平方米	2.85	3.14	3.45

イ、本表價格ハ、ストレートアスファルト又ハコールタールノ浸透量原紙重量ノ80%以上ノモノノ價格トス

ロ、製造業者及卸賣業者販賣價格ハ買主店先渡價格トス
但シ樺太、朝鮮、臺灣、南洋群島、關東洲、滿洲又ハ支那向ノ場合ニ於テハ賣主最寄港船積渡價格トス

ハ、包裝費及荷造費ハ賣主負擔トス

(砂付便利瓦及特許ギルソイド共從來通り)



三星印砂付便利瓦・三星印ルーフィング及フェルト

專賣特許ギルソイド防水工事責任施工(陸屋根地下室)

アスファルト應用各種加工品・床舗工事三星サイドリユーム

耐火・耐熱・防音・保温・一石綿代用品一 三星岩綿各製品

大阪田島應用化工株式會社

營業所 大阪市北區中之島五丁目三〇

電話土佐堀 { 1323
5682
6221
7294

田島應用化工株式會社
三星産業株式會社

日本岩綿工業株式會社
三星セメント工業株式會社

日本木材化學工業株式會社
合資會社宮城アスファルト研究所

建 築 と 社 會

第24輯 第9號 昭和16年9月發行

九 月 號

目 次

青少年訓練道場に就いて.....	北 村 春 吉	(1)
醫學上より觀たる青少年訓練所.....	深 山 杲	(4)
興亞拓植訓練道場の建築に就て.....	竹 内 政 治	(8)
惟神道場建築所感(日本精神的建築構圖).....	禿 筆 生	(13)
防空と建築.....	岩 田 恒	(15)
防火について.....	井 上 新 二	(29)

茶室巡り 第9回.....京阪沿線の茶室・1・八幡の松花堂..... 岡 田 孝 男.....(32)

☆紫 烟 室☆

夜學なき夜.....	堀 口 甚 吉	(35)
洋家具の話.....	平 尾 敏 也	(36)
防空建築に就いて.....	富 田 清	(38)

☆新 建 築 欄☆

青少年訓練所(私市興亞拓植訓練道場、推神道場、石山道場、立里荒神山ノ家).....大和路の茶室 (岡田)		
會 報.....		(41)

會

告

(九月見學會開催)

下記の通り堺方面の見學會を催します。内容を夫々御熱覧の上奮つて御申込あらん事を

1. 時 9月21日(日)午後1時(集會時間勵行、晴雨不論)
1. 集合所 未定(参加申込者に改めて通知す)
1. 見學先 下記四ヶ所の内三ヶ所を決定し参加者に改めて通知す。
1. 會費 金1圓也(振替大阪39975番へ拂込願ひ度)南宗寺茶室及妙國寺拜觀並施餓鬼料等(交通費自辨の事)
1. 申込 往復はがきにて(會費1圓を拂込)返信を白紙にして至急御申込下さい。人員制限の場合は先着順に切りります

1. 官幣大社住吉神社(大阪市住吉區住吉町)

皇軍勇士の武運長久祈願と參拜

祭神は既に御承知の通り第1宮より第4宮迄

底筒男命、中筒男命表筒男命、神功皇后にまし攝社、本社五十有餘鎮座せらる。御社殿は世に有名なる所謂住吉造りと稱せられますが、燈臺下暗しの響で其由緒御神徳、御田植等特殊の神事には疎い向が多いかと思ひます。幸ひ當日は神官より此れ等に就き特別御講演を願つて居ります。

2. 大阪刑務所(南海沿線堺金岡驛西)

刑務所見學は誠に稀でありまして容易に機會ありませんでしたが特に内諾を得ましたので下の條項に依り希望の方は氏名年齢資格職業記入直ぐ御申込下さい。連名の上正式願書提出許可を受けます。但し特殊の所ですから種々の都合で當日不許可の場合あるやも計り難く此の點豫め御含み置き願ひます。

3. 妙國寺(堺市材木町)

永祿5年日蓮開基で日蓮宗四十四本山の一、現在の堂宇は本堂、宇賀神堂、勅使門、客殿等あり。

此の寺は寺傳よりも下の2項が有名である。即ち1つは一世の英雄信長を戰慄せしめたと云ふ千古神祕の靈木大蘇鐵である。信長安土城に一旦持歸へりしが怪異頻りなるより怒つて之を切らしたるに益々怪異起りたる爲さすがの猛將も全く參り此寺に返還したと傳へらる。一樹十餘株に別れ高さ2丈餘の大蘇鐵で天然記念物に指定せられて居る。

更に名高は維新の烈士土佐藩箕浦猪吉外英士が割腹した跡である。慶應3年佛國軍艦が碇泊中彼の水兵亂暴に憤激せる箕浦外十英士は之を刺し遂に國際問題となり明治元年2月23日此寺の本堂前で割腹したのである。寺内にある彼等の最後を飾るであろう遺品は見る者をして思はず戰慄、當時の凄壯の狀を偲ぶに充分なり。(共に拜觀の豫定)

4. 南宗寺(堺市南旅籠町)

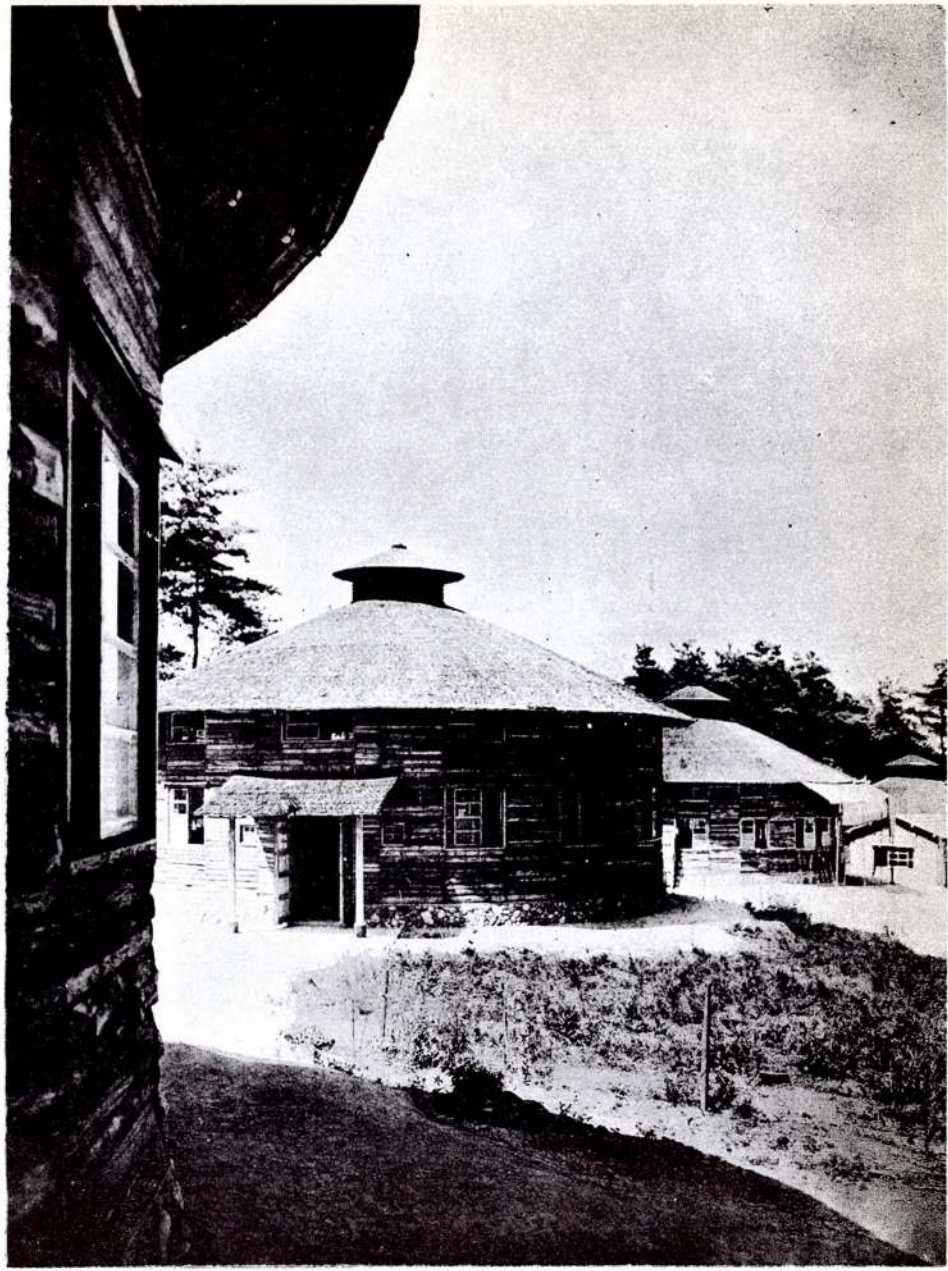
臨濟宗大徳寺派にして三好長慶開基堺の名刹である。弘治2年現在の地に移築、元和2年澤庵は岸和田城主及堺奉行の援助を得て中興す。現存の重なるは、佛殿、方丈、山門、鐘樓、客殿、等境内に後藤又兵衛の塔、曾呂利、利休の墓がある。又庭園は幽雅で古田織部の意匠と稱へらる。利久好の茶室實相庵がある。當日は主として此等茶室の見學をなす。

以上が9月見學先の豫定ですが、刑務所の都合其他を考慮し此内の3ヶ所決定し参加者に改めて集會所と道順を御通知致します。

有志晚餐會

尙當日は見學終了は夕方となる見込みですから堺市に於て有志の晚餐會を催します。御希望の方は會費五圓申込と同時に御送り下さい但會場お任せと人員其他の都合で萬一五圓以上となる場合は不惡御諒承下さい。(本見學會は會員終身贊助員特別贊助員に限る)

會務幹事會幹事長 谷 民 藏

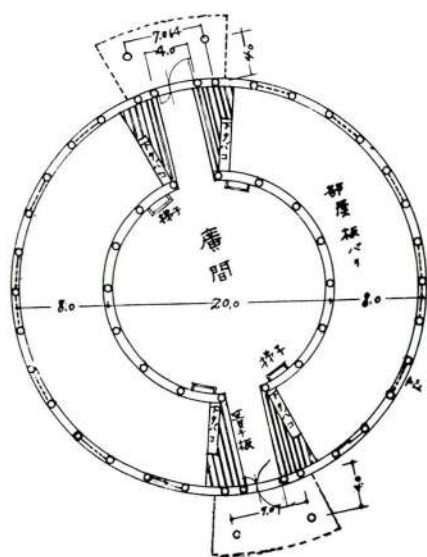


1. 日 輪 舎

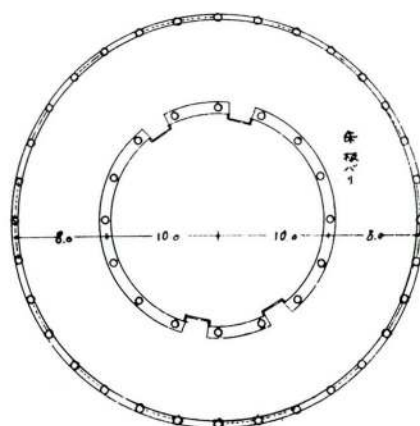
大 阪 市 立
興 亞 拓 植 訓 練 道 場



2. 丘上より本部其の他の日輪舎を俯瞰す



日輪舎第一階平面圖



第二階平面圖

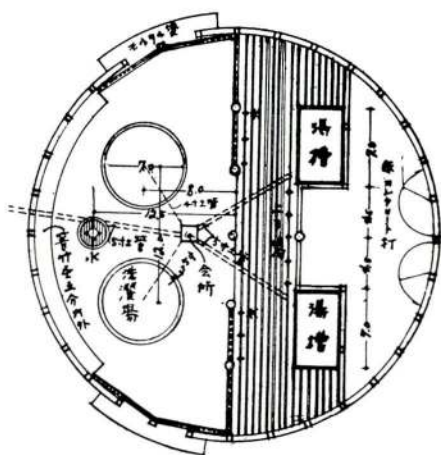
興 亞 拓 殖 訓 練 道 場

位置 大阪府北河内郡交野町大字私市八幡山

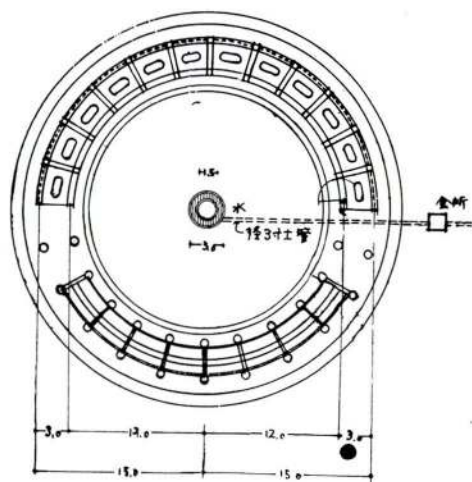
京阪線牧方東口にて乗換、交野電鐵終點私市驛下車西南2丁餘、溪流を渡り、行く處小高い丘の木の
間がくれに幾つかの平面に點々として日輪舎の建ち並ぶを見る。松籟颯々として聞へ、眼下に開く河
内平野、空氣清澄、實に絶好の身心鍛練道場である。



3. 耕地への通路より本部正面及廣場を見る



浴場平面圖

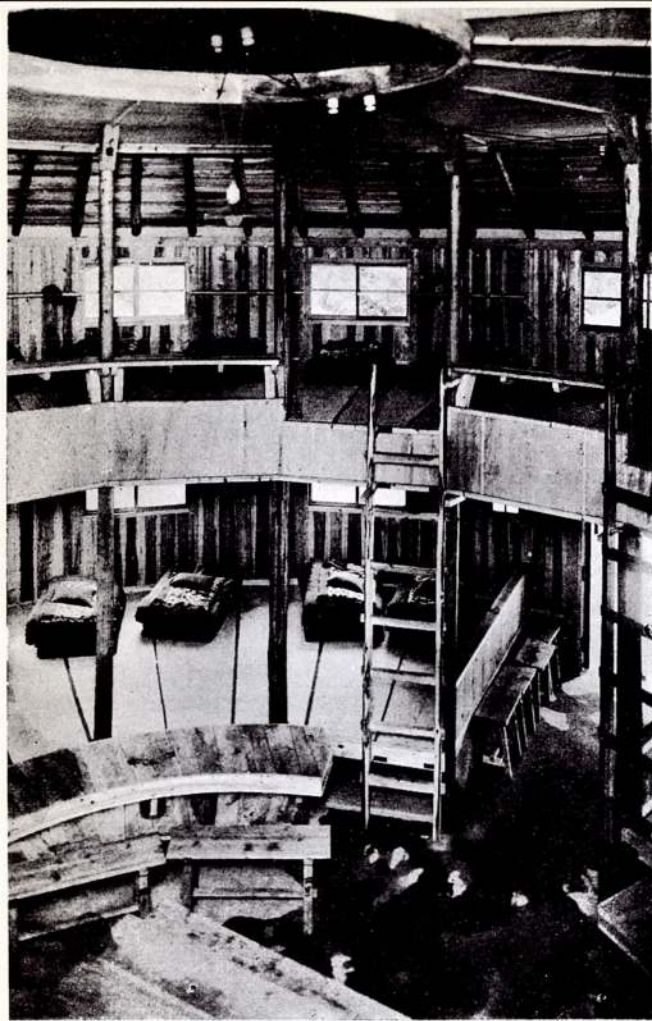


便所平面圖

4. 便所

丘の陰にある日輪舎式の便所は、其の構法の妙、見る者をして、好奇の感を與へる中央に手洗水を湛へる。





5. 階上より階下を見る

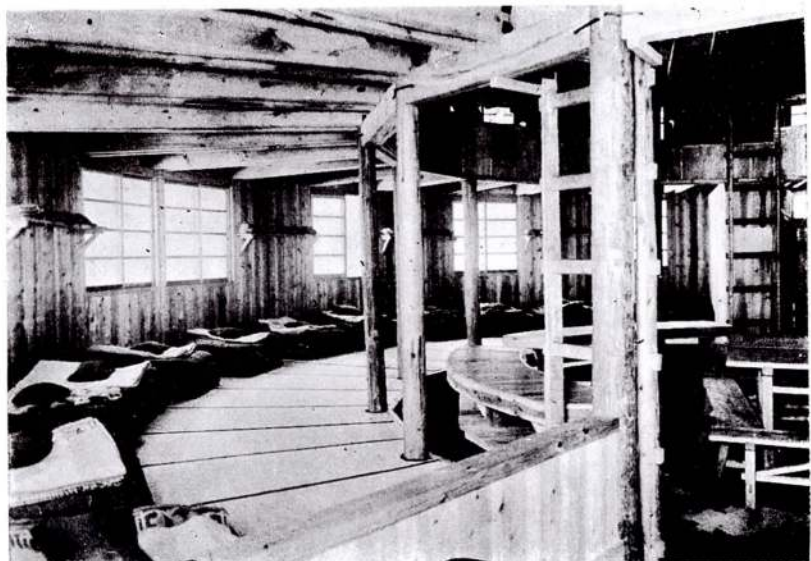
構法は内原訓練所に範を取り建設されたもので例へば2階に明とりの窓のある事など改良された内の一つである中央の臺は讀書の時には机、或は食卓ともなる。内部は通風もよく清潔にされて居る。

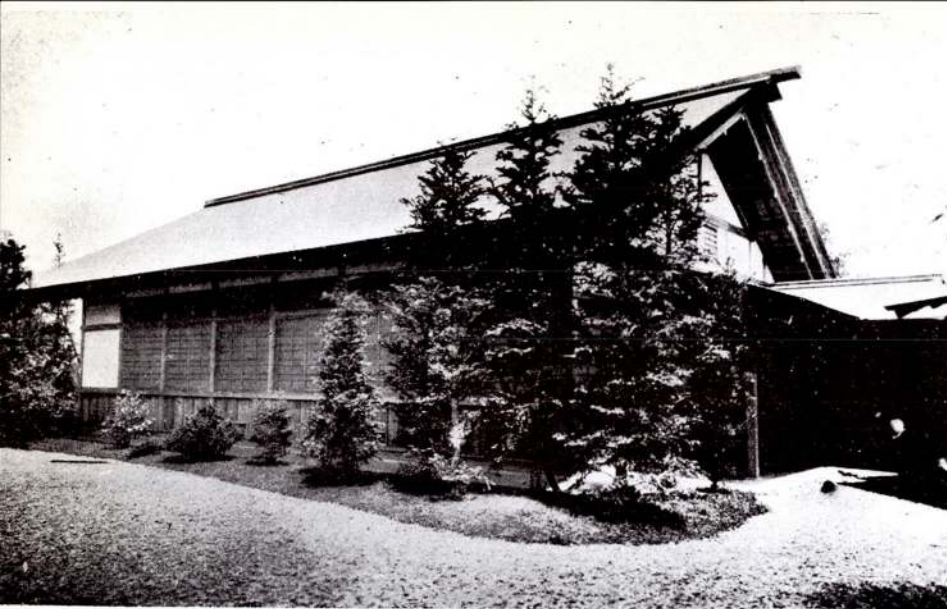
日輪舎は現在全部で10、收容人員は1舎60人であるが夏期は保健上50人としてゐる。道場長土屋少將以下職員諸氏の指導の下に酷暑の下、若人達の行的訓練が行はれて居る。

6. 階 下

入口より階下半分を見る、寝具など氣持よく整頓されてゐる事は何の日輪舎も同じである。

訓練の嚴格さの一端を窺ひ知る事が出来る。

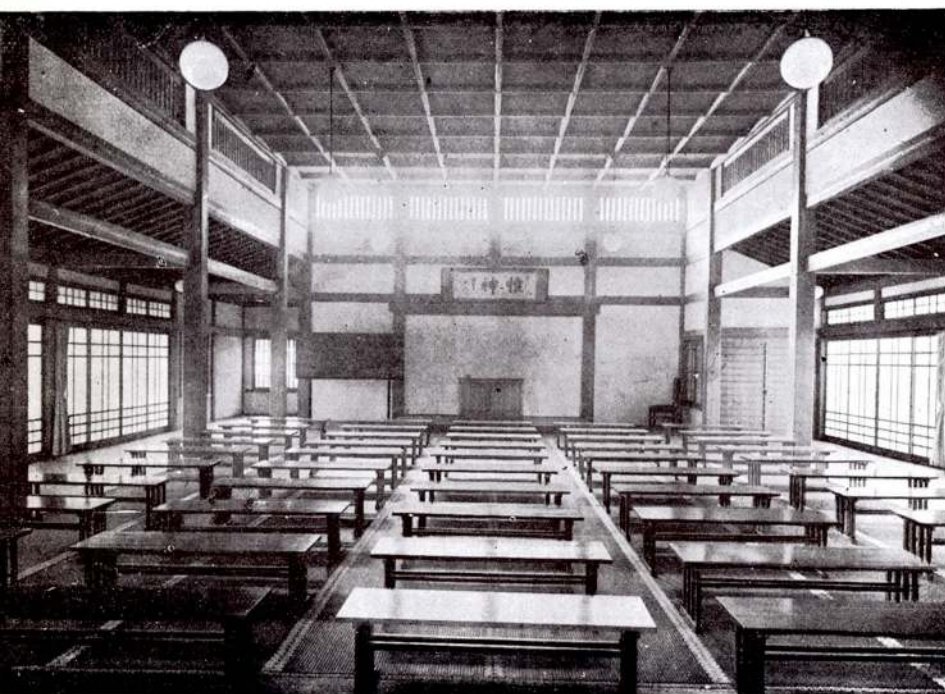




2 小講堂 外景

木造切妻四方庇スレー
ト葺49坪29

神宮皇學館・惟神道場
宇治山田市外倉田山



3 小講堂 内部

拭板張、正面に演壇
を設け、机を置く、尙
講習の際は白木八足机
に着座聴講の他、映寫
の出来る様遮光幕、映
寫幕の設備がある。

4 食堂 外景

木造入母屋鉾付スレ

ート葺90坪38



空気清澄樹木にかこまれた物、静かな皇學館の一劃敷地總計は4269坪、建物としては遙拜殿、大講堂、小講堂、食堂、潔齋所、第1宿舍、第2宿舍、本館、陳列所其他よりなつてゐる。收容人員は50人前後で受講期間は修養の目的達成上から1泊2日以上と言ふ事になつて居る。惟神道に立脚した修養練成の道場である。朝4時起床、潔齋の後、遙拜殿の行事、參拜、清掃等消燈時に至る迄實に嚴格な行事が繰りかへされて居る。

5 食堂 内部

内部は非常に明るく清潔にされて居る、拭板張圓座を用ひ着座す。食堂の階下には炊事場がある。





6 遙拜殿全景

木造入母屋鍬付檜皮葺40坪2.修養の中心殿室で社殿風の建物であり荘重な感を受ける。

惟 神 道 場

宇治山田市外倉田山神宮皇學館



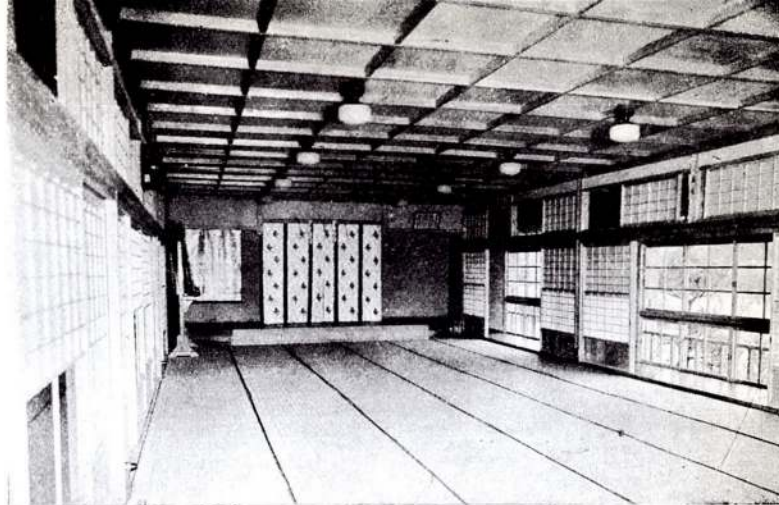
7 遙拜殿内部

南西二面に内外兩宮の遙拜設備をなし内部は拭板張圓座を用ひ坐禮の式に依る遙拜の外修養行事も行はれる。

大阪鐵道局 石山道場

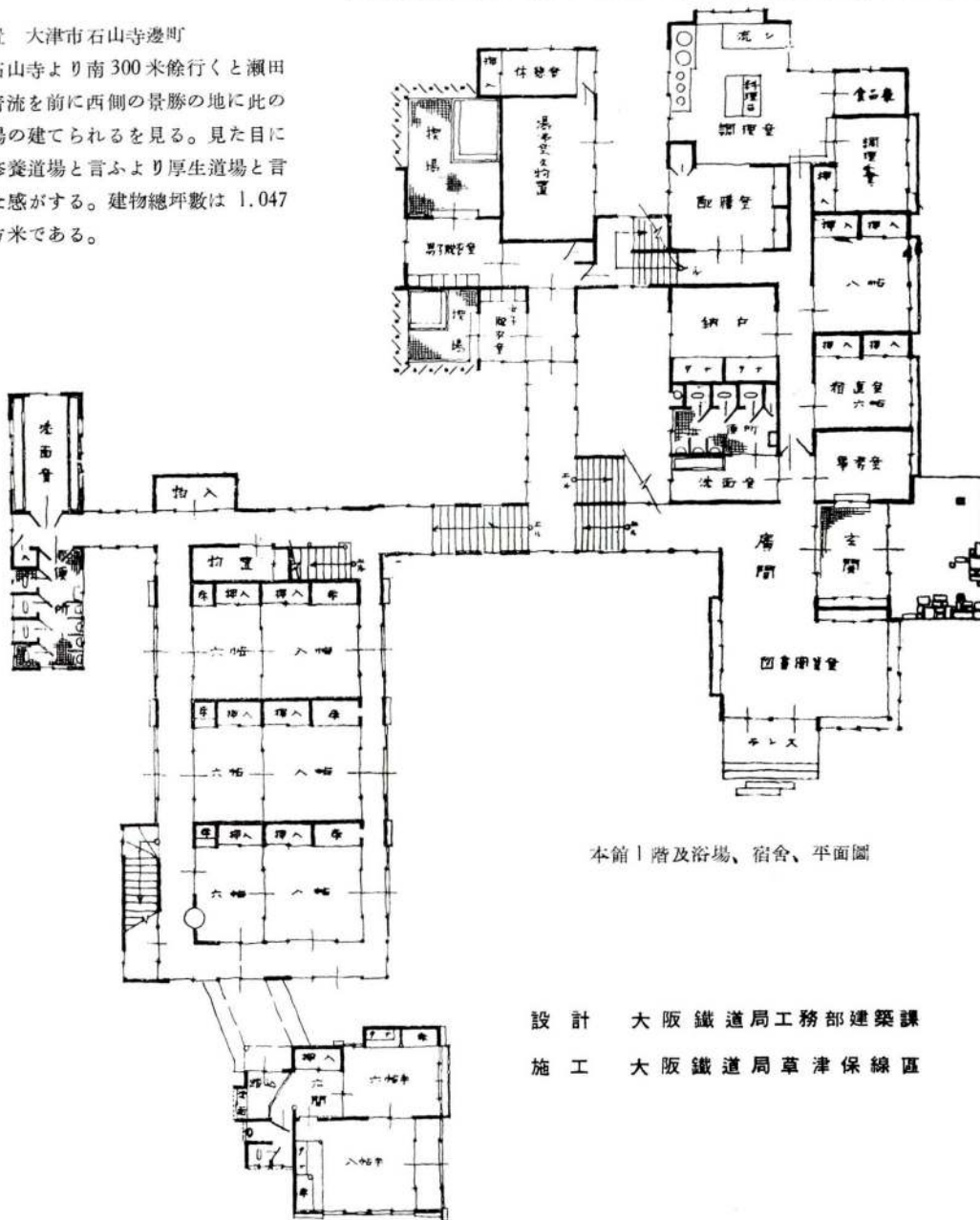
修養道場

本館階上を修養道場としての床は板張で其の上に45張の太蓐敷として間座を用ひ坐禮の式に依る、遙拜、講座等嚴格な修養行事が行はれて居る。



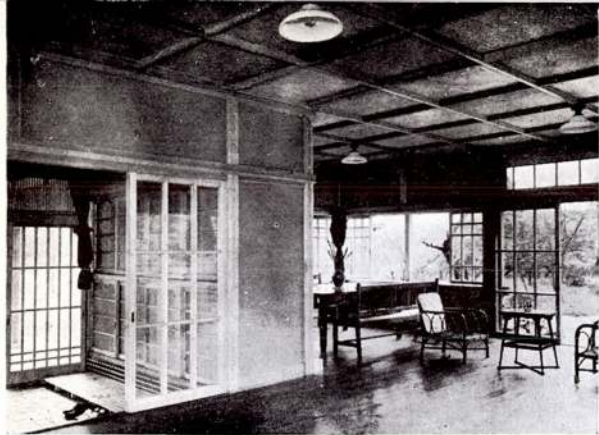
位置 大津市石山寺邊町

石山寺より南300米餘行くと瀬田の清流を前に西側の景勝の地に此の道場の建てられるを見る。見た目には修養道場と言ふより厚生道場と言つた感がする。建物總坪数は1,047平方米である。



本館1階及浴場、宿舎、平面圖

設計 大阪鐵道局工務部建築課
施工 大阪鐵道局草津保線區



玄關上より應接室を見る

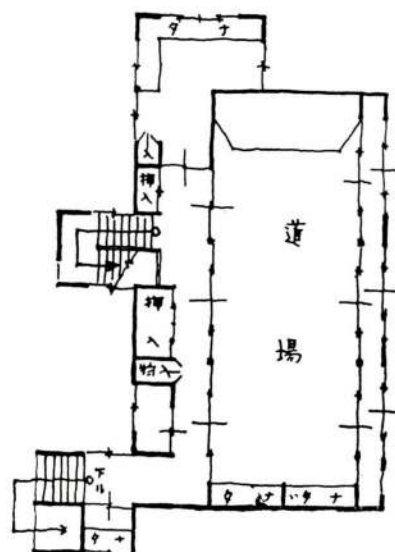
應接室は南の開いた明るい處で
前に廣い庭がある。



炊事場

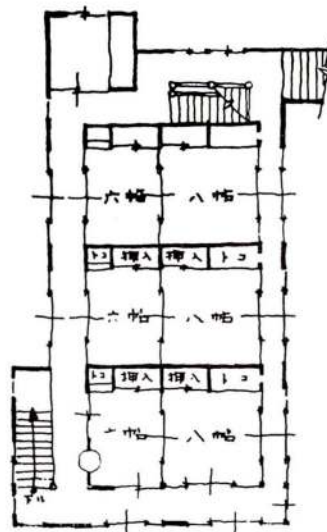
此の炊事場で定員約50人の食事が
準備される。炊事場と續いて廣い配
膳室がある。

大 阪 鐵 道 局
石 山 道 場



道場平面圖

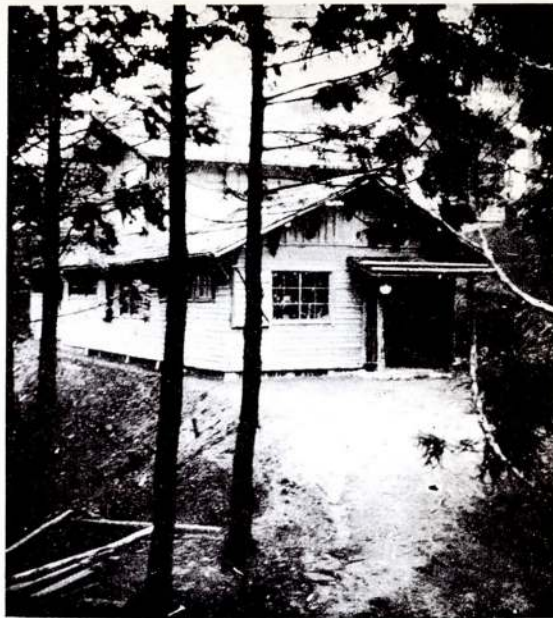
4 襖 場



宿舍2階平面圖



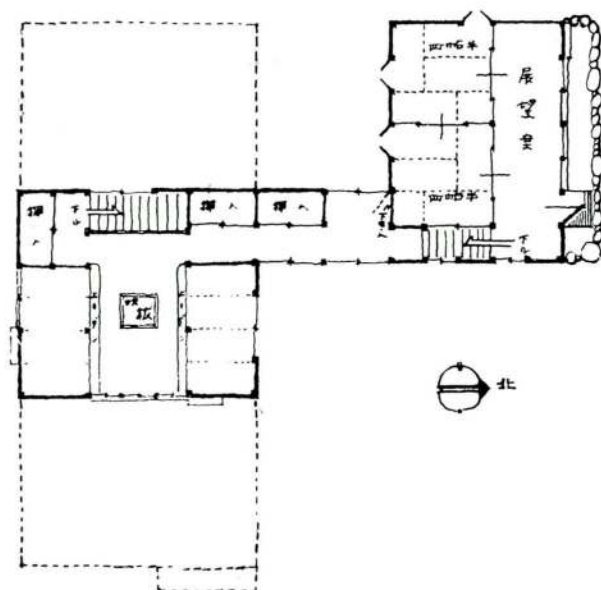
1 通路より山の家側面を見る



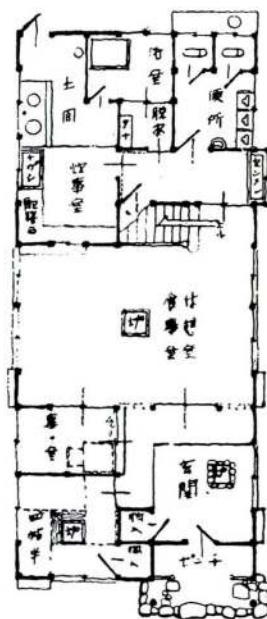
2 正面外観

立里荒神・山ノ家

奈良縣吉野郡野迫川村

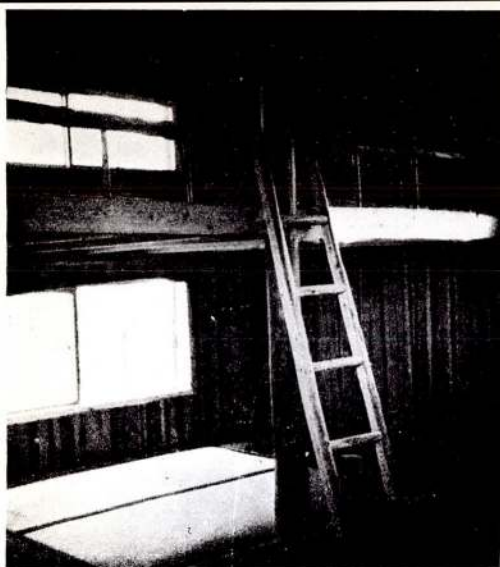


第2, 3階平面圖



第1階平面圖

設計 南海鐵道工務部營繕課
施工 奈良・堀一組



3. 2 階 寢 室

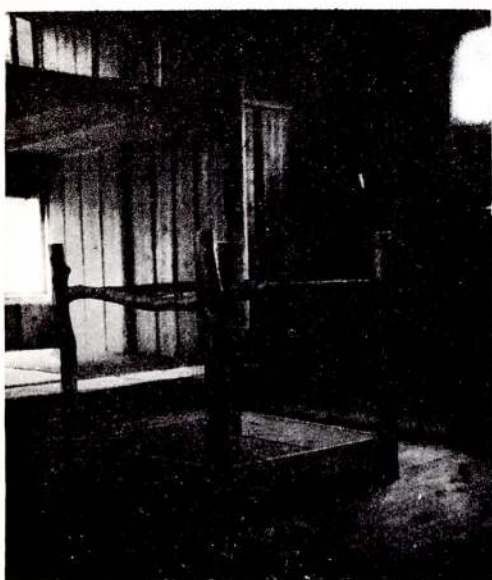


4. 2階廊下より3階への階段

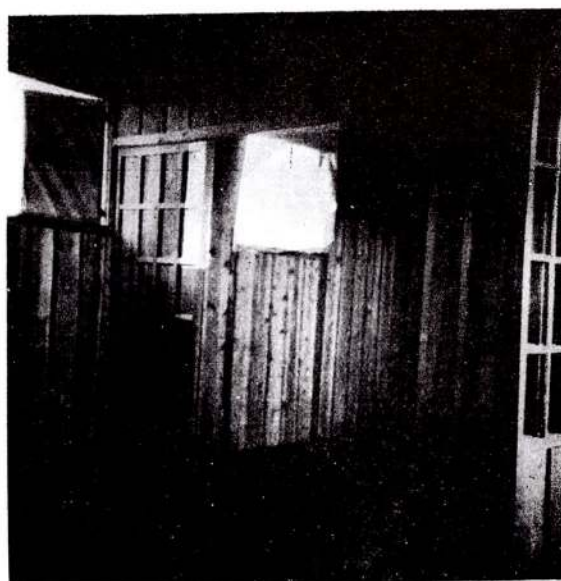
立 里 荒 神 ・ 山 ノ 家

山の家は高野山奥ノ院より3里、海拔4200尺の山の頂上に建てられて居る、吉野群山諸峯や、快晴の日には遠く紀洲の海を見る事が出来る眺望絶佳の地である。朝の御來光は實に崇高其のもので近くには信者の参拜絶えぬ立里荒神鎮座す。

夏期は非常に涼しく、厚生、修養を兼ねての利用が多い收容人員は50人で食堂の設備もあるが自炊も出来る様に設備されてる。



5. 2 階 ホール



6. 3 階 和 室

青少年訓練道場に就いて

北 村 春 吉^{*}

時局愈々急迫を告げるの秋國家の最も要望する所のものは何と云つても人的資材の充實であり、就中身體強健にしてしかも精神力旺盛なる青年の力であることは言を俟たない。この青年の力は現時の國家目的に即應すべき統一された高度の教養訓練によつて發揮し得るものであり、國を擧げてこれが増強に最善の努力を拂はなければならぬのである。若しこれら青年に教養訓練を施さない時は、或者は一の力或者は二分の一の力しか持たないものゝ集りとなるであらうが、これに有効適切なる訓練を施すことにより一の力を有する者は二の力又は三の力に二分の一の力しかない者でも一の力以上に増強し得るやうになり、之を全國的に見れば正に以前に數倍する總力となつて表はれることは明かであり、實に彼等に施すべき教養訓練こそ一日もおろそかに出来ぬことを多くの實證に鑑みその必要性を痛感するのである。これこそ無より有を作り出す現下喫緊の一大要事であり、去る1月16日文部省にては大日本青少年團を結成し團員に對し訓練第一主義をとつた所以のものも此に存するものと想像するのである。

然らばこの教養訓練を如何なる場所で、如何なる人が如何なる方法で指導することが最もよい結果を生み出すかといふ問題になる、私はひそかに思ふ、青年時代は魂の創造期であるのでこの時期を逸したならば、日本精神の眞髓を徹底的に懷裏にたゞみ込ませしめることは困難となるのではなからうかと、従つて第一に考ふべきことはこの大切な魂を造り上げる原動力となるべきよい指導者を得ることである。青年の力は指導者より生れ、その力の強弱は指導者によつて左右されるものである。獨逸のヒットラーは政權をとるや直ちに從來の學校教育のみでは決して立派な身體と強固なる精神を以つて國家に奉仕し得るだけの魂を作り上げることが出来ないといふので、ヒットラーエージェントなる組織を作り教養訓練を施したのである

が、蓋し獨逸に於ても一般學校教育では教師が熱を持たないでただ機械的に、形式的に一定の課程を教へて居たといふ所に一大缺陷のあることを悟つた爲であらうと思ふ。この點については我國も大いに反省すべきではなからうか、次に如何なる場所で教養訓練を施すべきかといふ事については前述の指導者の問題に比すれば左程大きい問題ではないとも云へるが、一面昔と今とは種々の點に於て異なり、現下の青年を訓練する上に精神的方面のみを見るならば何等かけ離れた點もないだらうが、科學の進歩著しく發展した今日に於ては訓練の場所の選定並に設備の充實については大いに意を用ひなければならぬことゝなつたのである。

特に大都市に住居する青年にとつては訓練道場の適否によつてその成果の度が極めて強く響いて來るものと考へる次第である。

然らば道場としては如何なる場所に建設すべきや、又如何なる設備を持つべきやについて述べて見たいと思ふが、未だ深く研究した結果でもなく只二三の訓練道場を見學しその都度思ひ浮べた感想を呼び出して記す次第であることを御斷りして置く。

第一に訓練道場なんか要らんぢやないか、寧ろ學校を色々利用したら良いではないかとの御言葉もあらうと思ふが、都會の學校舎はなる程設備もよく便利に出来上つて居るが、しかし大自然との接觸は極めて薄いと思ふ、狭い校庭より校門を一步出れば俗世界である、何だか學校内で錬成をやるといふ事自身が幾分は事務的になつて行くやうな感さへあつて、眞に深みある透徹した訓練はやり難い。猫の額のやうな校舎、校庭で訓練を受けて居つては人間が小さくなるといふ人さへある今や日本は東亞の盟主として新秩序建設に邁進しつつあるが、その國民は宜しく大國民の風格と資質とを具備して居らなければならぬ。この意味に於て訓練場はなるべく郊外の山野で廣大なる場所

をとり、常に、大自然を背景に持ち度いものである。

第二に訓練の目的は各個人の身體の強健なることによつてその大部分が達成し得られるのである。然るに大都會に住居する勤勞青年は保健衛生の點より見ればまだまだ恵まれてゐない、その證據として結核患者が非常に多く、殊に青年層に死亡率が高く實に憂ふべき状態である、現實に日本民族は世界中で最も強い見えない殺人魔と死闘を續けて居るのである。これを救ふには青年に課すべき訓練に種々留意せねばならぬが、就中その場所は空氣清澄にして都會の塵を離れた郊外の地に見出さなければならぬことは言を俟ない。

第三は前に述べた通り、青年期は魂の創造期であるので青年自身に眞の日本人の姿はどうあるべきかといふことを強く掴ませたいのである、それには國體の本義を十分に把握せしめなければならぬ、この意味に於て幸に大阪は近郊に於て國體觀念の確立上それに因んだ所が多いのであるが、斯様な位地に道場を設置して訓育をすることは誠に當を得たものと考へるのである。

以上は特に山野方面に於て考へたのであるが、青年の訓練上忘れてはならぬのは海事思想涵養並に訓練のために必要な海洋訓練場であかが茲には

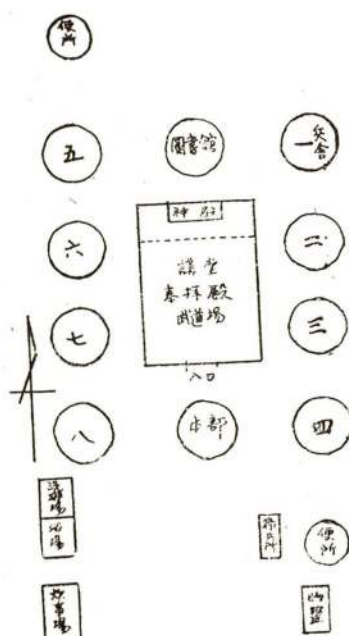
申し述べない事にする。

愈々郊外に廣大なる地域を得て外部環境に支配されない、極て純なる錬成場域を得たならば如何なる設備を施すべきやといふことになるが、先づ第一に建設したいと思ふのは（別圖のやうに）諸種の建設物の中央

に講堂が欲しいのである、此所は神國日本を強く畫き出すために正面に神殿を設けなるべく宮造りを多分に入れ約300名乃至400名の青年が一堂に集まり、朝夜の禮を嚴肅に取り行ひ得るやうな奉拜殿ともいふべきものにしたいのである。時には講義場ともなり、講演會場ともなるが、床のまゝで疊は入れず、大體に於て座することを本體した方がよいやうに思ふ。

尙これに適當なる區劃を施し神殿と反對の側に於ては武道をやらすことも出来る様にすれば利用價值が多いのである。單にこの建物のみならば、國民學校の講堂と左程大差がないのであるが、錬成の一手段としては御互に共勵切磋並に協同一致の實踐を強く表はして行かなければならぬので、組織を出來得る限り細部に分ち、一班十名位一小隊五十名位とすることが望ましいので、班長も小隊長も部下の團員と同じ生活をなし、青年の生活に深く喰ひ入り眞の青年の姿を知り、青年に對する熱愛を以て指導する所に從來の學校教育の殻を抜け出した行き方を見出されて來るのである。中心は小隊長であり、又班長でもある部下は上長に絶對の信頼を傾けしめ上長には指導者としての權威と責任を感じしむることが最も大きい要點である。

それには前に述べたやうな講堂一式では到底望み得られない場合が多々あると思ふので、茲に内原訓練所なり私市の拓植訓練所なりに建てられて居る日輪兵舎とも云ふべき圓い建物が最も適して居る様に思ふのである。直徑十五米内外の圓地の上に二階建造りの原始的な解り易く云へば國技館の角力場のやうなもので質素にして極めて簡易なる生活をする所に面白味がある。光線は四方八方より一様にさし込む、何の方向の風と雖も這入る構造であり、内部は極めて明るく、誰彼の區別なく目は圓の中心に集り心も一點に集合するといふ構造である。内周を繞ぐる上下二段の座席は各々二十五人宛位を收容し得て疊敷とすることもよからうが、寧ろ板敷にて綺麗に拭き込んだ方が良いと思ふこの様な兵舎を講堂の周圍に八舍程造り最大限四百名位の錬成が同時に出来るやうにしたい本部舎及び圖書館舎の設備の外尙附屬の建物としては炊事場、浴場、物置、洗濯場、便所等更に衛



兵所並に哨舎等は是非設備して軍隊の豫備的基礎訓練を與へるやうにしたいものである。

以上は主として男子青年訓練場について述べたのであるが、女子に於ては男子と餘程趣を異にし土地の選定にも特別なる考慮を施し、特に家事生活訓練が充分に出來得るやう留意したいものである。

る。要は只訓練場として極めて簡單なる希望を述べたのであるが、男子は男子として又女子は女子として又夫々の目的に應じて適切なる施設を試みたいもので、今後一層の研究を要するものと考へるのである。



道場本部前廣場に於ける武道練成

醫學上より觀たる青少年訓練所

深山

※
梟

青少年訓練所の使命

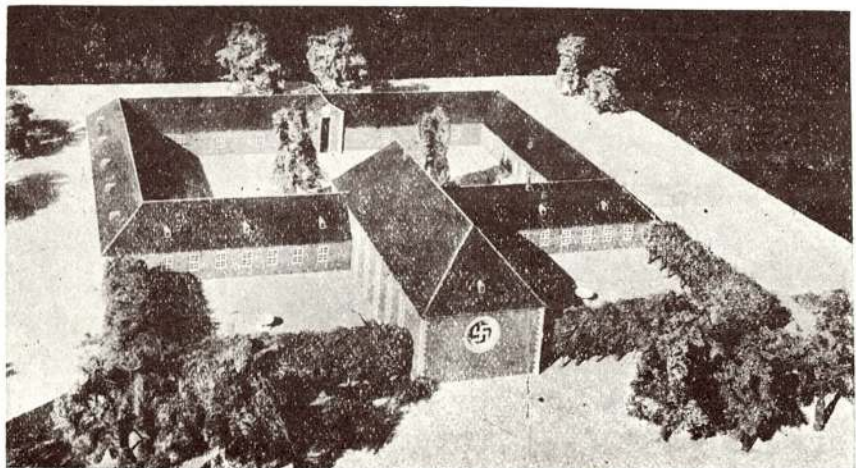
最近、青少年の訓練を目的として所謂青少年訓練所が全國の彼處、此處に設置されつゝあることは時局柄眞に結構なことではあるが、果して夫等の訓練所が何れもその目的を充分に達成してゐるかどうかと云ふことに就ては聊か疑問がないでもないのである。青少年訓練所の設置目的は元より青少年を錬成する點にあるのであるが、然し乍ら夫等は總べて訓練課目を組織的に企畫して行はるべきであつて、若しも訓練所に於ける衣食住にまで無方針に苛酷な要求を押付けて、之をも訓練なりと勝手極めするやうであつては夫れは大變な考へ違ひである。勿論、不眠不休の訓練も必要であらうし、粗衣粗食や假睡しか出来ない鍛鍊生活もやらねばなるまいが、左様な訓練は隨時キャンプ生活やその他の野營生活などやることに依つて充分目的は達成出来るのである。

苛りめにも青少年訓練所と命名して、譬へ木造にしる半永久建造物を建設する限りは、必ず簡素乍らも其處に住居生活の範たり得るだけの必要條件を採入れて造らねばならない。若しも訓練の美名に隠れてお粗末な動物小屋にも等しい安つばい建物を造り、神懸りの的に之を神聖と意義づけて訓練所とするならば、斯様な場所に於ける訓練は餘程の強健者であり且、志操堅固の者でない限り、却て訓練の結果、徒らに健康を損ね、思想上にも思はしからぬ惡感化を受けるやうなことになる易いのである。

獨逸のヒットラー青少年訓練所

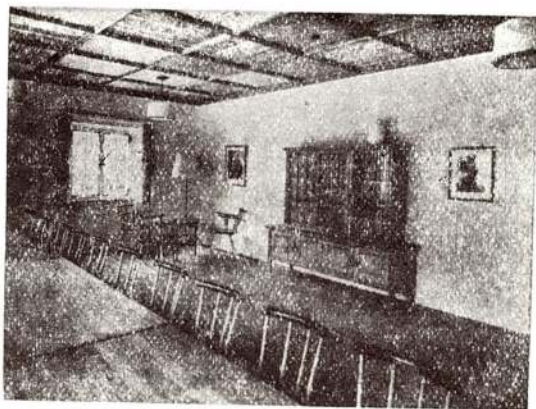
獨逸のヒットラー青少年團では、家庭及び學校以外の處に於ける青少年を訓練する爲に1937年以來、全國の市町村に必ず一つ以上ヒットラー青少年訓練所を設置することになつたが、その數は現在二千數百に達してゐる。之等のヒットラー青少年訓練所を設立するに際しては必ず附近の風景にうまく調和するやう夫々細心の注意を拂ひ、更に「組織的な建物は組織的な教育を容易ならしめる」との考へ方に基き色々の工夫を凝らし、特に醫學上の諸條件に就ては、精神的並に肉體的の影響を考慮して理想的な建物を造るやうに夫々苦心してゐるのである。

ヒットラー青少年訓練所では所謂集會室が一番中心として建てられ、夫れに指導者室や祭堂が連らなつてゐる。又大きな玄關入口や幅廣い廊下があつて、充分な明るさや、新鮮な空氣を採り入れその上、間廣い感じをも與へるのである。更に明るくて廣い浴室もあり、之は集會室の數に應じて數多く作られる。一つの集會室では普通40名が一班を編成して生活してゐるが、斯様な集會室が訓練所によつては二も三もある場合がある。此の



1. ヒットラー青少年訓練所の全景

※筆者は醫學博士大阪市立西診療所長



2. ヒットラー青少年訓練所内の集會室

他訓練所には夫々仕事場、料理室、暗室等があり又材料置場や自転車置場も設備されてゐるのである。

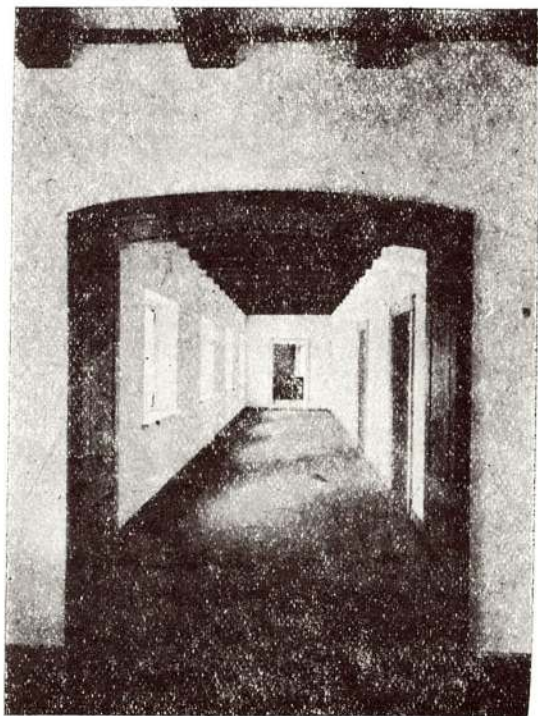
而してヒットラー青少年訓練所の建物は總べて簡素を旨とし、極く簡単な線しか用ひられてゐないが、然かも室内装飾にしても努めて美術的に且上品に装置されてゐるのである。又室内の清楚と清潔は青少年達に衛生的な明朗感を與へ、巧みな構圖や設計と相俟つて彼等に眞に心身の爽快と慰休を覺へさせるやう工夫されてゐる。斯くして訓練所の生活を通じて彼等に正しい住み方を教育して將來高尚な趣味に生きるやう指導されるのである。

特に訓練所の集會室に於ては、部屋の内部が教育効果に及ぼす影響の重大性に鑑み、「好い部屋におれば氣高い人格と高尚な情操が培はれる」との理念に基き、ヒットラー青少年の根本精神である全體主義觀を充分體得出来るやう色々の工夫が巡ぐらされてゐる。祭堂に就ては、記念日などに集つて來たヒットラー青少年達が、靜かに默想し神聖にして嚴肅な講話を聽くのに適はしいやう簡素乍らも神々しい設計に苦心が拂はれてゐる。指導者室には書棚も整へ、公務が執行出来るやう便利好く設計され且指導者室としての尊嚴が保たれるやう氣が配ばられてある。仕事場に於ける作業は餘暇の規則正しい利用方法として行はれるものであつて、此處で之迄に隠れてゐた彼等の創造的能力が発見され、育成されて、將來の職業生活によき指針となる場合が少くないのである。

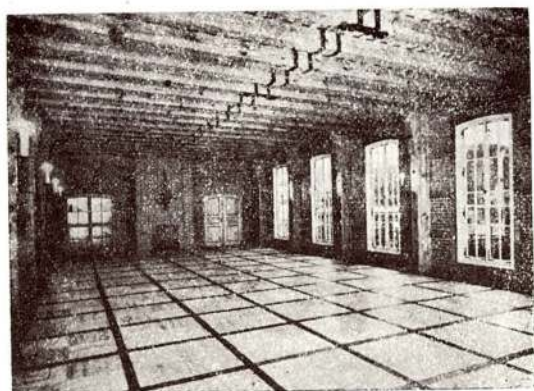
次にヒットラー青少年訓練所には必ず運動場

が附屬してゐて、彼等の訓練並に厚生行事の實施に非常に貢獻してゐる。ヒットラー總統は、獨逸青少年の教育に際し特に體育を重視して、青少年の體育徹底の爲凡ゆる方策を實施してゐるが、1936年12月1日の國法を以て學校及家庭以外に於ける獨逸青少年の體育並に精神訓練は總べて之をヒットラー青少年團に委せることに決定したので、訓練所設置に際しても特に體育施設が重きをなすことになつたのである。而して例へば、集會室を四つ有してゐる程度の訓練所には、體育施設として陸上競技場、蹴球場、チャンプ砂場、重量投げ砂場、體操場、水泳場並に射撃場等を兼ね備へておりこの方面の施設としては至れり盡せりの状態である。

斯様な次第で、今日祖國の爲に全世界を驚かせる程の大活動をしてゐる獨逸青年は、決して偶然の所産ではなく、之等の逞ましい獨逸青年鍊成の温床となつたヒットラー青少年訓練所を仔細に觀察すれば、その構造に於て又設備に於て常に細心の注意が拂はれ善き指導者の配置と相俟つて、彼等を訓練する上に如何に貢獻したかを充分観ひられるのである。



3. ヒットラー青少年訓練所内の廊下



4. ヒットラー青少年訓練所の祭堂

我國の青少年訓練所

偕て翻つて、我國に於ける青少年訓練所の現状を顧るに、遺憾乍ら未だ一貫した主義方針がなく唯漫然と所謂名勝地やその他の地域にバラツク造りの小屋が建てられたり、既存の神社佛閣の屋敷が轉用されて、青少年訓練所だとか其他類似の名稱で喚ばれてゐるに過ぎない状態である。従つて醫學上の諸問題に就ても、殆ど特別の考慮が拂はれておらず、寧ろ保健衛生問題は根本から没却されたやうな感じすら受ける位に非衛生な訓練所が決して少くないのである。

例へば宿泊施設を有する訓練所の建築坪数は一人當り、0.4坪乃至2.7坪の處が多く、之を病院の建築坪数が患者一人當りに對し8坪前後を占めてゐる事實と較べ合せば、所謂訓練所では如何に窮屈な雜古寢が強制されてゐるか想像に難くないのである。然かも一般旅館では宿泊施設に關し色々保健衛生上の取締規則が勵行されてゐるにも拘らず、多人數を宿泊させる青少年訓練所には何等宿泊に關聯した衛生取締が適用されておらず、爲に

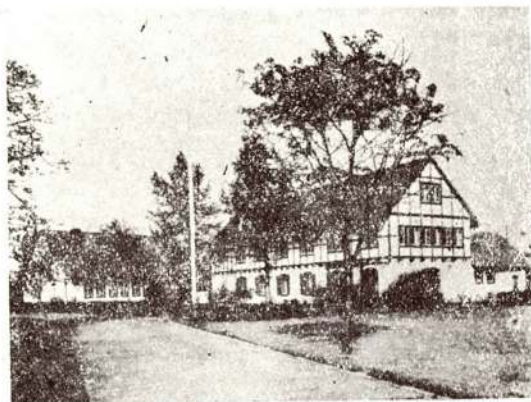
保健衛生上幾多の缺點が多々認められるのである。青少年訓練所の定員收容狀況が斯様な状態である限り、その他訓練所内の諸施設が保健上寒心すべきものである事は推して知るべしであつて、就ては茲に將來、青少年訓練所の建設に當り、或はその修理に際して、青少年の精神的並肉體的兩方面の健やかな育成を希ふ見地から、是非共設計上、考慮して貰ひたい二、三の醫學上の注意を申述べて各位の御参考に供したいと思ふ。

醫學上留意すべき事項

先づ第一に訓練所の建設地を決定するに當つては陽當りがよく風通しがよくて、土地の乾燥した場所を、飲料に適する清水が豊富に得られる場所を選定すべきである。風光明媚な場所は元より結構であるが、然し乍ら前述の諸項に當嵌らない場所ならば左様な處には無理して造らぬ方がよい。尙敷地内に出来るだけ廣く體育運動の施設を整へることも必要であつて、若しも一般競技場が十分に設備出来ぬ場合には耕地なり山林なりを採入れて之等を體育的に活用する方法を考へることもよい。憩ひの場所として氣持のよい芝生の綠地帯などを設けることも無意味ではなからう。

次ぎは建物の外觀は成るべく奇を好まず、出来るだけ周圍の風景に調和させ、單純乍らも外廓を幾何學的に整へて、正面前景の静けさと建物全體の統一感を示すやうにし、建物から受ける印象が心持に落着きを與へるやうに工夫して貰ひたい。そして建物全體に質素淳朴乍らも美術的要素を多分に織込み、上品な趣味をふんだんに採入れることは、青少年の情操を培ふ見地から絶対に必要であつて、之は獨逸に於ける場合と同様であるから特にこの點に留意して貰ひたいのである。

夫れから宿泊施設を有する訓練所に於ては少くとも一人當り、五坪以上の建築坪数を有する位の建物を造り生活の喜悅を充分味はへる丈けの設備を整へるやうにして欲しいものである。そして訓練所に於ける衣食住の様式が彼等の生活の模範となつて、爾後に於ける彼等の個々の生活へそのまゝ採入れられる位の模範生活が行へるやうに仕組



5. デュツセルドルフに在るヒットラー青少年訓練所

んでおかねばならない。

その爲には住み心持のよい建物を造ることが第一であつて、部屋の明るさや換氣に注意し、常に清潔が保てるやう、塵埃の溜り易い場所を作らず掃除がし易いやうに工夫を凝らして設計をする。主なる部屋として集會室や指導者室の形式に就てはヒツトラ―青少年訓練所の氣構へに準じて造るとよい。更に食堂や風呂は出来るだけユツクリ間取つて且氣持よく明るい部屋とするやう特に注意する。廣い風呂場は氣持よいものである。寢室には出来れば寢臺式を採用して、床上の塵埃が成るべく寢具にかゝらないやうにする。寢臺と寢臺の間隔は出来るだけ離すやうにし、出来れば二、三尺位の間隔を空ける。尙寢具には白布を蔽ひ、出来るだけ屢々之を洗濯して常に清潔な寢具に就寝させるやうにする。白布の洗濯は訓練生がやるから簡単に然かも教育的に行ふことが出来る。清潔な寢具を用ひ、寢臺の間隔を遠ざけることは、結核其他の傳染病の傳播を豫防する上に非常に役立つのである。序で乍ら賭場、食堂等にスクリーンを設備することも蠅其他害蟲類の出入を防ぎ、食物を清潔に保つ上に必要であるから是非實行して貰ひたい。便所なども共同用の場合には兎角不潔になり勝ちであるから、出来るだけ明るい感じのする爽々しい便所を作り、一寸汚こせない位の美しい處にするのも一案である。

尙祭堂や仕事場が必要ならば獨逸の例に倣つて

作るのも好いが、夫以外に、陽當りの好い廣間を作つて訓練の餘暇に其處で讀書を楽しむとか室内遊戲に興じるとか所謂健全慰樂に過す部屋を設けることも面白い。反對に、不慮の傷病に備へて静養室を設け感急用品を整へておくこともあながち無駄ではない。不慮の災禍に對する對策としては防火以外に地域に依つては防風等にも留意する必要がある得るだらう。

結 語

以上、青少年訓練所の建設に當り醫學上から留意すべき諸點に就て大略を述べた次第であるが、要は、出来るだけ清潔にして且精神上にも悪感化を齎さないやうなものを造れば、夫で充分であつて、我國にも一日も早く獨逸のやうに完備した青少年訓練所の一貫した基準が權威ある筋から發表されるやう希つて已まない。然らざる限り、今日のやうに種々雑多な青少年訓練所が簇出してゐては却て訓練所に於て青少年の健康が蝕まれるやうなことになるぬとも限らないのである。

最後に、鍛鍊生活を主とした野外キャンプ生活を青少年訓練として行ふに際しても、徒らに亂暴な生活することが目的ではないから、鍛鍊の内にも出来るだけ保健衛生に注意して、野營地の選定を誤らず防寒防濕に對しては常に最善策をとり其他清潔整頓を守つて規律正しい起居を續けることは絶対に必要である。

興亞拓植訓練道場の建築に就て

竹 内 政 治^{*}

京阪電鐵枚方東口から南下する交野電鐵により七軒の軌道の終る所に^{きさいち}私市がある。此の終站驛から左すれば盤舟街道であり右して約二百米天の川と星田妙見山の尾根とに囲まれた生駒山北麓地帯約五千町歩が當道場の所在地である。詳しく申せば北河内郡交野町私市である。この附近は大和建國以降、文化史上相當山緒ある地域であり天孫降臨に因む天盤舟並びに盤舟神社、さては百人一首にも現はれる天の川、大平記に歌われる「交野の春の櫻狩云々」の句に見える交野も又此の附近にあり、古事傳説に富んだ地である。敷地を縦貫しては私市「ハイキングコース」が星田妙見山に達してゐるが、當所は必ずしも山紫水明の地とか、景觀に慈まれてゐるわけではない。併し大大阪市の發展も容易にはその觸手を延し得ない、未だ古代の薫も豊で道場の建設地として撰ばれたのは詢にその意を得たるものと思ふ。

さて當道場の建設目的を述ぶべき筋合ではないが、一應の説明を許させて貰へば茨城縣内原詳しく云へば東茨城郡下中妻村小林の滿蒙開拓義勇軍訓練道場の説明に溯らねばならぬだらう。

該道場の建設に關しては既に「新建築」誌上に鮮かな紹介があり又同所監部訓練所に關しても建築雜誌に既に見えてゐるから、それ以上の蛇足は加へたくない。兎に角日支事變勃發以來帝國は高度國防國家建設を目途し、東亞共榮圈の指導國家として一億民の職域奉公、臣道實踐を要請せられる現状であるが、特に此の共榮圈に於る滿蒙との紐帶はその最も密實なる可きであり、滿蒙開拓は一日も忽せには出來ない。同開拓移民百萬人の計畫が樹立されたる所以も亦此處に存する。故に昭和七年滿洲事變を契機とする開拓計畫は日支事變以來一段と強化され滿蒙義勇軍の使命は益々重大化したわけである。當大阪市に於ても滿洲移住協會の慫慂に基き大阪府下一圓に互に該道道場の豫備訓練を行ふべき適當なる施設を要望せられ、

此處に當道場建設の氣運が醸成されたものと聞き及ぶ。

本工事の建設は昭和十五年十一月起工し目下兵舎の建設を一應完了し殘工事の建設を急いでゐるので未だ配置の問題にも多少研究の余地あり、この話は工事の中間報告の形式を採つたので、甚だ説明に徹底を欠く所尠からざる事を豫め御斷り申上げておく。

本來道場建設の目的が前述の如くであつたから私は早速内原の道場を見學し、その建設の精神を可及的活用する様希望もし亦要求されたわけであつた。八紘一宇の精神の顯現發揚は津々浦々に浸徹しその鍊成の目的に則り道場の名を以つて建てられるものは無數に近い。曰く……惟神道場……視道場……訓練所……修養道場等夫々建設の目標には意義あり、且又敬虔なる要旨に基いてゐるのであるが、屢々厚生の意味しかないものにも道場と名付けてゐるものすらある。此等に……批判の目を向ける資格は私にはないのであつて、今私に求められたものは内原道場の代名詞所謂日輪兵舎を大阪に造る事であつた。

この名こそは嘗て小説に迄描かれ一時人口に膾炙したものであるから今更贅言を要せぬ。嘗此の形式に關する來歴を述ぶるならば、渡邊龜一郎氏なる義人、農業派興に盡され、昭和十一年秋加藤完治氏の創立せらるる日本國民高等學校の職員となり同年冬滿洲國饒河大和村に少年隊を引率して共に赴き當時古賀直人氏の指導を受けて此處に日輪兵舎の形を創案し、十二年十月内原訓練道場の設けらるゝや、再び此處に入りて青少年一萬人收容宿舎の原型としてこの形を採用す可き事を決せられたものである。

其の形は外廓に於て日輪を象つて丸形となし、立體的には「トーチカ」を模し、恰も蒙古住民の「包」^{バウ}に一脈相通するものがある。考案者は何れもれつきとした建築家には非ず、先ず素人に近い

^{*}筆者は大阪市建築部第一建築課設計係長

方々の創案であるから建築家をして批判せしむれば種々の議論や僉議もあらうと思はれる。

だが私が内原に赴いて具さにその建ち振舞を見聞の上熟々感じた事は、此の單純素朴なる兵舎が多年農村振興の熱意と開拓魂の發露として産み出された事に萬腔の敬意を揮げずには居られない。茨城縣の未開墾地縹渺たる未熟の平原に鋤を入るるや中央には二萬坪に余る練兵場を擁しそれを圍繞する松林の樹間から點綴として集る兵舎の群本部食堂兼講堂、警備隊本部、農業倉庫、糧秣庫、共同炊事場、農産物加工場、保哨舎、甞見る丸い屋根丸い壁面、たまさか角型の建物も屋根に至つて亦丸に終る。日輪の象徴化も此處に至つては感激にも近い何ものかを受けるのである。樹間の彼方に一群或ひは此方に一群覗く杉又は藁葺の圓錐屋形と丸い壁面の背板貼或ひは荒木の肌、それ等が深緑の樹林と共に水田に相映じ木魂する太鼓の響、ラツパの音、これこそは鬱勃たる開拓魂の雄叫であり、松籟には深耕堆肥の理念から溢れ出す自然の氣、土の香りを伴ふ。この所に育まれ培はれて行く一萬有餘の青少年の生命躍動は一切の兵舎を堆積の様にゆさぶるのであらう。兵舎にも生命がある。こうした印象を私は加波田の訓練所に於ても同様に経験した事である。

だから私は日輪兵舎に關する限り是以上の批評がましい事は避けたいと迄思ふ。何とならば義勇軍の生命は日輪兵舎の生命であるからだ。そして建築が如何に單純素朴な意相から生れるとも現實にその事業の精神の精髓を把へ、その活動と緊密に合致した時は、その形が如何に第三者の建築家で不合理と見えても、尙且それが如何に犇々と人間の生命に觸れるものであるかを痛感した者は恐らく私だけであつたらうか。

だから當道場の建設に當るや、この内原の豫備訓練を本來の目途となす事に定まり、宿舍は日輪兵舎を採用す可く要望された時、私は聊かの疑念を超越し、一切の科學的即物性を補脱して其の形を採用する事に賛意したのであつた。

更に日輪兵舎建設に就いて附言を許されるならば、嚮に内原の荒地を開發して同所を建設するに際し地域一帯に簇生する松、或ひは杉を伐採し直ちに是を建築材料となし更に建設には墨糸指金を

使用せず且一切専門家の手を煩はさず全工程を素人の訓練生によつて完成せしむる最簡易の宿舍として、この形構造を、撰んだ所に大なる意義があると思ふ。

兵舎は直徑五間として單位建坪 28.81 坪を基準とする、然もこの丸形が氣象災害に對し内地に於る最も適應した形體となす所に狙があつた事は、建築構造上からも充分正鵠を得たりと云ふ可く、兵舎の價值は是によりて更に一段と適合性を嵩められた所以でもあり、且又その創案の眞剣さをも察知せられるであらう。

尙此の兵舎は細部的に逐年改良を加へられ、小生の見聞したる範圍に於ても改良五期を閲したと云はれる。乃ち第一期は中心柱付、藁屋根三戸型に始まり最後には中心柱を省き同心圓に配列されたる内外二圓周間に床を架したる二戸型となしてゐる。尤も收容人員は一兵舎 50 人として一小隊を形成するわけである。

更にこの形態に於て眞面目を發揮されたるものは食堂兼講堂であつて是は徑 80 尺ノ大型兵舎と思へば宜敷い、但しこの建物は目下は食堂のみに專用されて居る様であり、請負施工と聞いた、要するに日輪の形象化から生れた日輪兵舎が建設に際し最も自然原始的且つ經濟的に然も短期間に行はれた所にその生命特質があると云はねばならぬ。

尤も友部の幹部訓練所に於てはその設計者の説明の通り、建築家としての立場から、この丸型形式に依り自然發生的に建築する事に賛せず、機能上の見地から別個の「テーマ」を以て設計を纏められてゐる。是亦尤も至極の意見であり、内原のそれとは自ら施設構造の異なる可きは當然と思ふ。兎に角私は日輪兵舎の形をその儘當大阪の地に移植する要望に賛同した以上、全く私の意相を白紙に戻し甞この兵舎の「テーマ」を出来だけ全建物の體系の中に生かす事に努めねばならない。所が一步退いて冷靜に考へると當道場は色々な點で内原とは大いに狀作を異にする事に氣がついたそこに設計上幾多の障礙が起つて來たのである。乃ち先ず地勢上の點では一は平坦地であり、他は起伏多き山間地帯であるが故に建物の體系には自ら懸隔が在る筈である。

且前者は既に原地に於て直ちに利用可能な建築

材料の簇生せるに對し是は用ゆべき適當なる材料更に無く漸く燃料に供する程度の雜木あるに過ぎぬ。それから短期訓練で長くとも二週間の短時日を以てしては到底内原に於る如き相當期間に亙る訓練生に建設を委ね、土木建築訓練の一助とする如き事は望まべくもない。更に此の建設は當然巧遅より拙速を尊ぶとあれば如何にするも専門の施工者に建設を委ねるに如かず、或ひは直營の方法を採るも現状は是を不可能にするであらう。

以上の諸理由から當道場の建設には尠からぬ制約を受け折角内原現地で受けた熱意も充分現的なる計畫に發展させる事を困難ならしむる事情にあつた。だが如何にあらうとも全建物の體系配列の整備はその根幹であつて飽迄當道場の訓練計畫に最も適合するものなるを要する。

當道場目下の訓練計畫に關しては他の適任者の説明があると思ふが、當初に於ては飽迄内原の豫備訓練を目標にしたのであるから一應該道場の訓練要旨を述べて見る。その要旨は青少年の皇國精神を鍛鍊陶冶し質實剛健の氣風を作興し以て渡滿後滿洲建國の大業を翼賛し東洋平和確保の礎石たらしめんとするにある。又義勇軍綱領に我等義勇軍は天祖の宏漢を奉じ心を一にして追進し身を滿洲建國の聖業に捧げ神明に誓つて 天皇陛下の大御心に副ひ奉らんことを期すと記された。

更に訓練方針としては「日本精神顯現開拓魂の涵養に努め喜んで勤勞に服する」の心性を培養すること、困苦缺乏に耐え異れる氣候風土に對する身體の抗堪力を養成すること、尊長的美風を助長し一致團結、親和互讓の徳性を涵養する事を規定してゐる。

内原道場の訓練期間は凡そ二ヶ月間、修了後直ちに渡滿現地訓練所に人所此處で約3年間現地訓練を受けて始めて立派な開拓民の中堅となるのである。以上の訓練方針にもある如く、訓練は學科と實科とを並び修めること、乃ち知行合一を理念とし、就中教練(一般各練、陣中勤務、行軍等)武道(直心影流法定の型及劍道、柔道)體操(日本體操驅走等)作業(開墾、一般農事、土木建築、畜産等)の如き、實科はその最も尊重する所である。

私は今餘りにも内原道場の紹介に對し韃舌に過ぎた様であるが、それは結局當道場訓練計畫に相

通じ建設の意圖を規定する事に歸着すると思ふからである。さて私の聞及ぶ所では當道場の訓練計畫は現在に於ては必ずしも終始内原の豫備訓練と限定せず専らその理念精神の本質を飽く迄發現する事に努めると共に大阪府の地域的特質を此の道場に反映せしめて充分なる訓練効果を齎す事を要請されてゐる様だ。

その意圖が單なる精神修養道場に墮するとか若くは單なる厚生施設と成り終ふるに於ては道場當初の理念と神嚴性を歪曲する事にならう。蓋し私一個の意見を介入する事は許されないが、國防國家建設を企圖する我帝國は國土計畫の見地よりするも都市と農村との適度なる配分は一刻も忽に出来ない。況してや滿蒙開拓民たる可き資格者は1人でも多く是を全國より募るべきは人的資源の配分上喫緊の急務である。

一方大阪府下の如き商工縣に於ては飽迄農村に對する理解を高め以て農村と都市との分離的傾向を矯成するに如かず。それには原案通りの内原式訓練方針がその精神に於て、將又理念を通じ最も妥當的方策たるを疑はぬ。單なる精神的鍊成道場としては是を現存の他のものに途を譲り、當道場は興亞拓植訓練道場の名に背かぬ他の追隨を許さぬ。特質を具ふ可きである。當道場の訓練計畫の要旨既に存すと雖も建設の計畫未だ途半にあり折角その訓練の本旨が如上の私見に副ふ事を得ば私の幸である。

計畫に就て

施設建物の主なるものは

中樞建物 神社大講堂本部

訓練宿舍 日輪兵舎(10棟)便所、浴舎、炊事舎
皿洗場、場長公舎、職員宿舍、従業員宿舍

農場關係建物 役牛舎、豚鶏舎、飼料肥料舎、
農事倉庫、推厩肥舎、飼料調理舎、
肥溜、乳牛舎

その他建物 門衛所、鑿井ポンプ小屋、國旗掲揚塔等

現在完成を見たるは兵舎、便所、浴舎、炊事舎倉庫であつて、既に事業は開始され、殘部施設は急據計畫中であるが、事業開始急迫を告げた爲に綜合的計畫樹立に完きを期せられず、亦今日名案

あるも最早實現するには現在の作業に障碍となる等儘ならぬ次第である。併し一應計畫の概要を述べて見る。

全地帯整地 可及的原地形を保存する事に努め自然の起伏に順ひ建物を之に順應して配置する自然の景觀を害ふ事は當道場の使命に悖るものである。然もこの種建物の配列整備に就て可成合理的と思つたものは内原が波田道場のそれであるが、是又平坦地に對する計畫であり、當所の如き山間地帯に於ては飽く迄現地に則した別個の配置を要するわけである。

私市驛より場内に至る約半軒の道路幅員を5米に擴築し、延ひて天の川に架橋し、廳で道場の門衛所に達するのであるが、この架橋は入場者に第1印象を與へ、訓練の決意を求むべき關門であるから、形の上から相當の意匠を要するであらう。

兵舎 前述の如く徑5間建坪28.81坪放射形二層に寢床をとるものとし、名の如く宿舎を主なる目的とすると同時に、三度の食事並に讀書の爲にはその中側12本の柱を繞る圓周に沿ひ板貼の机を設けてその用に供する、中心には圍爐裡を設けて採煖に資する。さて此の間取が機能的に色々論議せられやうとも當事者の意見としては、當地で行ふ訓練宿舎に關する限りに於て終始一圓協同と云ふ集團の營みを以て積極的な開拓意志力を養成するのが目的である。されば最早個人一個の獨相思索に便するが如き必要は此の場合には起らない。與亞開拓の目標既に定まれば、與へられたる課題は只集團による實踐射行あるのみとの考へに據るものと解する。勿論内原兵舎の原型の如きはその則る理念に於ても全體的構相に就ても誠に尊ぶ可きも屋根は藁又は杉皮葺外壁は松背板貼内壁は改良後のものでも「ベニヤ板」貼であり、大體農民家の最も粗雑なる構造と云ふ可く夏季は辛うじて耐ゆべきも冬期に於ける室内の寒冷は如何。それは元氣潑刺希望に燃ゆる青少年と雖も2ヶ月にある起居は可成の苦痛である様だ、乃ち外壁を徹す賊風は1日の疲勞を醫す可くもなく呼吸器病の發生可成多しと聞いた事である。

蓋し一勇猛心の前には寒冷も病魔も何者ぞとの禪的考へ方に因るのであらうか。又譬へ然るすらも創業の建設にその完璧を望む事は無理と云は

ねばなるまい。尙誤解を解く爲に一言すれば、此の形式の兵舎は決して滿蒙の廣野に於る開拓民兵舎として適合せしめたるものでは絶対に是無く、内地の如き氣候割合に溫暖なる地方に於て訓練上最適と考へ得られたる限度のものなる事である。

仍て私は兵舎の原型は勿論尊重す可きも絶えず修補に費月を要し、數年にして使用に耐えざる程度のもは到底建てられない單に如上の精神力を以て保健衛生的施設の缺陷を償ふ考へは私には忍びない。ある程度の保健性を附與せしむる必要を感じ構造上には聊か手を加へ、内外壁の貼方も同一材料に據るとも可及的詰貼として賊風の侵入を防いだ、屋根も木端板貼の上に柿板葺となしたが欲を云へば今少し耐久性の材料を望むものである柱は掘立てでは困るので土管を柱當りに埋込み柱差込み防腐劑塗の上モルタル埋込とした。又形の上では背板貼を以て圓形を造り出す事は可成困難であるし、總じて方形の木造に慣れた手を以て慣れぬ形を造つて行く事は施工者に對し並ならぬ苦勞を懸けたと思われる。結局此の如き異型建物は、せめて内原の如く大量生産でもなければ算盤に合はない。施主側も豫想外物入りとなつた事は已む得ないと思ふ。

浴舎便所 何れも兵舎に倣ひ丸型であつて、この種の建物は用途上からも丸型は必ずしも不合理とは思はない。友部監部訓練所の浴室は實によく出来て居た様に思ふ。

炊事舎、物置 是は用途上丸形は不便であるから方形とした。燃料は勿論薪炭であるから竈が必要である。凡て收容人員は訓練生300人、指導者を合して400人の食事に適當なる設備を要する。木造平屋建35坪を占める。

本部 是は當道場管理用建物であつて、一部に衛生室並に宿直室を設け建坪40坪餘である。

場長公舎職員宿舎等 指導者の宿舎は成可く一ヶ所に集める方が宜敷い

神社 是は毎朝夕禮拜すべき淨域であつて、當道場の中核に位置せばねならぬが、當所の如き山間地帯で山の尾根が三筋も場内に延び込んで居る爲その位置は餘程考據を要する。

禮拜場が設けられる際には必ず神社と禮拜場を結ぶ中心線は神社を透して伊勢神宮並びに宮城

に向つて居るのが普通である。神社は伊勢の大森を奉戴し、唯一神明造を模した形をとる事にした

國旗掲揚柱 練兵場は當道場の中樞施設に入る可き事は前述の通りであるが、屢々禮拜場を兼用とする事もあり、然る時は此の種施設も亦練兵場の一角、出来得れば稍々高臺に設くべきであらう是等の配置は只今研究中である。

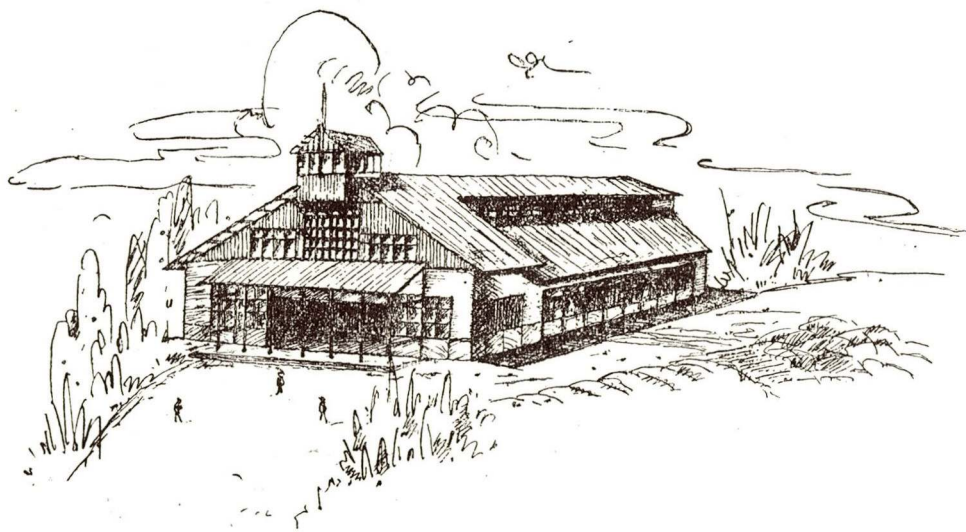
講堂 精神道場であり屢々武道場ともなる前同様當道場の中樞ブロックに入るべき建物であつて様式の如何なるものにもあれ外延發展的崇高感を伴ふ如き形式を採るべきであらう。一部二階を設けて農事參考館に充てる積りである延 150 坪餘當初室内には一切支柱を避けたいと希望したが豫算の都合上已むを得ず中間支柱を取つて構造を樂にした。屋根は瓦葺を採用して耐久性を附與しその片隅高く鼓樓を設ける積りである。

附帶工事 その最も重要なものは給水である。最初天の川より揚水する案を立てたが、水量の増減

は日常の不案を惹起するので掘井を求める事とした。揚水量一晝夜180石。短期訓練と雖も上水の有無は大いに志氣に關するので、此の如き施設は何はさて惜き最初に着手すべき工事である。然るに着工當初は全體系の建物配置未決定のものもあり、從つて給水源位置の確定もその爲に遅延し、配水設備も尙工事中途と云ふ現状は困り者である

更に設計者として惱まされてゐるのは浴室の給湯設備であつて、資材難の爲め釜の調達頗る遅延し目下漸く敷設の途に着いた有様である。

以上雜然と取り留もない説明で紙面を汚したが此處に事業計畫に關し、内原道場の監部諸賢の御指導と現地の實施計畫に當つて多大の御援助を賜つた京阪電鐵並に本市土木部河川課及び測量係の諸士に深き感謝を捧げ、尙今後倍舊の御援助を懇う次第であつて、最後に兵舎建設に並ならぬ努力を以てその功を全うした、施工者に謝意を表したい。



惟神道場建築所感

日本精神的建築構圖

禿 筆 生

筆者は今建築學的素描によつて惟神道場の紹介をせんとするものであるから、固より話題を建築に限定するであらう。

一外國人の建築批評を以て何も絶對的な指標とせねばならぬ程、日本自體の有つ建築批評眼の過少評價をする積りはないが「五十年前に歐羅巴人が日本に來て、日光こそ日本に於ける最も價值ある建築物であると言へば我々日本人もまたさうだと言ふし、昭和8年11月來朝したブルーノー・タウトは、伊勢神宮と桂離宮こそ、最も貴重な建築であると言へば、我々もまたさうだと思ふのである」と美事なる東洋的皮肉を披露された、東洋建築の權威者伊東忠太博士ならずとも、日本人はもつと――自らのものに見識を有つて良い筈である。併し見識と獨善獨斷とを混同してはならぬ。獨りよがりに陥入らないが爲めには常に活眼を開くことが大事である。

彼が主張する通り桂離宮や、其の他歴代の皇居宮殿等がその中に數へられるであらう。又大化改新の後、天皇の御勅諭を以て、制度化された式年造替制になる。神宮建築を忽緒に附することは出来ない。蓋し神宮は單に建築上から、眺めても國體との結びつきが深く感ぜられるからである。ヨーロッパの宮殿をみて感ずることは、宮廷生活と、庶民生活との距離が著しく強調されてゐる。桂離宮によつて示されるが如く、宮廷建築の多くが、一般住宅に比して、全く簡素である。

特に國體理念の淵源をなす、神宮の建築様式を考へるとき、ある決定的なものを看取することが出来るような氣がする。還朴といふ言葉があるが眞自目に還らむがためには時々人間に還朴の努力が追進されねばならぬ。これは生理的生命體についても、歴史的生命體に就ても、同様に妥當することである。還朴を知らぬ文化は頽廢的進化を約束する還朴を知らぬ生理體は考朽腐滅を速からし

める。

日本建築が問題になるとき、神社建築は先づ第一番に引合ひに出される。

神社建築が必ずしも同一様式を踏襲してゐるとは云ひ難い。しかし、神社の描き出す日本的な雰圍氣はその内容的な聯想からのみ來るものではなくして、特にその社殿構造に現はれたる、國家傳統乃至歴史傳統より受ける感覺のもち出す投影的なものに俟つ所が大きい。

若し日本の國土に於て文化が中斷されなければならぬ異民族相互間の政治侵略がなされたのであるならば、建築に於ても、歴史傳統を破壊されそこに急激な變化を齎すことによつて、日本的風格の形成が阻害されて居た筈である。

大社造や、唯一神明造が、連綿たる皇統の輝きを思はしめる如くな長年月に亘る傳統を残してゐる所に、云ふに云はれぬ奥ゆかしさを覺える。この兩造に現はれたる相違は平入りであると妻入りであるとの他に尙細部に亘れば相當なものがあるけれどもそれは或は巷間云はれる如く出雲文化と大和文化との相違に由來するものかも知れぬ。唯このために、出雲大社に詣でた時と神宮に額づく時との感覺にことさら異質的なものを覺えることのないこと丈は確かである。

この二大源流によつて分たれた神社は時代的變化を若干づゝ摺合することによつて幾多の様式を生み出したのであるが、大體に於て民族的風土的固有のにはひを消して了ふ程の大變化があつた譯のものではない。併し何と云つても素木造直線式のものにより多くの日本的ゆかしさを感じない譯にはゆかない。天武の朝に仰出され持統の御代に先づ實現された式年造替制によつて、今日依然たる當時の唯一神明造を拜觀することの出来る神宮御社殿こそは正しく國體的構想の代表な表象と見做すことが出来るのではあるまいか。

これ許りは幾度かの歴史段階におけるひたむきな外国模倣の偏向にも微動だにさせられることなく今日に至つてゐる。

天武天皇によつて企劃された古典編纂が元來憲法紹述國體明徴の意圖の下になされたのであるが時を同じうして開顯された建築上の構圖が又正にかうした深遠なる動機を前提とせるものであることに思ひ到らざるを得ない。

惟神道場はかうした建築理念の構圖を前提せずしてその雰圍氣を描き出すことは出来ぬ。

「朝日來向國、夕日來向國、浪音不聞國、風音不聞國、弓矢柄音不聞國、打摩伎志賣留國、敷浪七保國之吉國、神風伊勢國之、百傳度會縣之折久志呂五十鈴宮」

に鎮まり定まり給ふとして、御鎮座ありし、天照大神の都である、この神郷神都に入りてこれとはと眼をみはるものは御社殿を除きて、先づ惟神道場を措いて他にあるまい。日本精神を立體的構圖にしたようなその結構に一驚を喫する譯である。西洋流に二十世紀等と呼ばれることもあるこの時代にこんなものがよく出来たものだと思はれる。

9棟から成る惟神道場の建築は總じて素木造りの檜木の香もゆかしきものであるが、一際著るしく中天にそり立つ觀のある遙拜殿の見事さ。

入母屋鍔付檜皮葺40坪11、外觀社殿風、内部拭板張り、妻入りになつてゐる。

唯一神明造りが平入りであるところから、特に神部地方に於て平入りの民家は古來一般に遠慮されて殆ど妻入り式になつてゐる。唯一神明造りよりも、更に年代的には古き沿革を有つと云はれる出雲大社の社殿によつて代表される大社造りは妻入りであるが、その地方の一般の家の様式はどうか。遙拜殿の内部は大丸柱と格天井との調和を求めて鎌倉時代の豪健なる觀想の工夫と意識鍛練とを目指した設計者特別の趣向を意味するものであらうか。唯、この遙拜殿の建築特長たる入母屋造があつた神明造や大社造に似てゐる等とは、うそにも云へないのであるが、日本的構想の中に自らにして誘導される象形上の効果は全く相類したものと云つて差支へないであらう。この入母屋造は平安朝の宮殿建築に多く用ひられてゐる。當時の社殿建築にこの宮殿式入母屋造が採用

されて、今日神社建築の一様式をなすに至つたのである。橿原神宮や、二荒山神社はその代表的なものである。

この遙拜殿によつて抱えられる如くに、大・小講堂と食堂とが配置されてゐる。

木造切妻四方庇スレート葺69坪24の大講堂は平安朝の雰圍氣を軽く漂はせてゐるが、遙拜殿の描く空氣に輕妙なる變化を取合せてしかもその間些かも取つてつけたような嫌味を感じしめない。吉野檜材は遙拜殿の尾體材程の香氣的特徴を有たない素木八足の平机50脚が疊敷に映えて白衣の修養者を聯想せしめえも云はれぬ落着をみせてゐる。

木造切妻四方庇スレート葺49坪29の小講堂は、大講堂に反して、總拭板張りに椅子及卓を配置してゐる。遮光幕・映寫幕の設備を有つ。

小講堂の奥には特に、陳列所を附設する。木造切妻四方庇スレート葺18坪48にして、祭器具、社殿模型等を收藏する。

木造入母屋、鍔付スレート葺90坪38の食堂は拭板張り、格天井であり、座用圓座を用意する。その階下は地下廻廊を通すと共に炊事場を附設してゐる。

濯齋所は木造切妻スレート葺13坪41の戸内式と瀧二流、石槽一基磔敷込みの戸外式とを設けてゐる。

宿舍は二棟用意され、木造瓦葺第一棟に、74坪65平屋建にして第二棟は122坪69二階建、兩棟合して京間3疊52室、6疊2室に割る。

この外木造切妻スレート葺42坪24の本部があり、應接室、事務室、研究室、宿直室等を含む。

尙宿舍より遙拜殿、大講堂に至る一大連絡廻廊として、防空壕の觀ある、地下廊を工夫せるところ等設計者の苦心、建築の困難さ加減、察して餘りあるものがある。

倉田山上の學園内に殊更なる一劃をトして4269坪からなるこの一大修養殿堂の建設されしことを以ても斯界への寄與を稱へねばなるまい。

日本精神道場として寔境と營造物的條件とこれ以上を企求すること先以て至難の事に屬するといふも過言ではあるまい。

防 空 と 建 築

岩

田

恒*

1. はしがき

近代戦争の發展は當然國民の全體にその影響を及ぼす。故にこれを國家の總力戦といひ、高度國防國家の建設を強調せらるゝ所以である。殊に空軍の發達は敵國の心臓部と云はず、頭部と云はず手の先、足の先に至る迄、徹底的に破壊を及ぼすに至つた。就中その國の首府と重要都市は傳統的歴史の尊嚴も、經濟的發展も、文化的美化も、一瞬にして破摧されつゝある實例は、毎日提供されてゐる。イギリスでは彼の日没するところなき領土、七つの海を支配する「ユニオンジャック」旗の主權の君臨する「バツキングム」セント・ゼームス宮殿も、歴代の帝王やこれに忠勤を援いで、大英國の基礎を築上げ、國民尊崇の靈の安住せる「セントホール」ウエストミンスター寺院大伽藍も、最近では不屈の面魂の「テキーテル」氣障なイーデンが、負け惜みを吐く國會議事堂も藝術の粹を集める大英博物館も爆碎された。また夜を透して「シャンデリヤ」の輝く享樂の大廈、大ホールも、生命がけに物質慾の輸贏を爭ふシテイも、世界の流行の粹を集める繁華街も、社會生活活動の源泉の住宅地も、軍需と生活要の民需物資資源の工場地帯も、爆撃に曝され、夜つびで生を求めて彷徨する都ロンドンの慘禍……。

猛烈なる爆彈の威力はロンドン兒を防空壕に土龍のやうに縮ませ、人生への脅威、社會生活の混亂は前古未曾有の大慘事であることは謂ふに及ばず。これが爲ポーランドを始めとし、既にノールウェ、オランダ、ベルギー、フランス、ユーゴ、ギリシャの各國が各々旬日にして滅亡し、亡命中の元首連は日夜生きた空はあるまい。イギリスも今將に危機に頻し。傳統的な誇りとした「戦はずして勝たんとする」政策も敗退に次ぐ敗戦孤城落日の有様である。

現首相「チャーチル」はイギリスの現在戦争目的は一に「生き長らへる」といふことにある。「生

き長らへる生き抜き得るといふことを世界に示し得れば世界は自ら考へてくれるであらう。この能力が世界に認められた時、勝利といふ問題も起り得るのだ」と悲壯な聲明を敢てしてゐる位。當初はヒートリズム打倒を乗りかざした勢も現在のやうに追ひつめられるやうになつた。

されど「イギリス」の爆撃の状況を目撃した人々は、さすが大國民イギリスは飽迄悲壯な決意を以て、私的公的生活を犠牲にし「唯一の目的はドイツの撃破にある」と論陣を張り。連日連夜の爆撃に市民は騒がず驚かず慌てず。空襲警報が解除されると、殆んど平生の如く活動をつづけてゐるといふ。爆彈に明けて爆彈に暮れたる地獄の業火と悩まされてゐるロンドン市民は、朝が來れば蘇つて防空壕を出て歩きだし。都會の各機關は息を吹き返し。工場の煙突から煙を吐きだし。藪しかぶされた脅威！追ひ駈ける執拗な空襲に屈せず、くる日もくる日もロンドン市民の生活の強靱さはイギリス國民の保守的、耐久的な自尊心、自重性の國民性に依るべくも。國民防空各般の處置、殊に防空建築が政府の手に依つて大規模に、且つ相當徹底的に計畫準備されて居つたので。民衆の訓練と用意とに不完全のものがあつたにせよ。市民の政府に對する信頼が強く。既に一年有半斷然優勢なるドイツ大空軍の大猛襲下に曝されてゐる。このイギリスがバリーの如く、果敢なる世紀の悲劇評論家「モーロア」の著「フランス敗れたり」のやうに、敗戦の耻辱を世界に曝らすに至らない所以であらう。

この連爆下に生きてゐるロンドンの躍動はどこから來つてゐるか。都市防空の必要になるとき「防空と建築」を記述するに當り、見通すことの出來ぬ觀點がそこにあると共に、尙一つ重要なことは空襲と避難との關係であると思はる。故に先づ本論を述ぶる前にこれに及びたい。

2、我國の防空には原則として避難を認めない

イギリス、フランスの避難方針は自由主義個人主義に基調しドイツは全體主義を根基として居る個人主義のイギリスは今次の作戰に於て悉くドイツに制壓されるに至つたので。ドイツの對イギリス本土作戰の前にイギリスはこの避難方針につき既に避難せる者も内部から統制を紊るの狀勢にあるを見て上陸作戰對策として國民はこの位置を去るを嚴禁したのである。

個人主義自由主義は有産階級の者が自己の利益から愛市愛國の觀念を忘れて、逸早く安全地帯に避難する心理狀態は都市防護に無關心なることを暴露して、一般市民の反感や反抗心を惹起するに至つた。一般市民は曰く彼等の富はロンドンの繁榮と幸福を共にする、彼等の特權もまたロンドンに負ふ。市民は敵の空襲に對し若干慘憺である。彼等はこれを風馬牛視して自らの安全を企つことは非國民なりとして思想の反撥を招來した。そこでヒットラーの希ふイギリス國民の士氣を沮喪する導父となるであらう。

我國現在の防空方針として原則上避難を認めないことになつて居る。それはドイツに於て述べた通りである。これに加るに木造都市の構造は建物の防護を必要とし避難することはその防護の責任を放棄することになり。都市全體の防空の實を擧げ得ないこととなる。他方大群集の避難は交通上の大混亂を來とし空襲の災禍はこれに依つて却つて増大するに至るからである。これを東京に於ける大震災當時を想起すればその無秩序に陷ることは地上の火災のみでも明かである。餘り世間に知れ互つて居らぬが、日露戰役當時ウラヂオ艦隊四隻が津輕海峽を通過した時。函館市民は始めは露艦は青森側を通過するならんと判斷（それは嘗て露艦が奈古丸といふ帆船をこの附近で撃沈したことがあつた）したが。いよいよ露艦が函館側に近づくと有産階級の者が人目を忍んで地方へ避難し更に煤煙が見えだすと白晝公然と山手の方へ陸續逃げたことがあつた位で。空襲に當つての民衆心理が想ひやられる。防空上避難の方針は都市防空の社會問題と共に都市の建築もこの方針と併行して重要な問題である。種々の條件の下に避難を認めぬといつても老幼、病者、不具者、妊婦等は安

全地帯に待避せしむることは我國の都市構成に於ては必然に起る問題である。これ等も都市建築の現状とに顧みて深く考察せなければならない。

3、現在の都市建築は防空上何を要求するか

空襲に當り國土防衛上都市は軍防衛に即應せる國民防空に住民自らこれが防護に任すべきものである。而して民防空は大は國土經營、都市計畫等の恒久的對策を必要とすれど。逼迫せる國際情勢と四圍の敵性軍備から考察すれば先づ應急對策の樹立を急務である。これは防空の人的組織及その訓練にも併進的に緊急缺く可らざるものである。軍の防衛が機械化せる今日これに即應すべき民防空もまた科學的に考察せる裝備なくしては。精銳なる敵の正規軍に對する防戰にいかにも充溢せる防空精神を以てするも徒に犠牲を増大することとなる防空施設の世界一と稱せらるドイツの防空につき研究資料とすべきものがあると思ふ。

ドイツでは既存大都市に於ける市民生活が市民及其の子孫の精神上保健上に及ぼす影響を深く憂慮すると共に。防空を深く考察して人口の分布都市の分布、産業の分布等を検討せる徹底せる國土計畫が行はれてゐる。

我國に於ても國土全般を對象（人口、經濟、交通、通信、衛生、保安、社會教化）としこれに防空計畫を包含せる國土防衛計畫を必要として。最近都市を中心とせる都市計畫も都市だけでなく都市を圍遶す市町村等に農山漁村との連絡を計る地方計畫が強調せられて京濱地方も阪神地方も連繫する防空計畫を要することに着眼せらるに至つたのである。

それと近來主要都市の防空防護の緊要なることに鑑み六大都市と北九州一帯の地方に15ヶ年整備せられんとしてゐるといふ。その要綱左のようである。

- (1)火災の延焼防止に關するもの。
- (2)消火上必要なる施設の充實に關するもの
- (3)給水杜絶の防止に關するもの。
- (4)軍事公共公益の重要施設に關するもの。
- (5)危険工作物の防護に關するもの。
- (6)避難防護に關するもの。

右は土木に關するもの大部を占むるも(7)(4)(5)については建築物の耐火、耐爆、耐毒、構造に關

する施設も亦多いのである。

更に六大都市及全國の重要都市に實施せらる防空3ヶ年計畫の審議中で此等は將來の都市計畫に新らしき施設を要求せらるものと思ふ。

4、都市の防空対策上建築に関する統制強化

- (1)空地綠地を多くし市街地の分散疎開を圖り空爆の投下彈の命中率を少くし防火を容易にすること。
- (2)都市の施設を全體的にまとめ火災に對する強化を圖ること。
- (3)重要施設を適切なる配置と強化を圖り被害の輕減を圖ること。
- (4)都市を構成する建築物の防火対策。

以上は機要骨子であるが、空襲に際しては都市計畫に基いて建設せられたる街路整然たる地區には被害少く雜然密事したる市街殊に不良住宅が危險の多いことはスペインの内亂に於けるバルセロナの爆撃に於て最も明瞭である。

吾人は未だ空襲と火災の關係を體驗したことはないで、そろそろその幸福を覺ゆるものであるが、防火第一主義を強調するとき、大火災が各所で同時に起つた場合に慘狀と混雜とは如何であるかは、大正十二年九月一日突如として襲つた關東震災を想起すれば思ひ半に過ぎる。「咽喉元過ぐれば熱さを忘れる」の戒めはあるから當時の記録と轉載して、空襲の場合に於ける天與の試練としたい。

……猛火は寸刻も衰えず、大自然の兇暴ますます至つて……この大震災こそ、げに長へに後の代に傳ふべき凄慘の極みであつた。地震と火災の慘禍を吾人はこれを天譴なりと見送つてよいが、今空襲と爆彈それに焼夷彈と瓦斯雨下を忍ぶとき誰れか如上の慘狀を比較してその輕重を判斷豫想し得るや。天災地變は豫期し得べきでないが、空襲はこれを豫期し得るとき。來らざるを待むことなく待つあるを待け。天の未だ雨降らざるに當りその牖戸を綱繆するとの古人の戒を深考させるのである。

5、防火第一主義を建築上より見たる防空

木造建築を構成する我國都市は空爆の猛威に對しての防火第一主義とあることは當然である。木造家屋に對する防火対策は焦眉の急務であるから

政府はこの點を重視し市街地建築法に基く防空建築規則を實施し既設の家屋に對し防火改修を強制するに至つたのでその方法は次の如くである。

- (1)既存木造家屋を可急的に耐火構造とする。
- (2)隣家の火災から延焼を防止する爲外壁、窓、出入口、軒庇、屋根等の直接火燄を吹きつける部分は防火的に改修する。

この防火改修の方法中(1)は經濟的實現は相當困難の事情もあらんか(2)の實施は國庫補助、市の支出、改修家屋所有者の三者分割負擔で實施を容易にする。東京市では關係當局と木造家屋防火改修協議會を開き次の範圍で改修を要する家屋を指定したいといふ。

- (1)第1次改修範圍は舊市内の股賑街。
- (2)新市内の工場地帯約8800戸の程度
- (3)改修方法は防空建築規則に準じて現在家屋の外壁を鐵網、モルタル、漆喰、耐火木材、石綿等で改修し。出入口や窓にはモルタル鐵入ガラス等で同様理想的な防火處置を施して完璧を期する。

6、防火改修の實施は空襲の實相に即する重點主義なるを要す

思ふにこの防火改修は經濟上の事情、物資資材の需給、工務技術員の要員等の關係より之が完遂には相當長時日を要せんか。更に防空上都市改造の企劃は道路の擴張、交通路線の變更、建築物の分散配置等の實施と聯關を要するものであり。これと併行することを要するが、それよりも空襲の實相即ち空爆の目標等に依る重點主義が肝要であると思はる。

それは内務省發表(昭和14年7月)の防空土木一般指導要領にその適要區域は「防空重要都市及其近傍の他空襲の虞ある地域とす」とあるが如く重要都市及其近傍の中でも爆撃の目標たる營造物術工物に重點を置き、企劃、設計、補強、防護、應急處置に緩急の順序があると思はる。敢て股賑市街を第一とすることだけでなく。要は都市に於ける空襲の場合の爆撃目標を考察すべきであると思はる。

空襲の目的は戦争遂行の根基たる軍事施設資源と軍事行動上の連絡機構を破壊し、軍需及民需の生

産と生活の運営機能を不能ならしめ戦争遂行と國民の戦意を喪失せしむるのである。故に主要都市の爆撃目標は之等機關の所在にある。而してその所在は都市の各地域に散在しその爆撃に依り之等機關の附近に接近しある民屋が同時に爆撃の災害を受け火災の原因となり延焼の火元となるが故に先づこれを防火改修の重點となさねばならぬ。單に都市構成の富の集積又は繁榮の基地等平和的都市計畫に着意することは輕重本末を轉倒するものである。世間往々防空は空襲の實相に即すると謂ひながら。かゝる事あるを省察すべきである。ドイツ機が英本土爆撃に當り如上の重要目標の外に無差別爆撃を行ふのは一種の報復手段であることを見逃してはならぬ。(ロントン宮殿寺院、博物館及イスト、エンド爆撃の如し)

7、空襲の實相に即するには防火改修の外に重要施設がある

現下ドイツ空襲の英本土重要都市爆撃には各種爆彈を投下して居る、その重量爆彈は7.8層の建築物破壊の狀況は各階を侵透して地階まで貫通し。又建築物を縦斷しこれに焼夷彈を投下して火災を起さしむるといふ。殊に爆彈は上空より直下するものでなく、斜方向に建築班を侵透する故に破壊の光景は猛烈であるともいふ。いづれにせよ爆彈の爲に起る爆風、破片及震動は附近一帯の建築物の窓ガラスは完膚なく、甚しきは全地域の窓硝子は悉皆破壊せられ街路は硝子屑の爲砂礫のやうになりその清掃の爲一方ならぬ努力を要すといふ。

ヨウロッパの建築には窓に雨戸、扉、板、鎧戸のあるを普通とするが、我都市建築には殆んどこの設備がない。窓ガラスの破壊は燈火管制の設備も無効となるばかりでなく。破壊後は爆風侵入し又毒ガスの侵入も防止することが出来なく。室内で起居も執務も不可能とならん。これは防火改修についても重大な問題とならん。改修施設に窓硝子は鐵入を採用する方法を指示しあれどこれもその効用がなくならんか。又從來我國の防空訓練に警報あらば窓及開口部は總て閉鎖すべしと指導せられて居る。その理由とし毒ガスの侵入を防ぎ、又火災の延焼に對し火氣の進入を防止せんが爲なりといふも。左に示すドイツのこれに關する告示と全く反對で、窓の開放を要求せらる。これまた

空襲の實相に即する處置として省察を要すると共に防空建築上一切の窓及硝子をつけたる開口部は雨戸扉板鎧戸等の附着を必要とする次第である。

ドイツは1940年5月空襲時に於ける窓ガラス保護に關して一般に左の告示を發してゐる。

窓ガラスは爆彈の炸烈點より相當の遠距離にあつても被害を蒙る。これに對する絶對的保護手段はないが、空襲時に於てガラス窓を開放し、雨戸扉、板鎧戸を閉づること等は確かに破壊を免れる率が多い。窓ガラスは住居や事務室にとつて重要缺くべからざるものであるから、空襲に際し各人はこれが保護手段を特に平常用ひて居る部屋に講じなければならない。

これは地域的状況や天候にも大ひに關係する、警報から空襲への間は僅かの時間であるから、警報がなつてやうやく保護手段を施す様な事は先づ出来ないことである。何時でも間に合ふやうに準備して置かねばならぬ。

空襲時に於ける窓ガラスの保護手段として以下注意されし。

- (1) 地域的状況及天候の許さるゝ限りあらゆるガラス窓は常に出来得る限り開し置くべし二重窓のある所は少くとも内部の窓を開放し置くべし。
- (2) ガラス窓には出来る丈多く、雨戸、扉板、鎧戸を下して置かれたし。右(1)及(2)の處置を併せ實行するは最良の保護手段なるべし。
- (3) 防護室が極めて近接し空襲警報後窓を開放し、雨戸鎧戸を下す餘裕が充分ある場合には警報に際し迅速に之を實行するも可なり。薄暮に際しては特に遮光に注意すべし。
- (4) 紙片、絶縁テープ或は絆創膏等で窓ガラスを貼り付けてもガラスの粉碎を防ぎ得ないばかりか、粉碎された破片の脱落をも殆んど防ぎ得ない。故にかゝる處置は効果なし
- (5) 破壊された窓ガラスを應急修理出来るやう大型のガラス板か或は少くとも薄板又は厚紙の如きものを常に地下室に用意されし。

8、戦時下の工場は長期の燈火管制時にあつても生産擴充の活動を續けねばならぬ

我國過去の防空訓練に於て、警報が発令せらるると一般民衆は消燈して宵寝をし。大多數の工場は

夜間作業を休止する状態であるから。當局の不斷の指導と支那事變といふ無言の威嚇から燈火管制下の生産繼續といふ方面に家庭生活が正常化に向つたことは喜ばしい現象である。だが工場に於ては現下の國策的急務たる生産擴充といふ問題が益々緊要を強調するとき。防空訓練のときその実施期間の長期になることを望まざる傾向あるを聞く而して指導當局では燈火管制の期間が短少であるから作業を休止し居るが。管制は戦争の始めから終るまで實行を要するものなればこの趣旨の徹底の爲訓練期間を長期として作業休止を不可能ならしめる體驗が必要なりとの説を聞く。

現在の燈火管制の方法は殆んど總てが所謂暗幕を用ひて居るが、この方法は家庭生活に於て採用し得るものとしても。工場での暗幕使用は換氣衛生と保存といふ觀點から見ればその適當ならざることが首肯せらる。筆者が主張する所の國民防空は科學的に考察を要するといふことも茲に基調するのである以下これにつき述べん。

(1) 燈火管制と生産工場の現情

我國の燈火管制規則は國民の實踐すべき義務とし違反者には罰則を定めてある。防空には燈火管制を第一とすることは現下交戦國家否な國際關係が逼迫すると先づ空襲に對する警戒としてこの燈火管制が實施せられてゐる。空襲が主として夜間に行はれることの現況に於て殊に然りである。而して我國では管制の方法を原則的に警戒管制と空襲管制とに區別してゐるので。これを對策として先づ警戒管制の場合から見たる。

(イ)一般工場

(ロ)粉塵、有毒ガス、煤煙、熱氣等を發生する工場

(ハ)特殊的高度の火氣を發する工場

(イ)(ロ)に屬する工場では減光と遮光の方法によつて管制の目的を達するが(ハ)に屬する工場では警戒管制に於ても隱蔽によらねば作業の續行が困難なる爲嚴格に云へば、規則通りに管制の行はれてゐる工場は皆無に近い状態である。

空襲管制の場合には之等は一般に消燈又は完全隱蔽によつて聊かの漏光も許されない。茲に於て萬止むを得ない工場以外は空襲管制に入るや消燈して作業を休止して解除を待つ者多く。漸く隱蔽

によつて作業を續けてゐる工場に於ては、(イ)に屬する工場を除いては、隱蔽といふ特殊な條件の爲に世の中の最惡の非衛生的環境を醸成してゐるのである。

(2) 燈火管制と工場従業員の保健問題

かゝる狀況が工場勞務者の健康上に及ぼす惡影響については未だ研究の見るべきものを知らないが、管制に依る作業面照度の低下隱蔽の結果、換氣を失ふことに依り起る著るしき室内空氣の汚濁熱氣又は濕氣蓄積等を考へれば相當廣汎なる被害を起すであらうことが推測し得られる。先づ低照度に於て作業を繼續することは視力の過重な緊張となり。種々な眼疾の原因となる。この事は既に現時の歐洲戰に於けるロンドン市民の間に實際問題となつて現はれてゐる。

次に煙ガス、飛塵等によつて汚濁された空氣が徐々に呼吸器を始め、内臟諸器官に傷害を及ぼすことも容易に首肯出来ることで、今日迄の訓練に於ても間々臨牀的に勞務者の健康診斷を行つたものに依れば、呼吸の昂進、脈搏の増加、體温の上昇が一般に報ぜられてゐる。

尙高熱作業の工場に於ては前述の如き緩慢なる彩影の外に熱原が放射する多量の副射熱及熱氣流によつて甚だしく室内温度の上昇を來たし、渴、發汗、頭重、倦怠、疲勞等の徵候を訴へ、長時間に及べば眩暈を起し卒倒する者をさへ生ずるに至れる例、又化學的各種製品(硫酸、硝酸、塩酸等)を使用する工場に於てはその發散するガスの爲、健康上有害なる爲、防毒面、これに類するものを着けて作業し、或は工場内天窓を取りはづして作業する等の例を見る。かゝる状態に於ては作業能率も著るしく低下すべきは論を待たざる所にして誠に憂慮すべき問題である。イギリスに於ては、燈火管制下に於ける工場能率は著るしく低減し、戰時下最も必要なる軍需品製造に大なる苦難に陥るといふことは當然の歸結である

(3) 工場に於ける燈火管制設備

然るに一度戰時の體制に入れば警戒警報は逸早く發令せられ、いかに長期に亙るとも嚴重なる管制を勵行しつゝ生産の手を緩めることは出来ない而して空襲警報の發令あれば最も敏活に空襲管制の移行を行ひ得る如く、警戒管制の状態に於ける

作業遂行を眼目として衛生的環境を作り得る管制方法を講すべきである。

實戦下にあつては空襲警戒の頻發或は長期間連續といふことは最近の多く空襲實例に於て考へ得られる。我國の地勢が四面海を遶らし、且つ細長く（全長4,600軒幅の最も廣い所で300軒）周囲の軍備情況は空軍基地を以て我國を包圍狀を否すと飛行機の飛躍的進歩に伴ふ空中戰術の變革等を思ふとき、警戒管制中に於てもいつ空襲來るやも計られず。然らざるも空襲管制への移行は晏如たるを得ざる不安の下にあること多かるべく。この地勢よりせば總ての工場は管制設備を完全にし始終隠蔽による管制を行ふことを理想と考へる。

9. 工場建築に隠蔽と換氣設備の必要

工場隠蔽を完全にして些かの漏光もなからしめることが肝要である。従つて先づ第一に完全な遮光をなす資材を以て設備を行はねばならぬ。これが爲從來は布、紙、金屬板、板戸等種々なる材料が用ひられて居る。この内最も多く使用されて來たものは布であるが、いづれの場合に於ても之等の設備に當つて隠蔽時の換氣が殆んど考慮されてゐないのは共通の欠點であると思ふ。完全隠蔽の下では照明は如何にも大きく出來得るか。換氣の點では相當な困難を伴ふのである。何故なれば換氣に必要な開口部は漏光部となるからである。隠蔽材により完全に閉塞されて仕舞のが一般の状態であるから、空氣の流通を相當に行ひ得る様な間隙で、同時に内部からの漏光を完全に防止することは一つの矛盾した條件を含むものである。

一般に換氣を行ふ方法には機械力による法と、自然風や室内外の溫度差による自然換氣による法とがある。機械力に依れば稍理想に近ひ換氣を行ひ得るであらうけれども。工場は概して氣積が著大なるため全部を機械力によることは莫大な設備費用を必要とする。故に到底一般的には採用され得ないとすれば今一つの法自然換氣に持つ外はないのである。自然換氣の原動力は前記の如く風及び室内外の溫度差であるが、一般に空氣交換の理法に依れば、排氣の量は開口の斷面積及風速に比例するに對し、溫度差に對してはその平方根に比例する點より見て作業の性質上溫度差の生ずると否とに拘はらず。最大限に風力を利用することが

最も肝要である。然るに常にその方向並に速さを變じるものなれば、これを利用するに當つてもその規準を何れに置くべきか。又建築物の形態、大きさ、方角最後に通風可能なる隠蔽材料が問題となる。換氣作用に於ける二つの要求は吸氣及排氣であるが、現在の工場建築に於てこの點がどの程度に考慮されて居るかは甚だ疑問である。先づ吸氣に付ては筆者の知る所では高溫作業の一部に於ける以外殆んど無視されて居る状態で。抜きさへすれば何處からか這入つて來る程度だと思ふ。勿論平時に於ては側壁の窓が吸氣口として十分に働くが之等の窓が一度隠蔽された時に漏光をしない吸氣機構が是非とも必要となつて來た。この點に就て有益な參考となる科學的研究として二三の試案が發表されてゐるが、未だ實際化された工場を聞かない。他面排氣に付ては唯一の機構としてモーターを使用してゐる。併かもその構造はモーターの兩側に所謂カラリを作るもので。その排氣効果が如何様であるかは問ふ所にあらず。十年一日の如く殆んば進歩がなかつた。

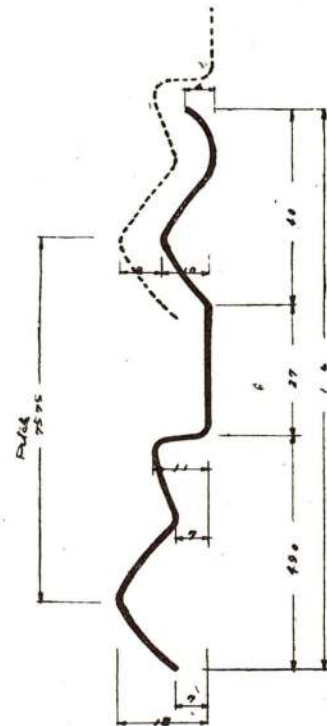
10. 燈管鋸は斯くの如き特長を有す

燈管鋸は防空科學研究所森枝師の研究發明（特許を有す）にかゝるもので、特種の彎曲面を有する金屬鋸（近來鐵資材不足の爲スレートを以て代用す）である。之を組み合すと空氣の通ふ隙間が自然に出来る。光線がこの隙間を通過せんとしてこの特種の彎曲により互に、反射反轉しつゝ光力を抹殺するが故に光線は絶対に外部に漏るゝことがない特長を有するものである。

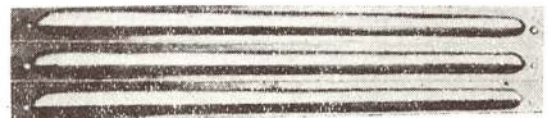
之を屋根、壁面、窓、其他の開口部に裝置すれば燈火の管制時に於て屋内各種の光を減滅する必要なくして屋内では平生通り作業を繼續する事が出来る。それと前述の組合せの隙間から通風換氣の作用をなすが故に、屋内の混濁した空氣も熱氣も有毒ガスも粉塵も完全に排除されて、従業員の保健衛生に支障なく作業を繼續することが出来る特に平爐裝置の工場にありては、高度の熱作業をなす爲の心身の疲勞と倦怠とを軽減し得る。又裝置は永久的で他の資材の如く取はずしの煩瑣なく迅速敏活に、操作し得るが故に從來極めて必要であるが、その實行の確實性を缺く。警戒管制から空襲管制に移る場合の敏活なる操作は理想的に實

施し得る特長を有するものである。尙この燈管鋇は不燃質であるが故に燒夷彈に對する發火と火災延燒の場合の防火と爆彈による風とに大なる抵抗力を有し被害を輕減せしめる事が出来るのである

11、燈管鋇の規格は種々あるが其梗概を圖示すれば左の通りである

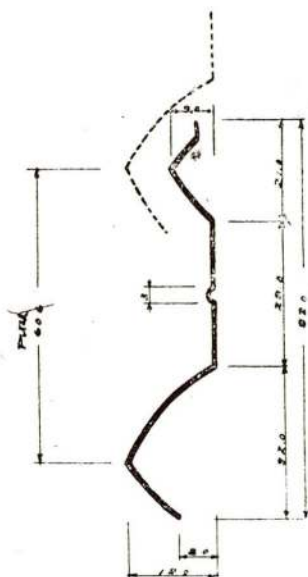


L	管径	BWG
15 _R 455mm	76 mm	305 28
20 _R 606mm	" "	305 28 26
30 _R 910mm	" "	28 26

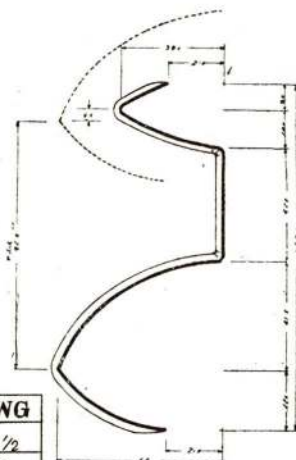


第1圖

A型主として一般工場で特に強烈なる光を放射せない建物の使用に適す。住宅、事務室、官公署、病院、寄宿舎、劇場、浴場等

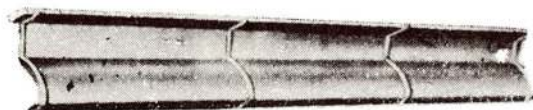


L	N	BWG
30 _R (910mm)	≡7-9 (9.4mm)	30 1/2
	(.)	28

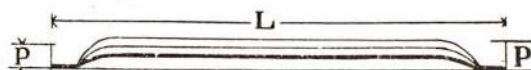


第 3 圖

光線の弱い個所で出来るだけ換気を大ならしめる部分例へば普通作業場の通風塔に適用され又縦型に使用しても通風は非常に良好である。特に酸性使用工場には耐酸性塗料を使用するも可なり。

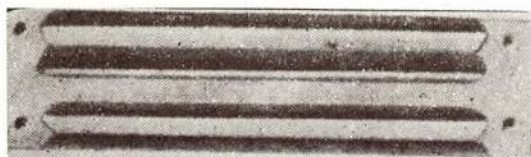


L	効 寸 法	BWG
1.5 _R 455mm	60.5mm	30 1/2
	≡	28
2.0 _R 606mm	≡	28
	≡	26
3.0 _R 910mm	≡	30 1/2
	≡	28
	≡	26

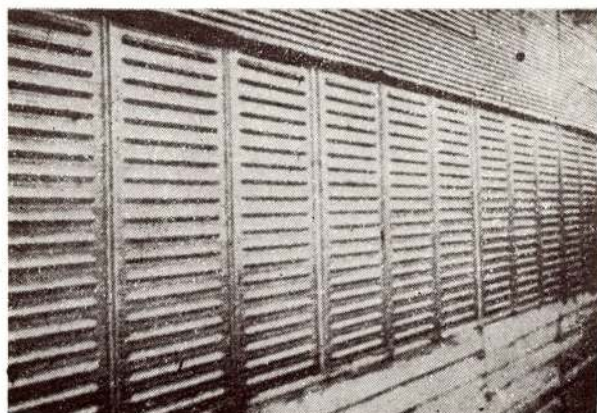
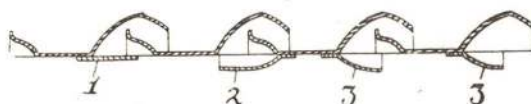


第 4 圖

1.2.3.は各異りたる強化鉄である。本品は第1圖、第2圖、第3圖の各燈管鉄の内側に添付して、光線の入る方向を限定し、遮光効果を強大ならしめる用に供す。

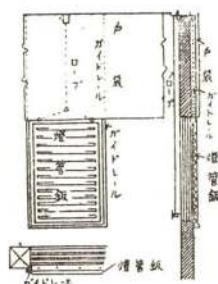


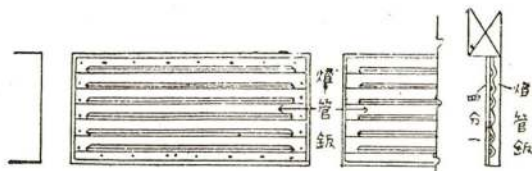
第 2 圖



第 5 圖

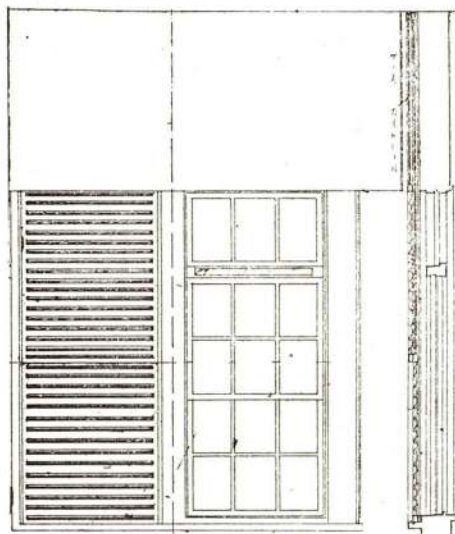
燈管鉄の取付様式
連続せる引揚式取付である幾列かを1本の捲取シャフトにて捲取り多數を同時に開閉することが出来る。本装置は紡績工場の鋸屋根の如く連続せる同一寸法の窓には便利である





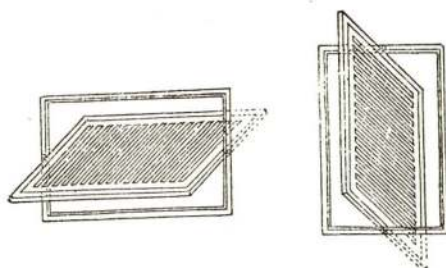
第 6 圖

開閉の必要のない部分即ち嵌利し式で先づ三角辨又は連接孔によつて燈管架を所要の寸法に連接し釘又は木捻を以て目的の場所に取り付けるものでガラリには此式を多く用ひられる。



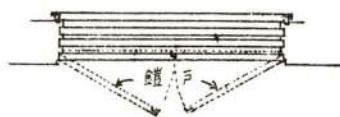
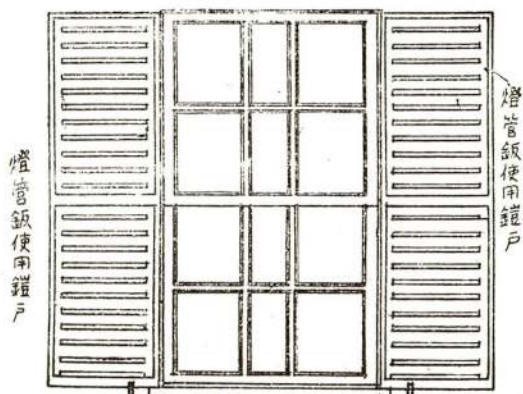
第 7 圖 複式引上げ式

1. の引上げ式方法は窓上に燈管ドアの高さに相當するゆとりが必要であるが、若しゆとりの少ときは本圖の如く窓の高さの内法を二分又は三分としてこの寸法と同一の燈管ドアを作り開閉には1. の如くロツプに依るもよし上げ下げ窓の如く分銅を用ゆるもよいのである。



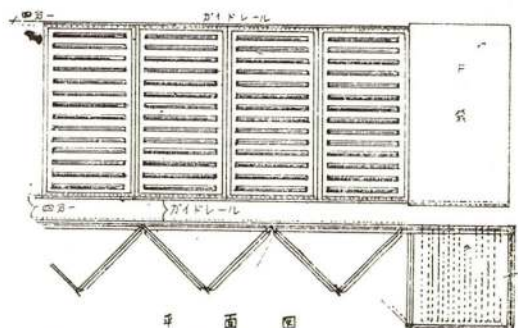
第 9 圖

通氣塔に於て採光の必要ある時は本式を用ひて採光燈管防雨等の目的を達する事が出する。



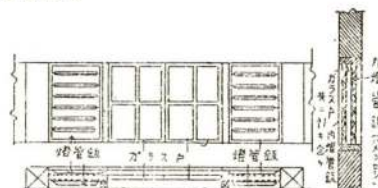
第 8 圖 嵌 込 式

一般住宅其の他一時的に最も簡便な方法である。先づ燈管架を所要の大きさに組立てケンドン式取付見込寸法ある時又は掛障子式に取付ける。此方法によれば周圍に何等空間を要しないから周圍に全く空間のない所でも容易に取り付け得。單窓二重窓は極めて簡便に體裁よく鐵戸の代用となり又盜除に適す。



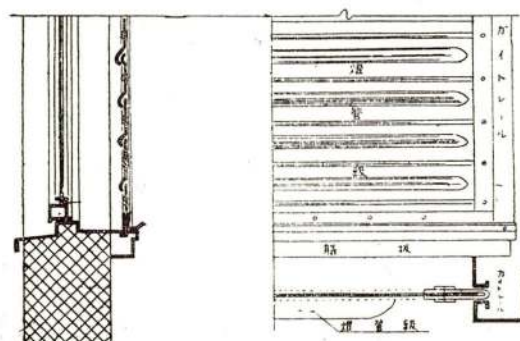
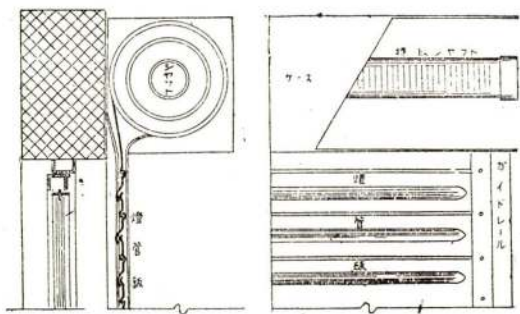
連續せる多くの窓又は下場の開口部ではこの方法は最も安全で便利である。

7 引き分け式



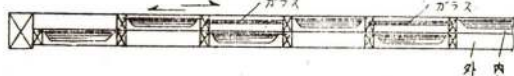
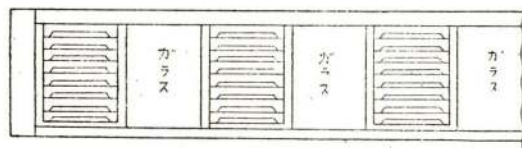
9 第





第 10 圖

10. 無双窓式



以上圖示する燈火鉋は始めて昭和十三年八月大阪帝國大學醫學部教授梶原博士の實驗に依る（報告は省略す）續いて同博士の指導を受け研究の結果昭和十四年十一月小倉市に同燈火鉋を取付けたる工場を建設して、更に博士の指導の下に實驗を重ね實用に供するを得たのである。

之より先き佐藤鑑氏の衛生式モニターに關する貴重なる理論的實驗が學界業界の注意を喚起し、高温作業の工場のモニターに之を實用化された外一般工場には未だ實用の域に至らざるも、示唆に富む研究の發表を見たことは喜ばしい事と思はる併し之等の研究はモニターのより有効なる形態の研究が眼目であると思はれる。或は工場の状態に

よつては、或は防空隠蔽の目的に副ふこともあらんか。

燈管鉋は特に防空遮光と換氣の兩面から研究されたもので、既に陸海軍工廠に於ては數年前から使用され實用化されて居る。これを工場等の建築物に使用することに依り完全なる燈管管制と排熱排ガス、排塵粉の作用を爲し、従業員をして安全に作業に従事せしめ、従つて燈火管制の下に於ける作業能率を維持せしめ、現下生産擴充の國策に合し戰時態制に於て最も必要なる軍需及民需の要求に資するに足るものと思はる。

今其の機能を説明すれば、薄鐵板又はスレート等に依つて作られた特殊の形態を持つたもので。側壁下部等の吸氣口には外氣の流入に對して抵抗の少くし。又排氣口には極力外氣の流入を妨げ、併かも室内上昇氣流の遁出に對する抵抗を少くする形のものを使用することに依つて、モニターに於ける貫流氣流を防ぎ、風背側に生ずる陰壓を最も有効に利用することが出来る。即ちこれに依れば、モニターの風向側は常に閉され逆に風背側は常に開かれてゐるといふ理想的結果を生ずるのである。

尙在來のモニターにありては之に直角方向乃至は平行ならざる風力は風背側の陰壓により排氣力を生ずるも、之と平行なる風に對しては風上の妻面に近い少部分のみ排氣力として作用し、間もなく兩側からモニター内へ侵入する外壓となるものである。然るに燈管鉋はその形態上相隣る二個の斷片の間に強力なる陰壓を生じ、何れより吹く平行風に對しても全面が排氣口として作用する特長を有する。併かも最近の研究では高温高度の火光煙、飛塵等を共に發する平爐工場及之に類似の工場に於てはより一層大なる換氣作用を要するに鑑み、モニターの擴大をなすと同時に之をM形に改良し、尙屋根面に特殊に考案された燈管鉋を葺くことに依りこの惡條件が一舉に解決されんとしてゐることは注目に値する。

12. 燈管鉋をM型屋根に用ひたる工場模型の實驗

左圖は燈管鉋の實物寫眞でその用途場所に依り種類を殊にする。

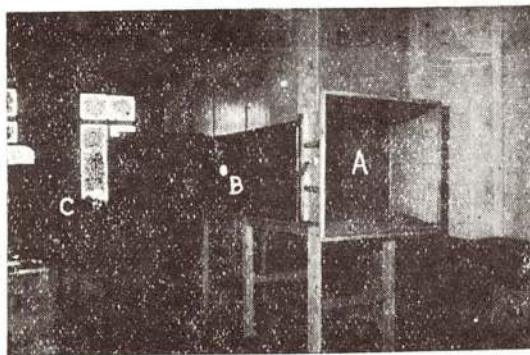
(1) 實驗の目的

高温、高熱工場に於て勞務者の健康上換氣の必要なることは言を待たず、然るに燈火管割の場合燈火の隠蔽の爲換氣は阻害せらる。燈管鉋は強烈なる光線を完全に隠蔽し且つ相當の通氣をなすものである。この機能を最も有効に利用するにはM型モニターの頂部に之を設備するを可としその際の排氣及吸氣窓の状態に於ける建築物内の氣流の分布状態を驗知せんとするにあり。

(2) 實驗の方法

阪大教授梶原博士指導の下に中根技師擔任せるものとす

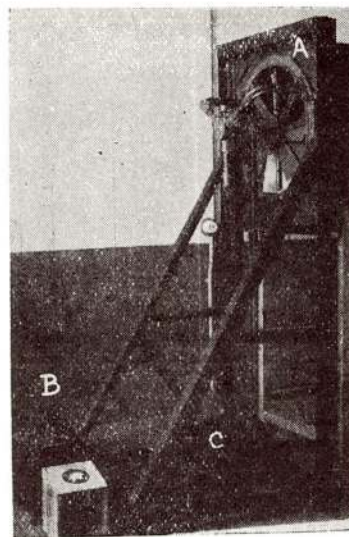
實驗の目標を高温高熱の爲最も障害多き平爐工場に置き其約 $\frac{1}{1000}$ の模型を作り煙の中に於て線香の煙が微粒にして輕量なる點を利用して空氣の動きを指示する手段に用ひ。且線香の火を熱源として利用す而して換氣に要する勢力を熱對流の外、自然風の勢力即ち太陽「エネルギー」を主として利用せんと試みたるもので、其の爲扇風器を以て風洞中に種々の風速を起し其換氣に及ぼす影響を觀察す。



第 1 圖

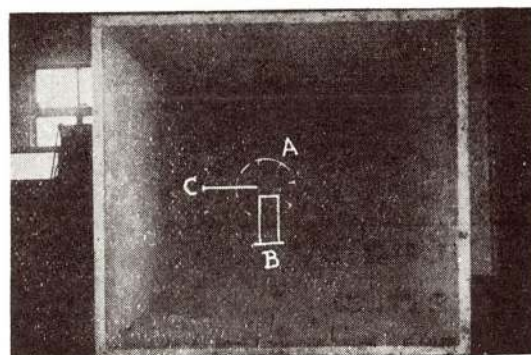
第1圖の風洞の側面に硝子窓を設け其の中に一面と底面とを硝子張りせる工場の断面模型を置き其の中に線香を収め又他より煙を供給し又風洞外より照明しシテダル現象に依り煙の動きを觀察する如くす。

第1圖 風洞Aは吸氣口、Bは風速測定用ピトー管Cはピトー管の壓力するシャットック式傾斜測微壓計。



第 2 圖

扇風器Aは羽根B可變電壓器によりCの電動機
の速度を調節す



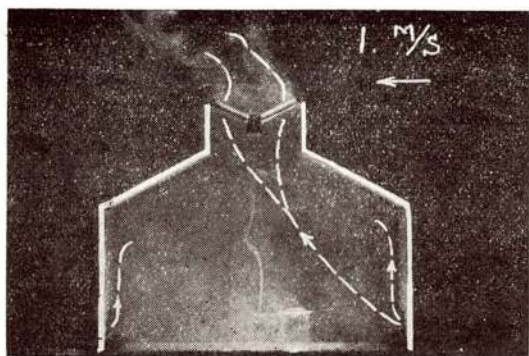
第 3 圖

風洞を見透したものはAは羽根Bは被檢模型Cはピトー管

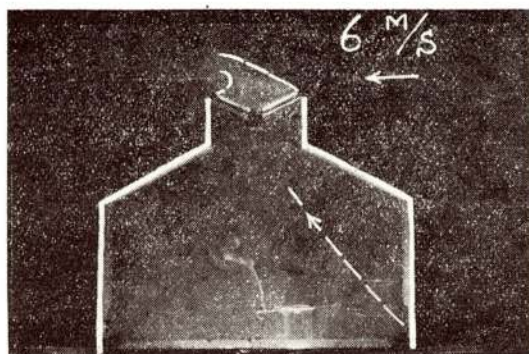


第 4 圖

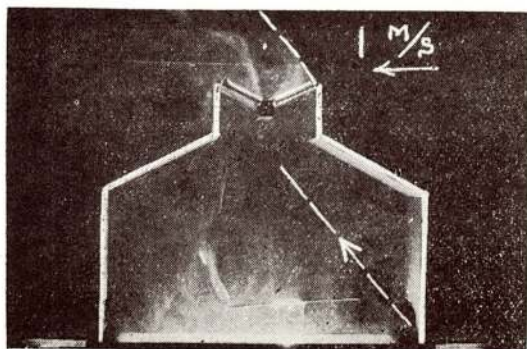
無風、煙は熱對流により眞直に上昇し梁に當りて分散し大部分は其儘燈管鉋を通過して屋上に出づ、縮流して上昇し他の1部の煙は屋内を下降して吸氣の新鮮空氣と合して環流をなす。又吸氣は外壁に沿ひて一度上昇し次に方向を變して下降す。



第 5 圖 甲



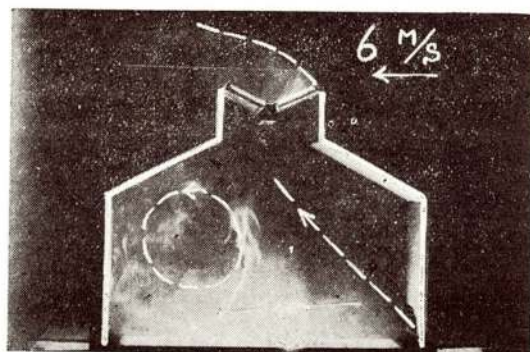
第 6 圖 甲



第 5 圖 乙

第 5 圖 (甲、乙)

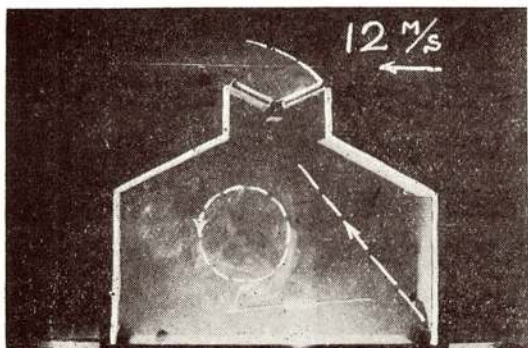
實風速平均0.1米(毎秒)にして模型比百分の一なればこれを建築物の場合に換算1米毎秒の割り合となす
尙模型の寸法は底邊40厘とす 吸氣窓は外部に於て遮光し空氣は上部に向ひ進入する構造である。屋根に當つた風はモニター上部に陰壓を作り排氣を助け吸氣窓より進入せる空氣は建物内部を横斷して排氣屋根に向ふを見る



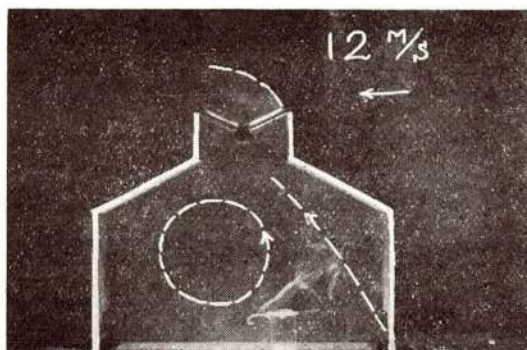
第 6 圖 乙

第 6 圖

風速平均6米(毎秒)の割合にして前圖同様の換氣をなす。但第5圖の(乙)第6圖の(乙)に於ては吸氣面積を約2倍にせるもので 第6圖(乙)に於ては風速大なる爲屋内に渦流を生じ煙が再び床面に向ひ下降する場合を示す。



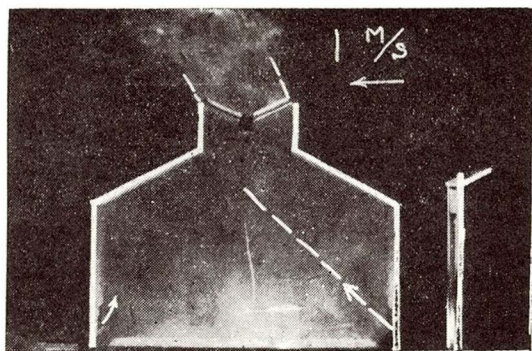
第 7 圖 甲



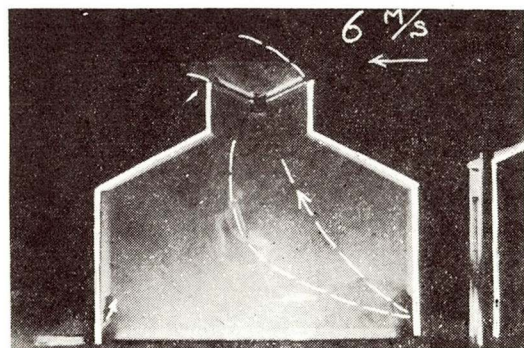
第 7 圖 乙

第 7 圖 (甲、乙)

12米毎秒の風速により渦卷を生ず



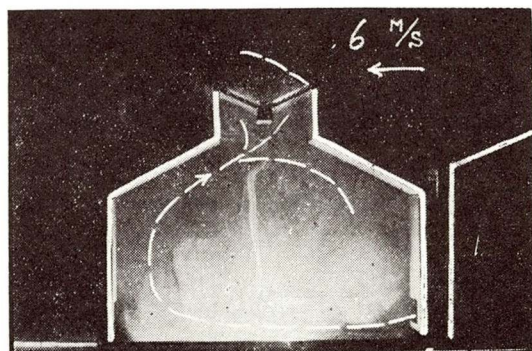
第 8 圖 甲



第 8 圖 乙

第 8 圖 (甲乙)

工場建築物は單獨に在ること稀で通常狭き場所に建並び風上にある建物は充分の換氣を得れど風下にある建物は風上の建物の生ずる陰壓の爲に吸氣を防がれ却つて風上の方角に向ひて排氣する事多し此の爲に風上に他の模型を置きたるに速度を稍減ぜしのみで良好なる吸氣を示せり。此れはM型屋根が充分に陰壓を起す爲と思考さる



第 9 圖

上記の各圖は建物の換氣は良好なれども 目的とする勞務

員の作業場たる床面の換氣不十分なれば之を改善せんとしして吸氣が床面に向ひ進入する如く即ち圖の如く新鮮なる空氣が床面の惡染せる空氣を驅逐して後屋外に排出せらる様になる。

實驗の結言

右の模型實驗より見ればM型排氣屋根は所期の効果を收むるものと思考せう。其際吸氣口より導入する空氣は作業面に向ひて方向性を持たすことを要す

附記 内務省防空研究所は昭和十六年四月本實驗を基礎として實物に近い平爐建築物につき慎重なる重驗研究を行ひたり。いづれその結果を公表せらる日を待つ (阪大教授梶原博士指導中根技師及研究所員参加す)

聞く處に依れば目下この種目的の下に研究發明せられたもの二十種に達するが其内本件は優良なるものであるといふ。

13. む す び

防空と建築についてはこの外に必要な缺くべからざるものが多々がある。その恒久對策を別として應急對策として我國では避難を認めざる方針なれば、尙更に防護室や防空壕の施設は空襲に當り防空の根本たる生命を保護する爲一時待避して被害を避け。機を見て見て防護作業を行ふことは必須のことである。されば「防空と建築」といふ本題に於てこれに言及せねばならぬ。これはスペイン内亂に於けるバルセロナの施設は最もよい適例でこの施設のない間、毎空襲に於ける死者は200乃至300名を數へたが、これが完了後にあつては死者が皆無となつたのである。我内務省計畫局は「防空壕構築指導要領」を公にし懇切に明示せられて居るが故に、本文に於てこれを省略する。

本研究は戰時態勢に於て近代戰の實勢は國家總力戰であり。これが爲生産擴充は防空上の施設に於ても軍需民需工業の進展は極めて鑒要で、爆撃に對する災害の防止危害の輕減と共に併進せねばならぬと思考したからである。

戦時に於ける工場作業の熾んなるにつれ火力に依るものは高温度、高輝度、飛塵等を發し平爐及之に類似の工場に於ては大なる換氣作用を要するものあるに鑑み、モニターを擴大し之をM型に改良し屋根面に特殊の考案された燈管鋇を用ひて排氣面を擴大し之と共に側壁に使用する吸氣燈管鋇を使用し其他は近來研究進歩せる遮蔽幕を使用することにより問題が解決せらるべし。殊にこれまで我國に於ける防空施設中未だ何人の注意を缺く處の窓ガラス開口部のガラス戸は、爆撃に際しては全く破壊せるが故に本文に於て記述せるドイツに於ける告示の如く。一切のガラス窓の開放を要するといふ戦争ドイツの實驗を體得するには歐洲に於ける建築物の如くガラス窓の外部に戸板、扉板、鎧戸をつけねばならぬこととなる。これにしても本研究の燈管鋇を利用すればその目的を達するを得ん。更に電車、汽車、船舶其他の交通、運輸機關にも戦時態勢の機能増進上必要缺くべからざるものなれば、斯道の専門家のみでなく一般の注意を喚起し一日も早く完璧を期待して止まぬ次第であるそれは時局逼迫する現状に於て他力主義や、功利主義で觀望する如きは斷然揚棄して實用化した最良のものを採用してこれを前進せしめることこそ吾人の責務なりと信するものである。

翻つて吾國都市の現状は防空対策上あらゆる方面から見て緊急を要するものが多い。いづれも建築土木に屬するもの丈でも次の種類がある。

防護計畫として、

- 1 火災の延焼防止に關するもの
防火地區の指定、綠地帯の設定、空地區の設定危險地域の道路改修
- 2 消火上必要なる施設に關するもの
自然水利の利用、淨化水置の増加、貯水槽ブール自家用水道の設置
- 3 給水杜絶の場合に關するもの
- 4 建築物の耐火、耐爆、耐毒、通信、送電施設に關するもの
- 5 危險工作物の防護に關するもの
- 6 避難及救護に關するもの
廣場、公園道路及隣接市町村關係
防空土木に屬する計畫として
- 1 地下道の新設
道路の交叉點又は重要地域に地下道の開設は避難所としても交通対策としても最も必要とする
- 2 小公園式避難所の開設
- 3 電話電燈線を地下線として共同溝を作り防空壕開掘を容易ならしめる
- 4 送配水線を一方斷水するも他の水道から送水し得せしめる
其他交通系統に屬する軍事上の要求と公衆防空と併行する施設
等恒久対策に屬するものあれど應急対策としての施設は國防國策として獨り政府當局の計畫指示を信賴する丈でなく、國民防空を擔當する一員として研究することを切望する次第である。

防 火 に つ い て

井 上 新 ^{*}二

此の前建築協會の總會で防火改修の話を相當詳しく申上げましたので、今日は極く簡単に大體のお話を申上げることに止めて置きます。

日本に空襲があつた場合、一體どう云ふ爆彈を持つて来るだらうかと云ふことは誰も一應考へられることでありますが、結局焼夷彈をふんだんに持つて来るだらうと想像されるのであります。處が現在の日本の都市は木造建築の集團都市で、焼夷彈に對しては残念ながら殆ど無抵抗と言つて宜いやうなものであります。それではならぬので之に對して或程度の抵抗力を附ける必要があるのあります。理想を言ひますれば勿論木造建築を全部鐵筋コンクリート建築に直してしまふのが一番好いのでありますが、それは急には出来ませぬので、兎に角過渡的な一時的の縫綴策ではあります。防空建築規則を出しまして、新らしく出来て来るものに付ては或程度の防火構造を要求し、在來の既設のものに付ては所謂防火的な改修をするのであります。これでは徹底したものにはなりませぬが火災が起つても成べく燃えて行く時間を延すと云ふやうな効果は充分にある譯であります。之に付ては、そんな不徹底なものならば、いつそ一町内で適當に鐵筋コンクリートか煉瓦等でしつかりした防火壁を造つたら好いぢやないか、其の町内で金を出し合つてやれば、一軒一軒でやるよりは安く出来上るだらうと云ふやな話もある譯であります。偕てさうなつた場合には、場所的に言ひますと、焼夷彈は相當集中されて落ちるだらうと思ひますが、結局それぞれのブロックの中に焼夷彈が落ちると云ふことになりますから、それに依つて中の家は全部燃えてしまつて、唯鐵筋コンクリートの防火壁だけが残ると云ふことになるだらうと思ひます。それではいかぬので、矢張り一軒一軒其の周圍を防火構造にすると云ふやうなことにしなければ仕方がないのであります。尤も桃井少佐が話されましたやうに1萬發とか2萬發

とか云ふやうな焼夷彈が一度に7平方米に1發と云ふやうな割合で落されましたならば、一軒一軒に落ちて、全部燃えてしまふと云ふやうなことになるかも知れませぬが、さうなつたらもうお仕舞で其處まで考へて居つたら、何もやれないのであります。兎に角的つた家は或程度燃えるかも知れないが隣へ延焼して行くのを成べく長びかすやうにするのが目的であります。最近防火改修をした建物が一軒失火しまして、燃えたのであります。それが方々で火災實驗をやりましたやうな調子で非常に緩り燃えまして、一度是は迎も大變だと云ふので、逃出した家族が暫くして振返ると、一向火の手が上らない、是は緩りした火事だなと云ふ譯で、ぼつぼつ歸つて來て消火にかゝつたと云ふことであります。非常に緩りした火事になつて防火改修の威力が如實に現れたやうな譯であります。マアさう云ふ式で行きましたら、總てのものが焼夷彈を以て皆燃えてしまふと云ふことはなく、警防團隣組の力に依つて抑へることも出来るのではないかと思ひます。

詰り災害を局部的に抑へることが出来るのであります。こんな主旨で現在は防火改修に變身を饗して居る譯であります。

防火改修をするには相當な金が要ります。空襲がなかつたらそれだけ無駄だといふ人があるかも知れませぬが、例へ空襲がないとしても、金を掛けて決して無駄にならないのであります。大阪では從來相當火災を受けて居るのでありまして、平時に於きましても、防火改修をして置けば非常に有効であります。中心部の船場、島之内邊りの表通をぶらぶら歩いて見ますと、大抵の家が表掛りは防火改修をして居りまして、軒先は土塗りになつて居り袖壁が澤山出て居ります。恰度防火改修をされたかの如く見えますが、あれは屢々大阪の人が火災の悲惨な經驗を嘗めて居るから、そんな構造が昔から發達して來たのであります。

茲で大阪の大火の話を概略申し上げ度いと思ひます。大體 250 年位の間に大阪には大火と名の附く火事が31回ありました。其の中でも大きなものを拾つて見ますと、先づ第一は享保9年3月21日午刻に全市の4分の3を焼いた大火がありました。これを妙智焼といふてゐます。これは堀江の金屋治兵衛の祖母妙智が失火しました。焼失した町數408、橋54、寺136、竈數60000といひますから大した火災です。

大阪に於ては相當大きな火事で、殆ば全部が焼けてしまつた譯であります——次は寛政の大火と云ひまして、寛政3年と4年に2回相當大きな火事がありました。寛政3年は10月10で堀江の南北島之内全部が焼け竈數にして13000、東西に23町、南北5町程の間の區域が全部すつかり焼けました此の時に三津寺の八幡様も焼け、日本橋も焼落ちたのであります——其の翌4年5月17日の火事も亦相當大きなものでありまして、之は七郎右エ門町より出火し、町數89、竈數10000、寺25、橋10、が焼失しました。御靈社、天満天神が焼け、又橋では天神橋淀屋橋が類焼したのはこの火事であり

ます。

——其の後天保8年に所謂大塩焼と云ふ火災がありました。是は天保8年2月19日に大塩平八郎が兵を擧げまして、先づ天満の自分の家に火を放ち主として船場の富家の家屋、殊に土藏をねらひ、火矢、砲礮玉を投じました。延焼一晝夜半續きまして相當な區域を焦土と化しました。

町數にして112、家數にして3389、竈12500、土藏411を焼いて居ります。

——次は文久3年11月21日の五幸町焼と云ふものがあります。五幸町から出火しまして 南は長堀空堀北は安土町、北新町、西は横堀川から東は中道村の範圍を焼いて居ります。町數にして87、家數にして2232竈9000が被害を受けて居ります。是迄は明治以前の大火の主なるものを拾つたのでありますが明治になりましてからも31回の大火の中10回ばかり相當な大火があります。皆様の中でも相當年配の方は知つて居られませうが、明治になつてからの大阪の有名な大火は此の大火と南の大火であります。北の大火は明治42年7月天満の空心町から出火しまして、珍らしく東風が非常に

強く、それに煽られて天満、曾根崎を焼失して、福島 of 五百羅漢まで焼き貫きました。其の先の田圃で、もう燃える所がないから、火が止つて居ります——其の後間もなく南の大火がありました。それは明治45年2月で難波新地の風呂屋の煙突から盛に火の粉を吹出しまして、今から考へるとおかしいのでありますが、其の附近に相當藁屋根があり、それに西風が強かつた爲に、火災を起し、千日前及日本橋筋を焼き生魂神社の所まで行つて止つて居ります。家は約50000戸ばかり焼けて居りますが、有難いことには大正以來はそれ程の大火なく済んで居ります。

斯う云ふ風に、大阪では250年程の間に31回の大火に兎舞はれて居りますが、中心部では何時も被害を受けて何回も苦汁を嘗めさせられた結果、是ではいかぬと云ふので、防火構造を相當に考へて、表側は軒から火が移り易いと云ふので、軒裏を漆喰塗にしたり、或は袖垣などを附けたりして防火的には或る程度効果のある様になつて居ります。建築されたその當時は一應道路に面して居る部分の防火構造で好かつたのですが、後に裏の方に段々建築物を相當に建築してゐますから、結局表側は相當防火的になつて居つても、裏側が全く薪を入れたやうな恰好になつて仕舞つたのであります。従つてどうしても之に防火改修をやつて、裏側を表側同様にする必要がある譯であります。さうした防火改修をするのにどれ位費用が掛るか云ふと、船場、島之内の方では、已に鐵筋の建物土藏等があり塀も立派な防火壁と見て好いものでありますので、相當家が大きい割合にさう金は掛らないのであります。一番困るのは長家とか或は所謂建賣屋が造つたやうな家でありまして、殆ど全部改修しなければならぬやうな状態になつて居るので、さう云ふ所が却て金を喰ふのであります。現在では先づ500圓乃至600圓見當の金を掛ければ改修が出来るのであります。全國に於ける火災の損失高は一年に約2億5000萬圓見當でありますが其の中大阪に於ては2千5百萬圓でありまして全國の火災被害高の約1割であります。

今大阪全市域を防火的に修するには約3億圓程掛るのであります。3億圓と云ふと相當大きな金でありますが大阪の1年間の火災被害高から考へ

て見ますと、3億圓と云ふ金は決して無駄ではないと思ひます。殊に第一線に於ては百數十億圓と云ふ金を使つて戦争をして居るのであります。それに對して比較的僅な金をかけて全國の重要都市を防火改修すると云ふことは、必ずしも無駄ではないばかりでなく、さうすることが結局第一線に働く皇軍將士をして家は安心だぞと云ふ氣持で、

十分に働かしめる所以でないかと思ひます。さう云ふ觀點からすれば、3億圓と云ふ金は大したものではないと考へられますし、何とかして著々防火改修をやつて行きたいと思ひます。

我々も是から大に頑張る積りでありますが、皆様も是非御協力願ひたいと思ひます。

(昭和16年4月21日防空講演會速記)

- ☆ 紫烟室御投稿には横書16字詰に
願ひ致します。
- ☆ 締切は前々月1日です。
- ☆ 掲載が都合で遅れる場合でも別に
通知致しませんから御承知置
願ひます。

八幡の松花堂

岡田孝男*

大阪の茶室、大和路の茶室を巡った筆者は次に京阪沿線の茶室を案内して、本年の責任を果たしたい。京阪沿線には、舊京阪の八幡に松花堂。新京阪の山崎に、妙喜庵の待庵（利休好み）及水無瀬神宮の燈心亭（後水尾上皇の好み）があり、上桂に西芳寺の湘南亭（千少庵好み）がある。なほ桂には有名な桂離宮があつて、松琴亭、笑意軒、月波樓等の名席があるが、これは寫眞の手續が面倒なので、しばらく敬遠し、今月は松花堂、十月は燈心亭、十一月は待庵、十二月には湘南亭を訪れて、一段落をつけたいと思ふ。

松花堂昭乗は、男山八幡宮所屬の寺、瀧本坊の僧である。昭乗は書をよくし、繪を描き、又茶道和歌に通じて、當時の風流人、石川丈山、木下長嘯子、本阿彌光悦、小堀遠州、鳥丸光廣、江月和尚等との交遊も深く、松花堂筆として繪や書の傳はるものが多く、又その所持した茶道具は八幡名物として、名高いものがある。

この昭乗が晩年に隠棲した庵が、二帖敷丸爐の茶室として有名な松花堂である。

京阪線八幡で下車してケーブル電車に乗り換へ山上に着いて少し歩けば、男山八幡宮に達する。近年改築されて威容を整へた朱塗の華麗な神社で、弓矢の神として、出征將兵の武運長久を祈る者が多く、又正月や節分に破魔矢を授けられるので、厄年の男女の參詣する者が多い。

參拜を終つて、ケーブルと反對側の參詣道を下つて行けば、中腹に石清水神社があり、清水をたたえた井もある。（此社は八幡宮勸請以前からある社で、鳥居には松花堂筆の美しい文字が見られる）このあたりには、瀧本坊跡、更に二、三丁下つて泉坊跡があり、昔時宮寺の榮えた所である。

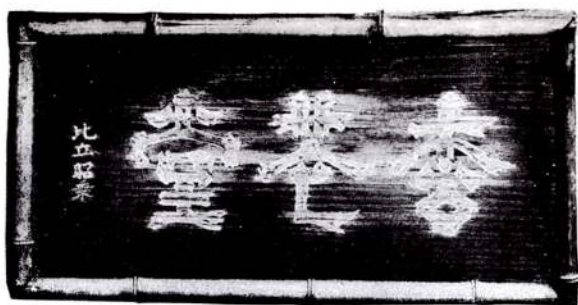
石清水八幡宮は清和天皇の貞觀年中に宇佐より勸請し、中古以來朝野の信仰が篤かつた。佛教が盛んになるに及び、八幡宮所屬の僧が多くなり、その宮寺は雄徳山護國寺と稱し、眞言宗に屬し、四十八坊の多きに達した。此等の坊舎は、八幡宮の四周及中の谷に涉つて榮え、後には、宮よりも寺の方が榮えて主客顛倒の形になつたから、明治の神佛分離、廢佛棄釋の時には、眞先に槍玉にあらがり、寺は徹底的に取毀されたのであつた。

松花堂の建物もこの時に壞されることになり、一時は山下に移されて荒廢してゐたが、明治二十四年、現在の西村芳二郎氏邸に移され、先代芳二郎氏が保存に力を盡されたので、幸に腐朽もせず美しく残つてゐる。西村氏邸は、男山の下で、八幡驛からバスで約15丁、八幡町大字志水小字女郎塚19番地である。

移轉の際、庭園は、樹木、石組共そのまゝ持來られたとのことであるが、地形の相違によつて、多少變つたらしい。しかし茶室松花堂は舊態を存し整然たる江戸初期の風格を残してゐるのは喜ぶべきことである。なほ茶室を含めて庭園は史蹟に指定されてゐる。

松花堂の建物は、一間四方の萱葺寶形屋根の美しい茶堂で、二帖敷の茶席に一帖の踏込、臺目板貼の勝手、半坪の瓦敷土間が、うまく組合せてある。

二帖の茶席は書院床が南面して、床の内壁は板貼となる。その左に二段の袋戸棚があつて（小襖には松花堂筆の文が書いてある）その下部は板敷となつて丸爐が切つてある。その左の持佛堂は東面し、踏込一帖との間を襖二枚で仕切り、押入の縁に取扱つてある。南は戸襖二枚で瓦敷の土間と仕切り、東は障子二枚引違の貴入口となり、その外に濡縁がある。天井は竹の薄皮網代に鳳凰の繪



京 漫 沿 線 の 茶 室 ・ 1 ・

八 幡 松 花 堂
岡 田 孝 男

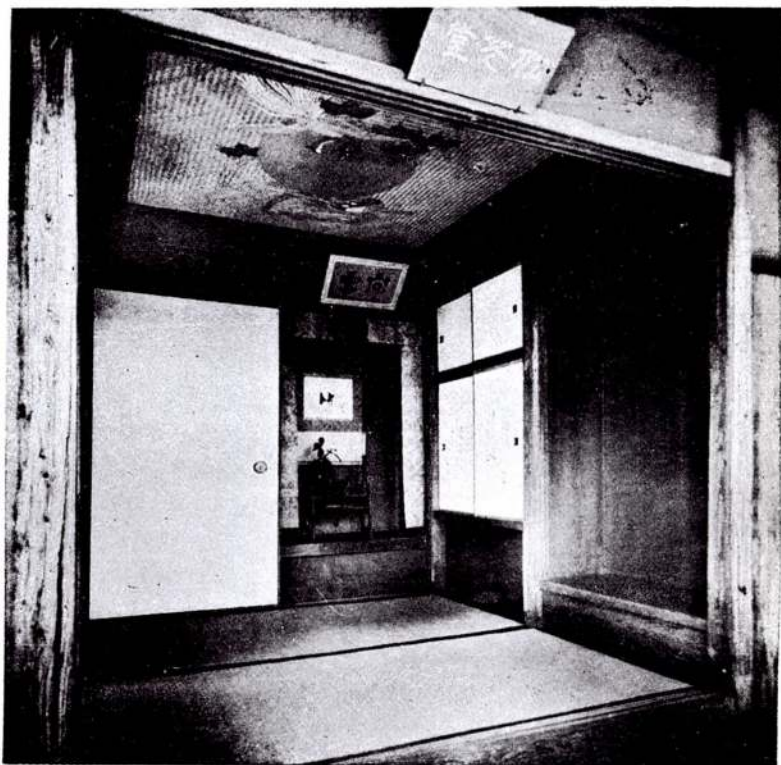
1. 昭乗筆 松花堂額（岡田寫眞）

昭乗は近衛前久公について御家流を學びなほ弘法大師の書法定家郷の書法も研究して獨特の流儀を出し、將軍家光の書道を指南し、八幡流、又は瀧本流と言はれた。なほ近衛應山公本阿彌光悅と共に寛永の三筆と言はれ、鬼瓦に福祿壽の三字を各一字宛書いたものが西村家に保存されて居る。

2. 松花堂二帖の茶室（岡田寫眞）

貴入口の障子をはずして東南より寫す。右の書院床は内部を板で貼りめぐらしてある。その左が二段の袋戸棚、この小襖には松花堂筆の文字がある。その下部は地板となり左寄りに丸爐が切つてあり其の故に有名である。この丸爐で湯を沸かして茶を點てたり、又看經の手あぶり、室ぬくめなどいろいろに使つたのであろう。

その左が持佛堂で、掲げてあるのは松花堂筆の自畫像である。襖を右に引けば、踏込一帖へ出られる。左は戸襖二枚で瓦敷の土間へ下りられる。掲げてある松花堂の額は新しいものである。





3. 松花堂古圖（都林泉名勝圖會より）



4. 松花堂東側圖（數寄屋聚成より）

3. 松花堂古圖

都林泉名勝圖會は寛政十一年秋里籠島の著書であるから、當時のものと、現在の移轉された松花堂を較べて見るのも興味深い。これによると現在のものは殆んど變つて居ない。よく舊態を保存して移されたものである。同圖會には男山の全景が出て居て石清水八幡宮の全景や、瀧本坊など當時の様がしのばれる。なほ泉坊及松花堂の露地の圖もある。

4. 松花堂東側圖

現在の松花堂で古圖に建築も庭園もよく似てゐる。屋根は萱葺寶形の美しい茶室で障子の見える所が貴人口である。

5. 松花堂跡

男山の中腹にあり、北の眺望がよい所である。傾斜を拓いた關係で、敷地はあまり廣くはない落葉に埋もれて井戸が一つ残つて居る。



5. 松花堂跡（岡田寫眞）



6. 昭乗の墓 (岡田寫眞)

6. 男山の下、平谷町の泰勝寺にある。基段上の中央が昭乗の墓で高さ6尺2寸の五輪塔である。墓碑面には、大阪阿闍昭乗、寛永十六年己辰九月十八日の文字が刻してある。

7. 松花堂躰り口

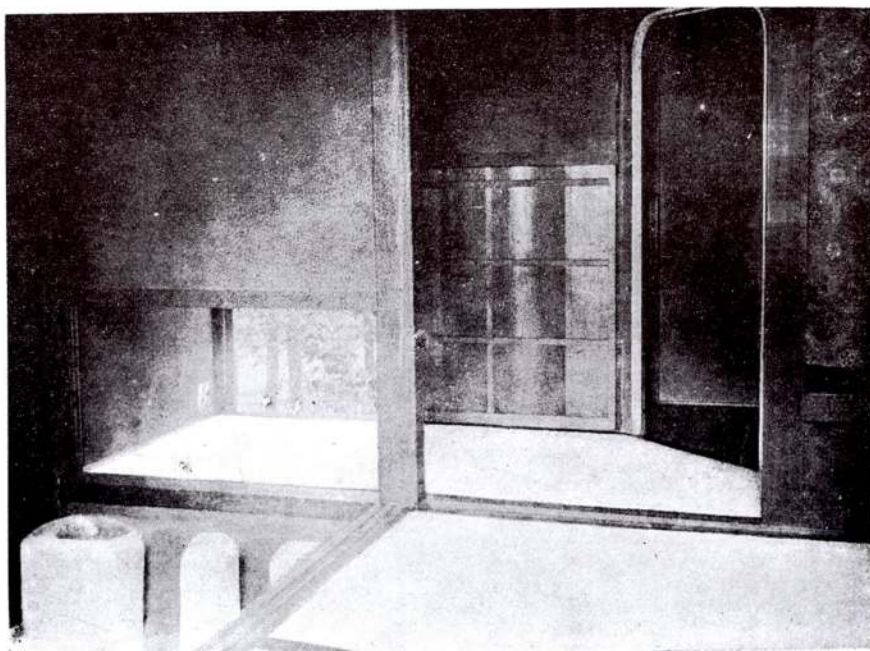
西側の外観で、躰り口から上れば一帳の踏込がある。猪の目形の下地窓は、勝手の明け窓で、この形は松花堂好みの猪の目として名がある。躰り口上の額は入深の文字である

8. 瓦敷土間の飾窓

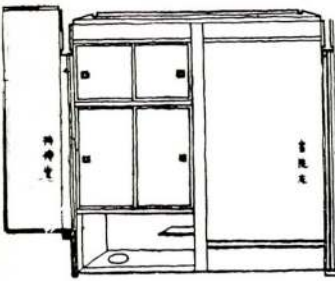
半坪の瓦敷土間に竈が築いてある。竈のむかふに地窓を通して踏込一帖の躰り口が見へる。この疊の斜に切つたところから勝手の板の間に入る花燈口がつき突き上げの襖が建つ。右手前の疊は二帖茶室の一部である。此所にある竈は現代の茶道では使ふことをせず飾り竈としてあるが、昔時は料理を暖めたり酒を暖めたりに使つたものであらふ。この種の竈は高度に整備した茶席ではなく、やゝ野趣のある席に往々見るところで。金閣寺の夕佳亭、東本願寺の涉成園内の縮遠亭桂離宮の月波樓などがこの好例である。



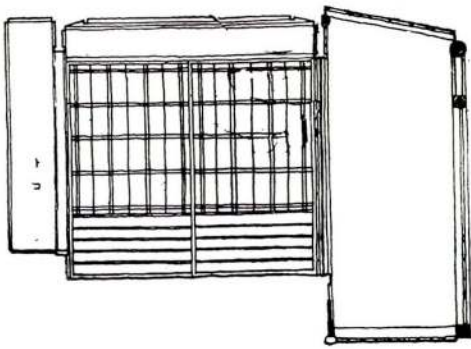
7. 松花堂躰り口 (岡田寫眞)



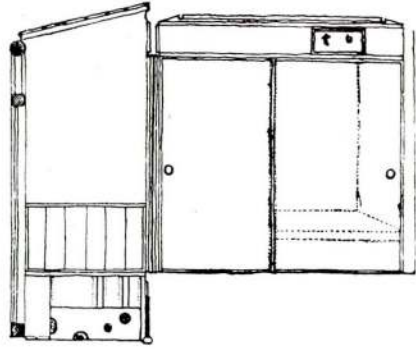
8. 瓦敷土間の飾り口
(京都叢書茶室篇より)



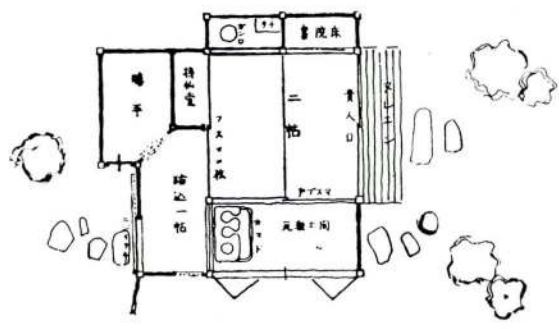
北側



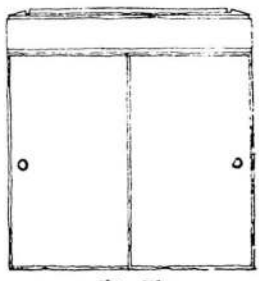
東側



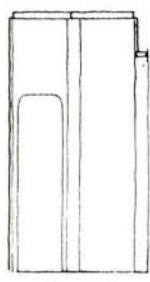
西側



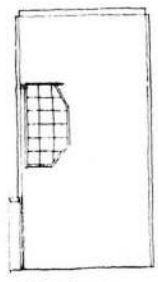
平面



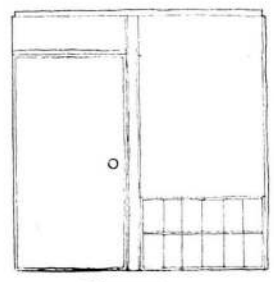
南側



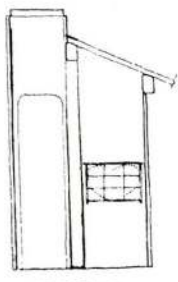
踏込北側



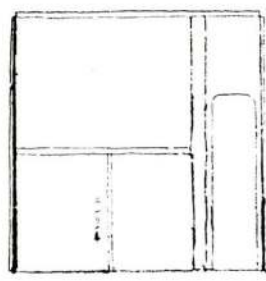
踏込南側



踏込東側

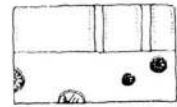
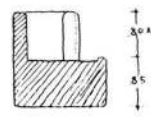
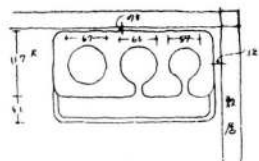


勝手南側



勝手東側

カマド詳細



八幡・松花堂茶室圖 (岡田孝男)

が極彩色で描いてある。

一帖の踏込臺は隅を斜に切られ、西に躍り口、北に勝手に通する火燈口がつく。

勝手は板の間で、猪の目形の下地窓がつき置水屋が据えてある。

瓦敷土間には竈が築かれ、その外には、二枚折の兩開戸が建つてゐるが、これは後になつて取つたものらしい。土間は開つばなしの筈である。

此松花堂は、茶堂式の茶席として、最も美化されたもので、僅か二帖の室ではあるが、障子を開ければ眺望もよく、庭まで擴がつた室の空間は廣く明るく、こゝが昭乗の書齋となり書室となり、茶室となり、看經の間ともなつたのである。

古くは、鴨長明の方丈、又同時代の奈良にある長閑堂（本誌7月號所載）と共に、小室住ひの好標本であり、現下研究される國民住居の好参考である。

この茶室で、昭乗が、行つた茶事は、恐らく、自在無礙のものであつたであらう。現代の規範的な茶室に於ける、喫茶を主とした窮屈な茶事ではなく、寧ろ喫茶は従となり、書畫を描き、詩歌を作り、風流を談ずることが主となつた、風流な集まりであつたと思ふ。江戸初期に於けるこれ等の茶の流義は、風流生活の達人によつて、始めて出来ることであるから、凡人相手の規則もなく、記述もない。従つて達人の歿後は、自然に流義も消滅して、今に傳はらないが、これこそほんとの茶の道ではあるまいか。現在の茶道が、點茶の作法技術にのみ、とらはれてゐるかに見えるのは、教養の低い者を相手としての仕方であると思ふ。勿論茶道は、點茶の作法によつて訓練さるべきであつて、この訓練は大切ではあるが、これが總てではない。作法は目的でなくて手段である。茶道の目的は衣食住の全般に亘る、生活の仕方の向上であると信ずる。

松花堂昭來は、天正10年、中沼元知の弟として攝津に生れた。兄の元知は堺に生れ、始めは喜多川與作と云つたが、幼少より聰明で、中沼家に入り左京と稱して、奈良に移り、興福寺の別當一乘院門跡に仕えた。昭乗も兄に従つて奈良に行き中沼家で育つたが、父母の名は不明である。昭乗は

祖先の事、父母の名、法號忌日等を一切人に語つた事が無く、終身この事については沈黙を守つたので或は豊臣秀次の落胤であるとも傳えられる。長じて近衛信尹公に仕え、近衛家との関係が出来て往復の文書も残つてゐる。17才の頃男山八幡宮の宮寺瀧本坊の實乗を師として仕へ、實乗の歿後は跡を繼いだ。

繪は當時八幡に滞在した山樂に學び後宋の牧溪を研究して一家をなし、後の圓山應舉等にも影響を與へてゐる。

書は、近衛信尹、本阿彌光悦と共に寛永の三筆とたゞえられ、瀧本流、或は八幡流の祖である。

和歌は、江月和尚と共に奈良より長谷を経て吉野に遊び葛城より當麻へ出た大和日記に數多くの名歌を残してゐる。

茶は小堀遠州の門に出でて、これを楽しんだ。その茶會記の一つ、京都の平瀬家（もとは大阪の）に傳つたのを記すると、

寛永九年申九月二十四日 初會

江月和尚 小遠江殿 伊筑後殿

村不及 同左平太 道閑宗玄

1 茶入 國司袋ハクコク盆七賢 茶杓玉ノ緒

1 茶碗 ひらの 1釜うは口以下河之 1水指4角

1 かうはこ 張成 1先服ハ棚ニ置テ

宮木備前ノ茶入

1 かけ物 三筆 1花ラカン 1花白河硯

1 棚上ニ頓阿玉葉ト小古今ト下ニ大獅子ノかうろ

1 石菖せいじノはちニ こはん香合置合

この茶會は松花堂茶室の出來に寛永14年より前であるから、瀧本坊にあつた茶室閑雲軒で行はれたものと思はれる。閑雲軒は瀧本坊の客殿の續きにある1間半四方の茶室で、床の間は間半で曲柱があると記してあるが、安永2年の瀧本坊火出により焼失したものである。現在も閑雲軒茶室は昭乗の墓所泰勝寺内にあるが、これは4帖臺目で新しい建物である。

昭乗の所持したこれ等の道具は、八幡名物として名高く、前記の唐物國師茄子の茶入、堆朱七賢人の盆、遠州俣共筒の茶杓玉の緒、義政公の御物花白河硯などは就中やかましいものである。

昭乗が寛政14年、松花堂を建て、引籠つたのは一つの運命観によつたものと云はれる。即ち、法祖父乗祐、先師實乗が共に卯年に癰を發して歿したので老境に入つた自身も、數年後にせまる卯年が危いと感じ、方丈を建て引籠つたのであるが、果して卯年の寛永16年9月18日、56才で癰を以つて没した。墓は八幡町平谷の泰勝寺にあり、毎年その日には、この寺で松花堂會の釜がかけられる。

昭乗はこの茶室で、看經し、筆硯に親しみ又心友を招いて茶事を催ふし、心ゆくまで、風流の晩年を送つたものと思はれる。長閑堂久保權太夫利世も、八幡の房これを山莊の樂となすと云つて昭乗の生活を慕つてゐるが、先々月に訪れた長閑堂は松花堂を見て、大いに氣に入り、これを建てたものであらう。

病を發してから、友人の佐川田昌俊や、茶の師小堀遠州（當時伏見奉行で近くに住んでゐた）の心配、療病に手をつくしたこと、又昭乗が不治の病と知りながらこれ等の好意に對して、柔順に従つた心境などは、松花堂上人行業記に詳しく書いてある。

× × ×

なほ松花堂として2帖の茶室が、大阪の貴志邸にある。八幡より移轉されたと云ふ人もあるが、

筆者はまだ未見だったので、眞疑の程は判りかねる。又大阪の田中邸にも茶席、松花堂があるが、これは明治になつてから建つたもので、松花堂の好みを寫してある。

松花堂寸法（昭和15年5月13日岡田實測）

①北側

書院床板厚 .15 躰込板高 .59 床奥行 1.42
間口 3.0 落掛セイ .15 床の間内法高サ5.05
落掛上小壁 .39 天井廻縁セイ .13 床柱釘天
板ヨリ 2.3 上り袋戸棚上ノ分内法高 1.4 間
口2.98 中敷居セイ .125 袋戸棚中ノ分内法高
サ2.625 中敷居セイ .12 中敷居ヨリ地板迄の
アキ 1.5 一枚棚 .7×9 厚 .06地板ヨリ 1.0
上り丸爐徑 .95

②西側

持佛堂框セイ .265 躰込板巾 .85 持佛堂奥
行 1.6 フスマ引違内法高 5.51 小壁 .65 竈
西ノ地窓高 1.68

③東側

貴入口内法高 5.51 土間瓦上端ヨリ床高 1.72

④其他

踏込ノ躰リ口内法高 2.97 巾 2.35

紫煙室

夜 學 な き 晩

堀 口 甚 吉

本週から夜學がない。早く家にかへつて先づ冷いビールを一本のみ、机の上に一ぱいつみかさねてあつた書籍、雑誌を整理した。今朝で漸く「書齋」といふ雜文を書きあげたからである。阪急沿線武庫之莊では此頃よく、夜明け方にほとゝぎすがなく、今朝も聞いた、「ほとゝぎすがないあるあれがそうだ」とねどこで子供達に教へた「聞いた、聞いた」と答へる。

柳田國男氏の文によれば東京のまん中에서도ほとゝぎすは鳴くことがあるといふ。大阪ではどうか、大阪では眞夜中に、かはずの鳴くのを聞いたことがある。

「夜學がないと私迄のんびりする。夜學がなかつたら長生きするやろ」と妻がいふ。

夜としては、久しぶりに書齋の机にむかつて、7月號の「建築世界」をみる。圖版をひと通りみて藏田周忠氏の武者窓の批評を読む。昔から氏の文章は通讀する。書評といへどもうまいものである。相當の年期と天分のゆたかさのためである。

次に河野輝夫氏の「新發明木造トラスに就いて」を読む。これは私が先頃新興木構造學といふ書を出したので商賣意識から熟讀する。氏が北野中學出といふことを知り、私のう

ちの子供も二人共、北野中學に通つてゐることから何かしら一種のしたしみを感ずる、人情といふのは妙なものである。

次に菊地重郎氏の「工業建築の一断面」をざつと目を通す、これは題目及び内容の概略を記憶して置けばよいのである。

次に力學の懸賞問題をみる。建築世界の力學の問題を40才を超へた私が見るといつたら人が不思議に思ふか知らないが、力學を講義してゐるので、これも商賣柄かいつでもチョットは見ると。いつも實用性がとばしいやうな且めんどうなものだなあと、いふのが私には落ちであるが、この月など、

(1) 張間5.5m 梁間隔1.8mの事務所木造床梁の斷面を決定せよ。但し用材は日本松、床仕上は板張り、「リノリウム」張りとする、

といふ極めてやさしそうなのでてゐる。この問題の山はなんだらうと不思議に思つたりする。

次に本日着いた「基礎研究」の第7號一通りめくつてみる。宮部博士の肩書が名古屋帝大教授になつてゐるのが目につく。地質工學演習問題といふのが4問題あり、これ又解答がつけてある。これは面白いところかと思ふ。内容はいつか讀む事にする

次に、保田興重郎氏の「民族的優越觀」といふ論文集をめくる。序文と第一の文である「誓論」を可成りゆつくり讀む。日本歴史の建設、國民文學の問題と日本の古典文學、明治天皇の御集について、文學と教養をザツと讀む、いつてゐることは豫想し得るやうな氣がする。保田氏の既刊の文集は殆ど目を通してゐるので、大がいの本の外の文も讀まなくつてもなにを云つてゐるかわかるやうな氣がする。批評家といふのは皆文章がなんか、ぎごちない新し味があつてピッタリこぬ。初期の小林秀雄にしても芳賀麟にしても皆文章にくせがある。小林氏の偉大さをほんとうに知つたのは氏の「ドストエフスキーの生活」を讀んでからだ、氏の第一、第二の文藝評論も出た當時讀んだか、何んだかピッタリせなかつた、氏のドストエフスキーにはほんとうに感動した。日本の批評文學では、明治以來この書ほどのものはないでらう。これにくらべると保田氏はまだまだあまい。

次に昨日の日曜にほとんど半分以上讀んだ「サミエル・ヂョンスン傳」の昨日のつゞきを讀む、1763年の記事でこの著者ボズウエルがヂョンスンに始めて會つた年で筆端急に勢をますあたりである。ヂョンスン博士は私の好きな人の一人で、十年も以前に石田憲次博士の「ジョンスン博士とその群れ」を讀み、感動した所は書きぬいてある。その後、研究社の英米文人傳の「ヂョンスン」も讀み、

古いものでは内田魯庭のものまで讀んだが、ボズウェルのジョンソン傳はこれ等の種本故、讀みたいとかねがね思つてゐたものである。英語の教科書になつてゐる抄本はチョット讀んだことがあるが、これは抄本である。全譯が出るといふので、この岩波文庫がいつ書店にくるかとか何回も本屋にたずねたものである。漸く大阪へは一昨日きた。なかなか面白い、近來讀んだ本の中、これ程面白いものはない。エツケルマンの「ゲーテとの對話」のやうなもので

あるが、これより面白い、ゲーテの對話も以前岩波で、「ゲーテとの對話抄」として岩波文庫に出したが、この頃また抄でなく全譯を同じ岩波文庫に出しつゝある。私は春陽堂から出した四六判上製の三冊本をもつてゐるがこちらの方、どれだけ本の感じがよいか知れぬ。その上譯者も同じである。しかるに春陽堂のものは昭和の初期是切りで夜店に出た。本の運命も變なものである。

讀書のあとでこの一文書いたら午後十時になつた。



1.

洋家具の話 (第3編)

ビザンチン、アラベスク・ロマネスクの家具

平 尾 敏 也

前編でギリシヤ、ローマの家具に就いて申上げましたので、洋家具の歴史は更にビザンチン、ロマネスクに進みます。

ギリシヤ、ローマ混合式の所謂グレコ、ロマン式からこのビザンチン・ロマネスクまでには永い時間が経過して居りまして、四世紀から六世紀に涉り東方原始基督教藝術(メロヴァンヂアン時代)西方原始基督教藝術(カロリンヂアン時代)及前期ロマネスク時代を経過致したのであります。我國と時代の對照を致しますと、神武天皇の御即位後數百年の時代に相當致して居ります。

この間、ハンニバル、スキピオ等現はれ、シーザー、クレオパトラの物語がありますが、コンスタンチヌス大王がビザンチンに國都を定め、(西曆323年)(仁德帝十一年)後年ビザンチン帝國の礎を作りましたので、家具にビザンチンの家具があるのでございます。(寫眞第1、第2)

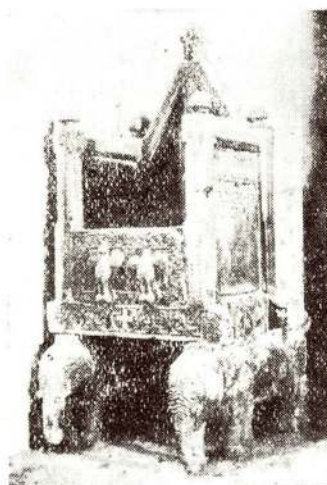
一方キリスト教以外に洋家具史に忘れる事が出来ないのは、マホメッド

(571—632)が回教を廣め、此處に華麗なサラセン文化(アラベスク模様)が發生致しました。

又、洋家具史には直接には影響ありませんがアラビア數字……1.2.3.の文字が、この時出來たのであります。(第3圖参照)

エジプト、シリア等に建立された多くの寺院の中でも、コンスタンチノーブルのサント・ソフィー寺院や伊太利のラヴエンナの、サンヴィタル寺院は、後に來るロマネスク藝術に深い影響を與へたのであります。

洋家具史から申しましても此時代は暗黒時代で、宗教上の争鬭、又は不斷の戰禍で、ギリシヤローマの文



2.

化は破壊され蹂躪されて、實物で残つてゐるものは皆石材製で、材木製のもの一つありません。

その上、洋家具は戦争や争鬭の巷から逃げたり、持ち運ぶ爲に皆丈夫な部厚いもので出來てゐたと確信出来るのでございます。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

アラビア數字と近代數字

3.

図

A



4.



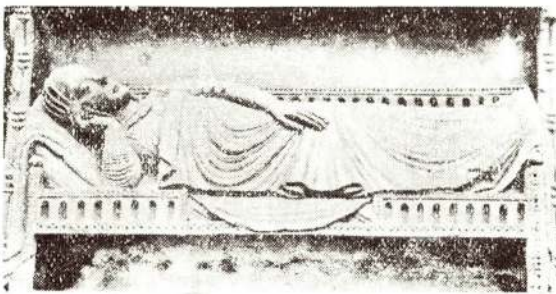
5.

その暗黒時代を通じて宗教家のみが文明とか藝術を保持してゐましたので、寺院の建築の爲に作られる家具なので皆、宗教的の浮彫や模様や構成のものゝみで、大衆は日本の民藝の「げても」に似た質素な部厚いものであつた事は繪畫や彫刻で知る事が出来ます。ですから、ビザンチン及ロマネスク時代の洋家具を説明するには

1. 初期宗教的なものであつた事
2. 型が巨大で部厚いものであつた事

であります。

これと同時に代前記サラセン文化はアラビア數字の他に、數學的には十進法、代數學を二次方程式より四次方程式まで進め、球面三角法、物體落下の法則の發見、アルコール硝酸、硫酸、火藥、羅針盤を支那より輸入し、地理學、哲學、言語學、天文學等を發達させましたので建築は非常に發達致しました。



6.

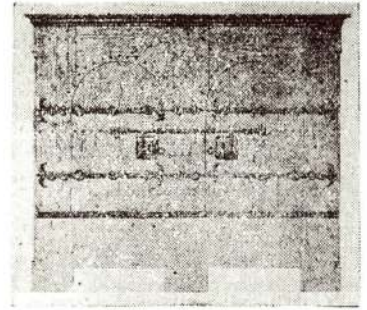
この時代に次のゴシック時代の基礎になる種々の型様が出來、ゴシックの先驅をなす蹄形穹窿形を作り、この代表的な建築がグラナダのアルハンブラ宮殿であ

ります。

唯、このマホメッドの宗教は偶像の崇拜を禁じましたのでサラセン文化の模様には、人間や動物の模様化したものやこれに近い繪畫も彫刻もございません。幾何學的なアラベスク模様は豪華な花や唐草模様の配置で出來て居りますので、家具史との關連するものはスペイン家具や、イタリー家具に見る織物や人造眞珠の發明があり、それを裝飾に用ひた模様や織物等がありますが、私共日本人の趣味から申しますと、アラベスク模様は餘りに複雑華麗すぎると思はれます。

この時代の特性は文化漸く啓け東洋と西洋の混交を見出す事が出來ると同時に、宗教的完成に近附き「標準」が出來た様に思はれます。

家具史と云まものは建築史と共に進化發展するものであるので、建築史を離れて家具を研究する事は不可能でございます。



7.

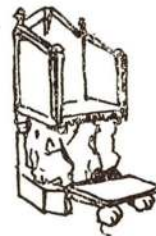
で、この時代の家具は、屋根の先が尖り、小さい窓から僅かに光線が流込む室に敬虔な姿で祈る僧侶の爲の家具が代表して居ります。

(第4、第5、第6)

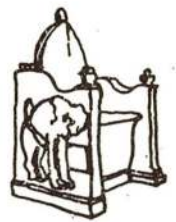
そしてこの暗黒時代を過ぎますと家具史も未明から曙になつて來て、伊太利は伊太利、ドイツはドイツと次第に家具の特性が民族の種々特色を現はして來るのでございます。西歴紀元七百年で、家具の曙が迫つて參りました。

ではロマネスクの家具の部分的に説明致します。

前述の様に現存する家具は、すべて石材製ですが、當時は木材製のものがあつた事は色々の理由で判明し



カテドラ



カテドラ

8.



法壇盤



法壇盤

9.

て居ります。

戸棚は(第7圖)挽き割つた板^{ホル}を筈でつなぎ合せ、木や鐵の楔で止めて作りました。

當時は釘又は捻釘が出来て居りませんでしたので、全部鋸止めで作りましたので、蟬番で堂々と裝飾され錠の帶金が扉を押え居ります。

戸棚類では^{ツツア}簞^{ツツア} 筒^{ツツア} 脚附戸棚^{ツツア} 皿棚(膳棚)等がありまして、全部木材製であつたと思考致します。

椅子は、CHAIRÈS 又はシエール英語の chair でこれは家の主人又は來客の席としたものです。

椅子の中で寺に使用したものを、^{カテドラル}僧正椅子(CATHEDRA)(第8圖)があります。現代のカテドラル英語の

cathedral chair と同じです。

寺院内の家具を總稱して寺院家具(AMBONS)と申します。

又、特長のあるものに洗禮盤がありまして、現代では洗禮は形式的に水を掛ける程度ですが當時は洗禮盤は現代のよりツツと大きく深い桶状をして丸形四角形長方形と色々ございました。(第9圖)

唯再三申上げる様に石材のものだけが原存して居り、それも寺院關係のものゝみが多いので、家具史中の最も種類の少い時代でございます。

これでビザンチン、ロマネスクを終り次編はゴシックの家具を申上げます。

防空建築に就て

富田 清

1 防空の方策

我が開闢以來外敵を國內に領土内に一步も入る事を許さなかつた。その恩澤を受けてか、神國日本の名に於て我が國民は餘りにも外敵を侮り過ぎては居ないだらうか言ひ換へれば餘りにも戦争に無關心ではなからうか。現今の戦争それは、最早や昔の人對人の戦ではなく航空技術に依る立體戦へと展開して行つて居る。今日の戦では、如何に一國の兵隊が勇猛果敢にして、卓越せる空軍を有するも一機をも國土上に飛翔することを許さぬ事は先づ不可能と考へられます。されば斯うした狀況と、航空力を如何にして防いだならば國民は安緒とした氣分で明日への生業に活動を行く事が出来るだらうか。防空には二種の方策が樹てられて居る、即ち積極的方法と消極的方法とがこれである、この積極的方法とは先づ敵に先じて敵の根據地を爆

破する事に依つて、敵の出鼻をくちき空襲をして不可能ならしめる事、他には國土外に於て戦ひを交へて敵機を國土内に入れざる事とあるが、これも容易の事でない。これに反して消極たるや敵の空襲するであらうと考へる、大都市主要地點に種々の設備を設けて國內に或は都市に侵入する敵機を防ぐ方法でこれは多種多様の機械に方法が論じ考案されて居るが、これは到底完全に防ぐことは出来ない斯く、如何ともし難い今日一度敵の飛行機に見舞れたなれば焼夷彈に瓦斯彈に必ず威力を發揮されて、榮華を極める都市も街も焦土と化してしまふ。

斯うした慘狀を對して近代都市が備へねばならぬ防備は、先づ都市を構成する建築物に就いて完全に近い防備を施さねばならぬ。之に平行して監視哨、サイレン網、通信機關の完備及水道、瓦斯、電氣施設の安

全確保、はては消火栓貯水槽、水源等の防火施設の裝備は充分實行されて居らねばならぬ。我國の近代都市を底徹して見るに、その90%までが木造建築である。この都市が一度空襲されたならば見る見る中に焦土と化してしまふ事は擬ひもない事である。この悲慘を逃がれる爲めには先づ木造建築を燃へない様にしなければならぬ。即ち防火建築等に改める事に依つて救はねばならぬ。各人が各人の家を防火施設にする事に依つて都市の防火を施さなければならぬ。現に眼の邊り見る支那の煉瓦建築の燃焼するが如きものがないにも拘らず、其の被害はニュース等で見られる通りである。斯うした現地を見ると、先づ防空建築を國內主要都市に行き渡らせ度い。これに關しては先年來建築學會がタクトを取つて防火改修を各地に施して、これが實績を計つて居る。この眞意と空襲の凄さを考へて用意周到なる防空建築を防火改修を實施して置き度いものである。

2 防空的都市計畫

都市の構築施設は都市計畫の内容を爲すものである。されば都市が敵機の空襲の被害より免るゝ爲めの施設は、都市計畫の重要な事項である。斯うした重要性を有つて來ればこゝに生ずる事は防空的都市の計畫がある、防空的計畫都市計畫は主として都市の疎開と主要施設の分散並に都市形態に就きて考察せらるゝ様に思ふ。

我國都市に於ては爆彈、焼夷彈、瓦斯彈の夫々に及び、其の同時的被害に對して我國木造都市の脆弱性の神強、対策を忘れては防空都市計畫は有り得ないことを強く思はねばならぬと思ふ。

今これを外國に就きて見るに、獨逸に於ては防空的理想都市の提案が1933年ハンスシヨツスベルガーに依

つて爲されて居ります。そしてボー
ルヴェオルフの工業地域の分散居住地
域の衛星都市への移行衛星都市内の
街路方面を考慮したる自然消毒都市
の密度減少を紹介し、ポーチエの高
層建築化に依る摩天樓都市を賞讃し
ル・コルビジエーのアルヂュの建築
計畫を示して理想都市の形式を述べ
て居ります。それに依ると、(1)都
市の密度減少(2)放射線型の都市
擴大(3)放射線型中心地の高層建
築化を一面承認すると共に此の欠點
が飽まで中樞地區の存在に有りとし
之に代るに、中樞地區を分散するシ
リウチンの帶狀都市の利點を述べて
居る。

又既設都市の改造にはクネルラー
の唱へる集合切線、即ち現在交通網
の中に少しの短かい交通線路を設け
都市の遠距離交通及び全高速交通と
一つの集合切線に總括し、この附近
地に高地帯に狀都市を設け其の中間
には連絡せる自由空地帯を存置する
ことに依り、既設都市を漸次に改造
せんとする試みを推賞して居る。斯
くの如く都市計畫の重大性を考ふる
とき都市計畫と地方計畫、防空とは
切離すべからざる關係にある事を銘
記せねばならぬと思ふ。

3 防空建築の實狀を見て

我國に於ける防空建築の實狀を見
るに、其の施設設備に未だ幼稚なる
域を脱せず、實に心細い至りである
が、幸にして事變以來防空建築の意
がいよいよ活潑に現れて來、先づ防
空には防火改修より足を進めねばな
らないと云ふ見地から、主要都市に
於て改修工事が實施され來た筆者が
見分せる、東京金澤町の防火改修は
先づ市民をして覺醒に又實物見本に
よき手本を示せるものとして吾等は
迎へてゐる。然し防空建築法規の制
定に依つて今後の建物は着々堅實な
防空建築に發展して行く事と思ふが
改修に關しては今後にまつものが有

と思ふ。現下の處耐火木材、耐火
塗料の眞價が國民は徹底していない
様に思ふ。これは業者をしてもつと
理解せしめる必要が有ると思ふ。こ
れと同時に改修の要領を施工に當る
當事者にうんと理解せしめる事も他
面必要なる事と思ふ。

だが一方高層建築の如き空襲に際
して、先づ以て對稱に置かれるもの
が案外この方面の事に考慮が拂はれ
て居ないのは心細い事である。斯う
した建物は一日も早く當建物の所有
する地下室、或は適當の空所に建物
中に勤務する人を收容し得るだけの
用意と施設を完備して置かねばいけ
ないと思ふ。工場建築の現狀を見る
に、これも舊套を踏んだ集中式の建
物に依つて居る、これは一度空襲さ
れたなれば實に慘たるものとなるに
相違ない。斯うした建物の取るべき
建築法としては先づ分散疎開の様式
に依つて建築せねばならぬと思ふ。
森林地帯の利用、擬裝等今後に残さ
れたる問題と考へます。

4 煉瓦建築と空襲

煉瓦構造は補強を施さないからに
は非常に脆い事は周知の事と思ふ。
支那の如く木材に乏しい國では、煉
瓦で建築をする方が遂かに安價な建
築費ですむ、然も中には日乾煉瓦で
構造した家など澤山有ります。こう
した煉瓦構造の家を建築するに際し
て煉瓦と煉瓦を漆土食で積んで行き
補強と云ふ事を考へませんが之は勿
論地震力と云ふ事を考慮に入れない
處の工事であり、こう云ふ非常に簡
略な施工を以て行つた建築物だけに
一度空襲に見舞られるとその破壊の
度は非常なもので、殆んど影を認
める事が出来ないものになります。
爆彈に依つて破壊されるのは極處的
であるが、之に依つて起る振動力の
影響で目地から目地へと目地割れが
して破壊されて居ります。煉瓦建築
であるから燃焼物は殆んどないの

にも拘らず相當の火災を伴ふて居り
ます。斯うした見地から考察するに
木構造建築の如く、焼夷彈に依つて
きへ穴があくものであれば至極く簡
單に片付ける事が出来る、然かも建
物全體が燃焼物で構造されて居れば
非常によく燃へる。今一機が見當も
なく落したものが人家に當つたとす
れば、その家は忽ち發火する發火す
ればその家を中心として圓形に四周
が明るくなる。この明るい處と暗い
處との限界に更に一つを落せば、更
に擴大すると云つた様に、これを繰
返す事に依つて全焼に歸せしめる事
が可能であるとすれば一層緊要して
防火建築を施す事が必要になつて來
る。斯く火災の影響が不燃性の煉瓦
建築できへ可成り大であることを考
へれば、木構造の國民たる吾等は一
層これが改修に拍車をかくべきだと
思ふ。

5 支那に於ける防空建築

支那の建築は前にも云つた如く殆
んど全部が煉瓦建築であるから、一
度空襲されたなれば直接命中した建
築物は勿論の事、この振動に依つて
邊り一面に破壊されて居る。斯うし
た事を自覺してか防空と云う事には
可成り神經を鋭らし、特に擬裝に對
しては相當考慮されて居る某地に於
ては、斑點式色彩を以て街全體を擬
裝して居る、他處に於ては工場を分
散疎開式に建設してあるものも見ら
れ中には、全都市の建物をドス黒く
塗りつぶしたのもあれば、高層建
築の露臺(バルコニー)の上部に竹を
一面に張り廻らし、敵機より其存在
を擬裝すると同時に、爆彈の飛來を
考慮したもの等種々實狀を見分した
特に氣の引かれたのは防火壁の設備
である支那の建築は煉瓦建築で防火
と云ふ點は餘り重き置く必要を感じ
ないにも拘らず、支那國家の幹部で
は防空と云ふ事に先立つて防火と云
ふ様に考へたらしく町と云ふ町には

どこも一様に大きく或は小さく防火壁らしいものを造つて小ブロックに對しての防火設備を施して居る事は意外であつた、たが未だ防火塗料を以て施工したものは見られない。

6 防護室及防空壕

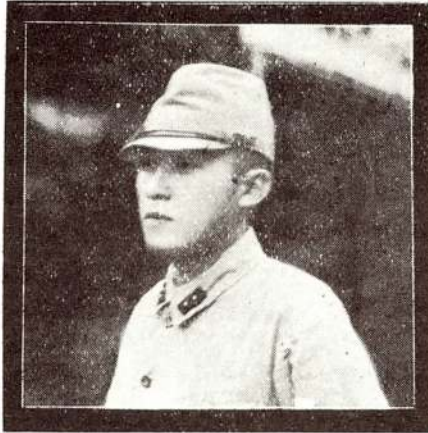
建物そのものゝ残存するものが少数であるから、防護室の實物狀況をはつきりと見る事は出来ないが、然し僅かに残る建物に就きてこれを見學するに支那に於ける高層建築は勿論の事、普通一般の建物に就いても可成り整備された防護室を見る事が出来ます。高層建築は各階に従事す

る人々は一度空襲のサイレンが報ぜられれば直ちにこの防護室に避難出来る様である、昔日の面影が偲ばれます。地階の防護室の設備は通風抗防毒扉にその整備された残骸を見る事が出来ます。防空壕は防護室に比して遙かに多数を見る事が出来ます先づ何處の街にも部落にも各個人の家にも徹底した防空壕が設備されて居ります。一番多い様式としては掩蔽型の地下式を採用して造られて居ります壕中には對面式に坐席を設けて、長時間も堪ふる如く考慮を拂ひてある横道は殆んど全部が煉瓦に

依つて横造され、掩蔽部は五〇釐内部の高さは2米位にして一個宛りの收容人員20人乃至30人位收容出来るものもあれば10人位の小規模のものも有る、都會地を離れた地方のものは堀土5立方メートル土45立方メートルの横道を以て造られて居る、これらの總べて掩蔽部は草を生へて上部よりからの偵察を擬する事に意を向けてある斯うした實狀を見學して今一層日本國民の防空への認識を深めて置かねばならぬと思ふ。この使命を徹底理解せしめるのが銃後の建築家に架せられた守りであると思ふ。(以上)

7月號掲載記事中城戸久氏執筆「近世日本城郭に於ける防備的施設」中編輯係の取扱不注意から圖版と説明の相違がありましたので執筆者城戸久氏の御注意に依り下記の通り正誤相表掲載致しました悪しからず御諒察願ひます。

正 誤 表		
頁	誤	正
12	カット寫眞番號なし	13. 彦根城
"	脱落	10. 松江城
14	4. 丸岡城	5. 丸岡城
"	5. 上野城	4. 上野城
15	7. 名古屋城	8. 名古屋城
16	8. 松江城	7. 松江城
17	10. 大垣城	11. 大垣城



名 譽 の 戦 死 者

會 員

向 山 友 次 郎 兵 長

出 生 地 大阪府北河内郡門真町字門
真1198番地
昭和10年3月 西野田職工學校建築科卒業
同 14年4月 日本電建株式會社に入社
同 年 4 月 日本建築協會會員に入會
同 年 6 月 出征
同 16年4月4日 北支方面に於て戦死



會 員

從 七 位

朝 永 國 次 郎 氏

昭和16年8月5日會員朝永國次郎氏病を以て長逝せらる。洵に哀悼に禁へず茲に照肖と略歴を掲げ謹みて弔意を表す

1.氏は明治12年6月14日佐賀縣杵島郡江北村大字上小田に生る

1.明治40年6月金川工務所に入所

1.同 43年4月土木建築請負業自營

1.大正3年4月大阪府立今宮職工營

校教諭に任ぜらる

1.同12年4月再び朝永建築工務所自營今日に至る

1.昭和16年8月5日午後11時55分心臓病にて逝去享年63歳

常 務 會 (第14回)

時 7月15日午後6時10分—9時15分

所 陳列場

出席者 理事 井上副會長、今林副會長

常務 北垣主記、中西主記
芝田主計、松久保主計、大下編輯、小林編輯

議 事

- 1 建築新體制に關する對策の件
- 2 記念事業に關する件
- 3 建築標準用語に關する件
- 4 編輯幹事會より幹事委囑方要求の件
- 5 雇採用に關する件
- 6 會員詮衡

報 告

- 1 記念事業經過報告
- 2 建築聯合協議委員會經過報告

3 出征、應徵報告

常 務 會 (第15回)

時 8月4日午後(後20分)—8時30分

所 陳列場

出席者 理事 今林副會長

常務 池田主記、北垣主記
玉置主記、中西主記
藪中主記、桐本主計
芝田主計、松久保主計、大下編輯、小林編輯、増井編輯

議 事

- 1 創立25周年記念事業幹事會設置並に幹事委囑の件
- 2 新體制委員會各部會專門委員委囑の件
- 3 雜誌廣告取扱ひに關する件
- 4 雇採用に關する件
- 5 會員詮衡

報 告

- 1 高島屋百年史寄附受付の件
- 2 6月分會計報告
- 3 16年度第1回會計檢査終了報告
- 4 記念事業經過報告
- 5 出征、入營、應徵、除隊報告

都市武裝促進幹事會(第6回)

時 7月21日午後6時—8時
所 陳列場
出席者 幹事長 池田
常任幹事 井上
幹事 大野、玉置、谷
寺岡、樋口、的場
吉田

- 1 空防講演會開催に關する最後の
檢討

記念事業住宅展幹事會(第1回)

時 7月14日午後6時—8時
所 陳列場
出席者 幹事 岩佐、岡田、岡部、
小林、島田、鈴木、
中西、増山、松久保

- 1 幹事長互選の件
中西六郎氏當選
1 設計圖案懸賞募集の件
1 現場視察の件

創立25周年記念事業幹事會(第1回)

時 8月11日午後6時30分—8時
所 陳列場
出席者 幹事 井上、今林、岡田、
須賀、中西、富士岡
松久保、松本、藪中
山脇

- 1 幹事長互選の件
井上新二氏當選
1 常任幹事互選の件
幹事長に一任
1 記念事業内容檢討の件
1 資金募集の件

建築新體制各部會(第1回)

時 8月12日午後6時—8時30分
所 アラスカ別室

- 1 各部會主査並に幹事互選の件
下記の通り夫々當選
第一部會(官廳行政)
主査 玉置豊次郎氏
幹事 竹内佐平治氏
第二部會(官廳營繕)
主査 川口一 二氏
幹事 伊藤和夫氏
第三部會(設計業務)

主査 池田 實氏

幹事 池田谷久吉氏

第四部會(施工業務)

主査 渡部 圭吾氏

幹事 伊東宗太郎氏

第五部會(建築團體)

主査 松本 儀八氏

幹事 谷 民藏氏

第六部會(學校關係)

主査 坂 靜雄氏

幹事 篠原 太郎氏

第七部會(建築材料)

主査 佐藤正次郎氏

幹事 奥村重兵衛氏

第八部會(設備關係)

主査 淺海 治平氏

幹事 城口 龜吉氏

材料委員會(第14回)

時 7月24日午後6時40分—9時
所 陳列場

出席者 委員長 松久保
幹事 楠瀬、柳
委員 後川、蘭部、前野
道田

- 1 木材品等規格最後の檢討の上決
定

會 員 動 靜

入 會

會 員

黑田 忠雄君 此花區上福島北3ノ
131(宇賀工務店)

時田泰三郎君 住吉區平野政所町1
ノ4(完建研究所)

村岡 正義君 三島郡高槻町字別所
173

太田 平司君 天王寺區眞法院町13

地方會員

稻生 秀三君 東京市杉並區天沼1
ノ234(東京鐵道局工
務部建築課)

小關 雅也君 東京市淀橋區角管1
ノ755(東京鐵道局工

務部建築課)

小松 郁雄君 東京市蒲田區本蒲田
3ノ15ノ1森方(東京
鐵道局工務部建築
課)

茂泉 徳男君 東京市江戸川區平井
3ノ1312 松本定吉方
(東京鐵道局工務部
建築課)

粒良 秀雄君 東京市麴町區丸ノ内
1(東京鐵道局工務部
建築課)

野上 隆君 東京市大森區馬込町
東1ノ1442(東京鐵道
局工務部建築課)

野末 寛君 東京市世田谷區北澤
1ノ1151(東京鐵道局
工務部建築課)

横溝 金吾君 東京市目黒區下目黒
1ノ5(東京鐵道局工
務部建築課)

特別賛助員

岸本 忠君 東成區北生野町2ノ
92(宇賀工務店)

正田徳太郎君 北區管原町114 東洋
理化學工業所(東洋
理化學工業所)

三笠 一司君 西淀川區大仁西1ノ8
(科學工業新聞社)

吉井元太郎君 西淀川區百島町62 昭
和コンヂット株式會
社(昭和コンヂット
株式會社)

田中清之助君 浪速區船出町1ノ18
(塗裝請負業)

普通賛助員

小池 義一君 豊能郡箕面村平尾
427(第一相互株式會
社)

塚本 新司君 旭區古市北通3ノ11
(第一相互株式會社)

岩崎 岩吉君 北河内郡住道町901
(大阪陸軍造兵廠技
術課營造掛)

柴田 國夫君 東成區猪飼野5ノ10

(株式會社奧小路鐵工所)

退 會

會 員

進木孝太郎君、吉川平君、井川豐治郎君、龜川久君

地方會員

久芳一雄君、平川眞實君、前原大二郎君、大石多聞君、濱野三郎君、細川義夫君、三輪文雄君、八卷信雄君

特別贊助員

澤田四郎君、德田英人君、松島潤治郎君、淺野欽治郎君、後藤榮次君、廣瀬新市君

普通贊助員

大倉荒吉君、二宮諒君、渡邊辰之助君、上田喜三郎君

轉居・轉勤

會 員

懸山 良雄君 佐世保市上佐世保驛
前佐世保海軍建築部
第一職員宿舍

谷口 幸一君 朝鮮清津 府浦頃町
242青木組支店內

菅原 徹郎君 (勤務先)住宅營團大
阪支所建築部工務第
二課

小須田雅之助君 佐世保市大和町
1079

伊藤 敏勝君 西淀川區大仁東1ノ
34

稗田 治君 名古屋市千種區田代
町仲田16 ちぐさ莊

畑 實君 東京市麴町區飯田町
2 菊田方

友淵 善信君 (勤務先)京都市營繕
部

脇本 茂君 (勤務先)大阪市立難
波工業學校

矢木 英夫君 (事務所)天王寺區上
汐町3ノ43(日新商會

内

古林 秀雄君 豊中市櫻塚本通5ノ
53

鬼武 信夫君 (勤務先)住宅營團大
阪支所

内山吉太郎君 住吉區平野京町1ノ
41

西山 卯三君 東京市澁谷區代官山
アパート18號

小柴 秀隆君 新潟縣北浦原郡赤谷
村上赤谷

小島 正藏君 東京府西多摩郡青海
町小島光藏方

辻本 勇君 奈良縣吉野郡秋野村
大字立石64

中村 篤君 神戸市須磨區西代下
西ノ谷11番屋敷

瀧 龜治君 池田市字東市場5 丸
龜幸一郎方

植田正三郎君 旭區守口町小春北町
23

西岡 清君 三重縣阿山郡新居村
西村西岡重男方

中村 盈文君 北區南扇町水道部技
術課

堀川 竹雄君 神戸市須磨區舞子字
仲ノ町1343

木村 精一君 東京市豊島區巢鴨6
ノ1303木村令造方

大下順三郎君 住宅營團大阪支所建
設部工務第一課
(勤務先)

岡田幾太郎君 吳市吾妻町吳海軍建
築部吾妻宿舍内(吳
海軍建築部)

後藤 四郎君 豊中市櫻塚元町3ノ
16

中村 篤君 臺中市千城町臺灣軍
經理部臺中出張所

山際 光三君 住吉區墨江東5丁

白井房五郎君 豊中市麻田1370ノ1

神保 勇三君 兵庫縣川邊郡川西町
久代1番地

小室千代松君 東京市杉並區下高井
戸2ノ591

地方會員

青木 太一君 富山縣婦負郡細入村
榆原東洋アルミ榆原
工場内勝呂組出張所
内

吉田 孝君 名古屋市千種區田代
町仲田16ちぐさ莊
(住宅營團名古屋支
所建設部工務課)

四日 健夫君 滿洲富拉爾基滿洲第
584部隊氣付滿洲156
部隊

布施 潔君 岡山市伊福東町669
ノ1

鹽崎 麿治君 千葉縣市川市八幡
704

藤野周次郎君 池田市字千本1180
大林組池田出張所

關原 猛夫君 水戸市西町678

前田 敏男君 新京特別市大同大街
大陸科學院建築研究
室

伊勢村四郎君 滿洲國三江省佳木斯
滿洲第412部隊

中村 四郎君 東京市板橋區上板橋
町1ノ149(軍事保護
院工務課)

古谷 仁君 新京特別市櫻木町第
49號(第1土建株式
會社)

小西 武雄君 旭區南島町834ノ19
山縣覺太郎君 東淀川區下新庄町
592 大植健至方(住
宅營團大阪支所)

澤島英太郎君 新京特別市寬平大路
北辰寮130號

(新京特別市大同大
街建築局總務處企畫
科)

西村 隆君 朝鮮釜山府湓仙町
476(朝鮮釜山府總營
繕係)

森 茂樹君 東區上本町4ノ610
木村組内

藤島哲三郎君 新京市大興路第7代
用官舎1號

根來 弘君 和歌山市今福203 中
川孝方
有田 桂太君 上海秋思威路浙興里
13號
瀧石 一夫君 北京内1區羊尾巴胡
同4號 福高組内
油 清治郎君 北河内郡守口金下町
2ノ25
眞壁 博君 奉天市公署行政處住
宅料(勤務先)
長谷川富二郎君 名古屋市中區徳川
町7の23
梶 正治君 臺灣高雄州鳳山街竹
子脚臺灣軍經理部監
督員詰所
坪川 忠君 佐世保市山中町755
中川茂一郎君 北河内郡友呂岐村大
字郡80(大阪役所
分廳舍内建築部第一建築課
内)
高橋 左門君 清津府内務課營繕課

畑 實君 西淀川區姫島町1736
井上福太郎君 吳市吾妻町2 海軍建
築部吾妻宿舍
伊藤 序收君 廣島縣江田島海軍兵
學校内鹿島組作業所
特別賛助員
中田 忠孝君 平塚府新里222ノ11
(淺野水道工業株式
會社平塚事務所)
五十嵐辰三郎君 兵庫縣芦屋市前田
53
福永 輝雄君 神戸市須磨區西垂水
區高丸
普通賛助員
篠内 幸雄君 大阪市社會部住宅課
高平 徳次君 石川縣河北郡宇ノ氣
村字日角
北條 正一君 北區玉江町1 吳海軍
建築部工事事務所
中 甚三郎君 東區大阪城内中部軍
經理部附(中部軍經
理部)

近藤 正男君 朝鮮京城光化門通總
督府會計課營繕第1
係
谷口 維郎君 住吉區桑津町239
柴田 耕一君 東京市蒲田區蓮沼1
ノ10
松本 秀雄君 兵庫郡飾磨郡花田村
小川橋西詰中島組出
張所内
山本 茂君 福岡市西部軍經理部
工務科(勤務先)
野村 順一君 京都市上京區塔之段
櫻木町403

死 亡

會 員
藤井 春三君 (昭和16年7月23日
逝去)
朝永國次郎君 (同年8月6日逝去)
(謹んで哀悼の意を表す)

空襲二備へヨ!

防空報國

工場用各種
完全遮光暗幕工事
特許モリノイト不燃板

有限
田中商會

本社 大阪市北區堂島船大工町二〇
電話北〇七二八六番
代理店 名古屋・京都・神戸・門司・京城

型錄進呈

建築と社會

第24輯 第3號

毎月1回1日發行 定價 1冊 50錢(郵税2錢)
12冊 6圓(〆24錢)
昭和16年8月25日印刷 昭和16年9月1日發行

發行・編輯 戸川 弘
印刷所 プラトン印刷社
大阪市西區江戸堀南通2丁目13番地
發行所 日本建築協會
大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル
電話長北濱(23)4501番(9)
振替口座大阪 39975番
日本出版文化協會會員番號222043
配給元 日本出版配給株式會社
東京市神田區淡路町二丁目九番地
特約販賣店 柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋西
電話土佐堀 2440番
振替口座大阪 2084番

禁 轉 載

本號に掲載せるものは一切これを無断にて
轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲
をなすことを禁ず。

●第二四集 第九号 掲載広告一覧（掲載順）

日本陶織

寧楽屋家具裝飾店

日本建築紙工

大阪窯業セメント

松下電気工業

南満鉱業建材

協和製作所

竹原文泉社

米本栄商店

ライトラバー

三菱商事

南満建材工業所

中野石材店

建築金物商会

平松釣戸車製造所

萩工業貿易